



取扱書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

MARK X



TABLE OF CONTENTS

目次

1	運転する前に	運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。 (ドアの開閉、シートの調整、チャイルドシートの取り扱いなど)
2	運転するときに	走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。 (エンジンのかけ方、メーターの見方など)
3	室内装備の使い方	室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。 (室内灯のつけ方、室内装備の使い方など)
4	お手入れのしかた	お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。 (内・外装の手入れ、電球の交換など)
5	トラブルが起きたら	故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。 (けん引について、警告灯がついたときの対処など)
6	車両の仕様	お車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。 (指定燃料、各オイル量、カスタマイズ項目など)
	さくいん	本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

1 運転する前に

1-1. キーの取り扱い

キー	24
----------	----

1-2. ドアの開閉のしかた、 ロックのしかた

スマートエントリー& スタートシステム	27
ワイヤレスリモコン	38
ドア	41
トランク	47

1-3. シート、ハンドル、ミラーの 調整のしかた

フロントシート	51
リヤシート	54
ヘッドレスト	58
シートベルト	60
ハンドル	68
インナーミラー	74
ドアミラー	76

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方

パワーウィンドウ	80
ムーンルーフ	84

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	88
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	92
---------------------------	----

1-7. 安全に

お使いいただくために

正しい運転姿勢	94
SRS エアバッグ	96
子供専用シート	105
チャイルドシートの 取り付け	114

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	122
エンジン（イグニッション） スイッチ （スマートエントリー&スタート システム非装着車）	131
エンジン（イグニッション） スイッチ （スマートエントリー&スタート システム装着車）	134
オートマチック トランスミッション	139
方向指示レバー	146
パーキングブレーキ	147
ホーン（警音器）	148

2-2. メーターの見方

計器類	149
表示灯／警告灯	156
ドライブモニター（常時発光式メー ター装着車）	160
マルチインフォメーション ディスプレイ（オプティロン メーター装着車）	163

2-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	167
フォグランプスイッチ	170
ワイパー & ウォッシャー (フロント)	171
ワイパー & ウォッシャー (リヤ)	177

2-4. その他の走行装置の 使い方

クルーズコントロール	179
レーダークルーズ コントロール	183
クリアランスソナー	197
運転を補助する装置	206
ヒルスタート アシストコントロール	213
PCS (プリクラッシュ セーフティシステム)	215
LED イルミネーションビーム	221

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	222
寒冷時の運転	224

3 室内装備の使い方

3-1. エアコン・デフォグガーの 使い方

オートエアコン	230
リヤウインドウデフォグガー (曇り取り)	239
フロントウインドシールド デアイサー	241

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類

(ナビゲーションシステム 非装着車)	242
ラジオの使い方	244
CD プレーヤーの使い方	246
MP3/WMA ディスクの 聞き方	251
快適に聞くために	258
ステアリングスイッチ	260
AUX 端子の使い方	263

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	265
-------------	-----

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧	268
--------------	-----

3-5. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー	277
バニティミラー	278
時計	279
アクセサリソケット	280
シートヒーター	281
アームレスト	283
リヤサンシェード	284
フロアマット	287
トランク内装備	289
アシストグリップ	290

4 お手入れのしかた**4-1. お手入れのしかた**

外装の手入れ	292
内装の手入れ	296
タイヤについて	299

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	304
ガレージジャッキ	307
エンジンルームカバー	310
電球（バルブ）の交換	312
ヒューズの点検、交換	322
キーの電池交換	330
ウォッシュ液の補給	334
エアコンフィルターの交換	336

5 トラブルが起きたら**5-1. まず初めに**

故障したときは	340
非常点滅灯 （ハザードランプ）	341
発炎筒	342
けん引について	344
イベントデータレコーダー	349

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	351
警告メッセージが 表示されたときは（マルチイン フォメーションディスプレイ装着 車）	355
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）	366
パンクしたときは （タイヤパンク応急修理キット 装着車）	376
エンジンがかからないときは	391
シフトレバーが シフトできないときは	393
キーを無くしたときは	394
電子キーが正常に働かないときは （スマートエントリー&スタート システム装着車）	395
バッテリーがあがったときは	397
オーバーヒートしたときは	401
スタックしたときは	404
車両を緊急停止するには	406

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(油脂類の容量と銘柄) 410

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 418

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 423

さくいん

略語一覧 426

五十音順さくいん 427

症状別さくいん 435

1

2

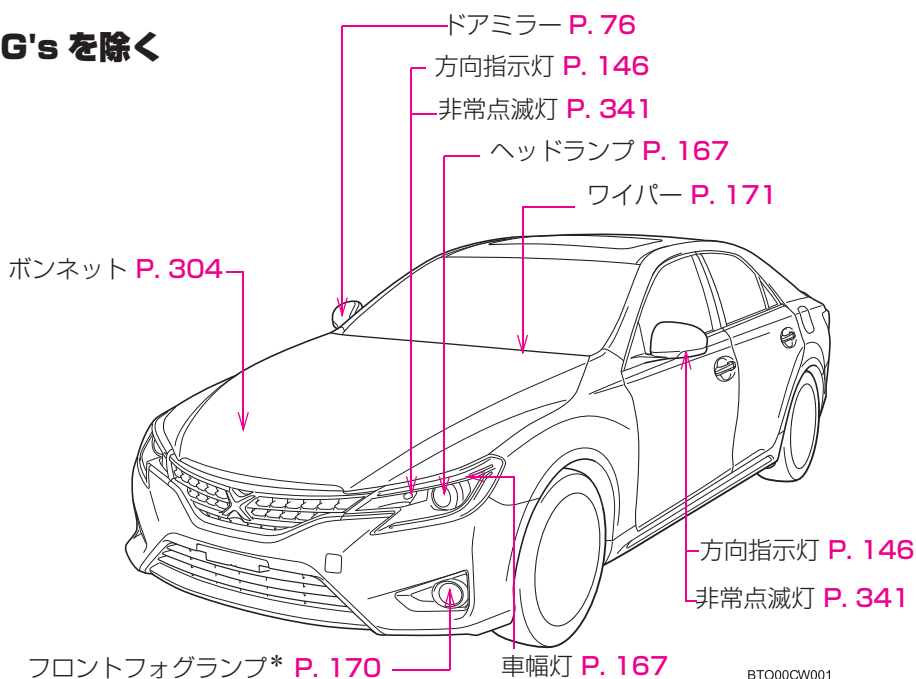
3

4

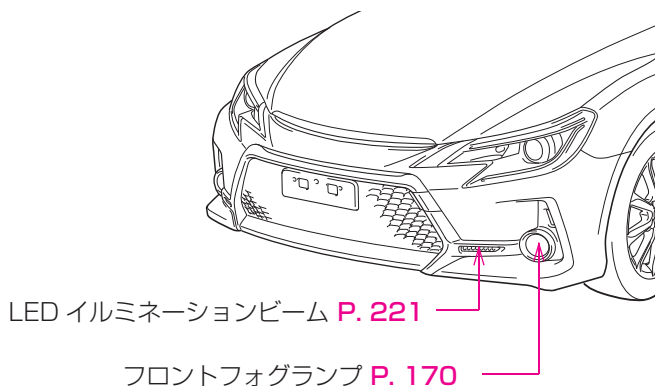
5

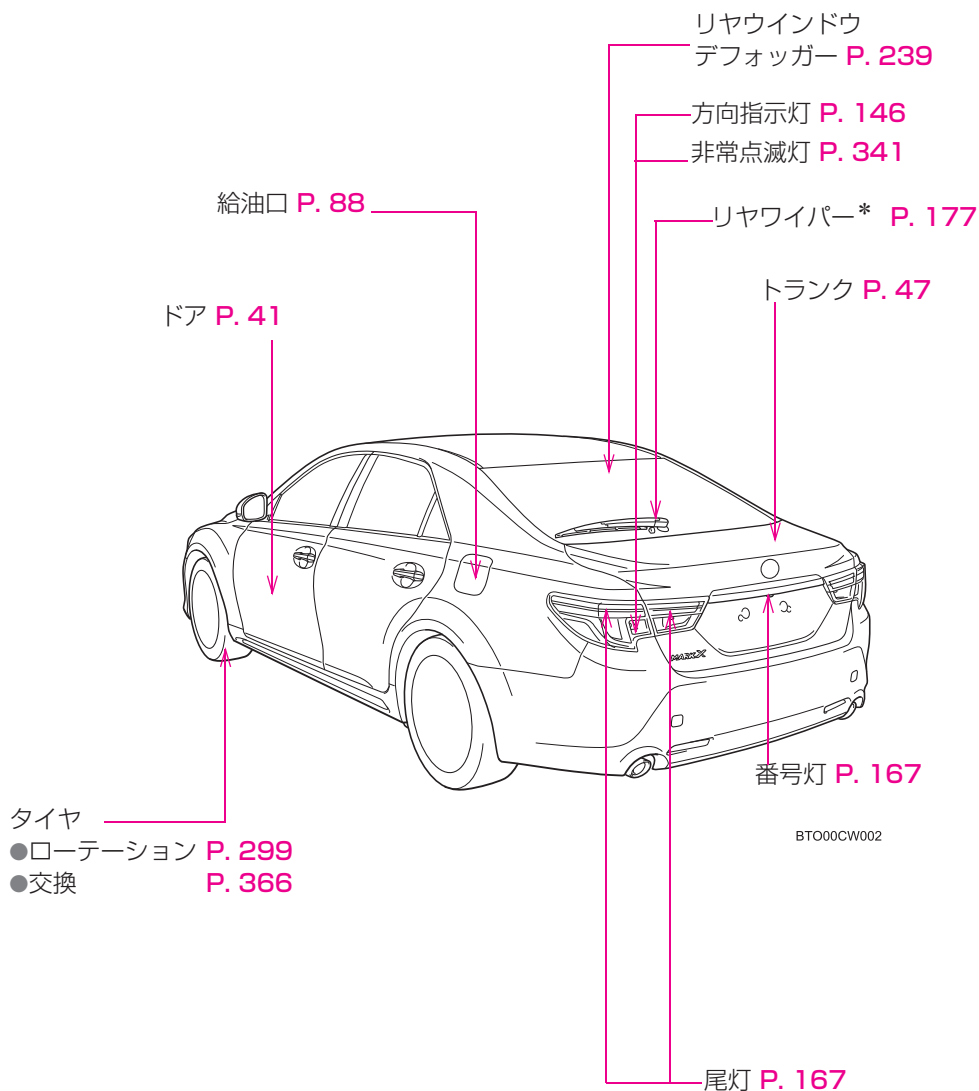
6

G's を除く



G's





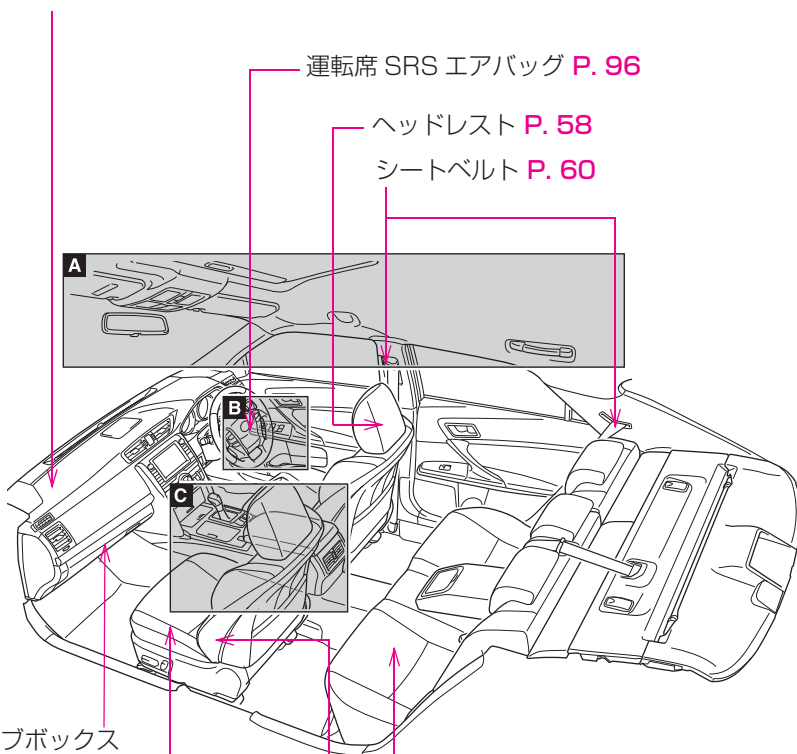
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

助手席 SRS エアバッグ P. 96

運転席 SRS エアバッグ P. 96

ヘッドレスト P. 58

シートベルト P. 60



グローブボックス
P. 269

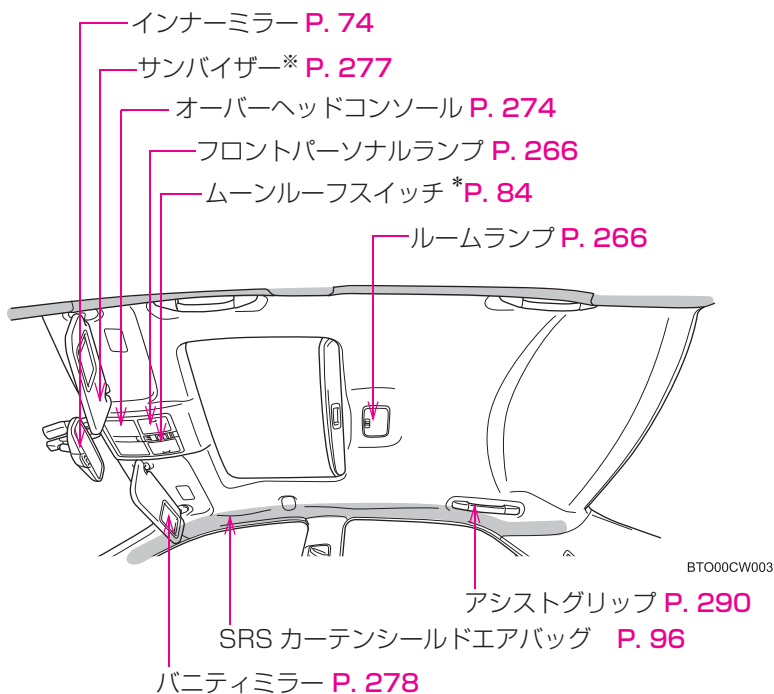
フロントシート P. 51

リヤシート P. 54

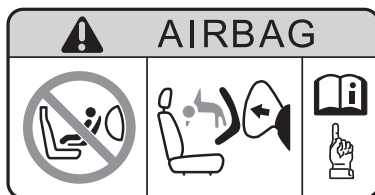
SRS サイドエアバッグ
P. 96

BTO00CN003

A

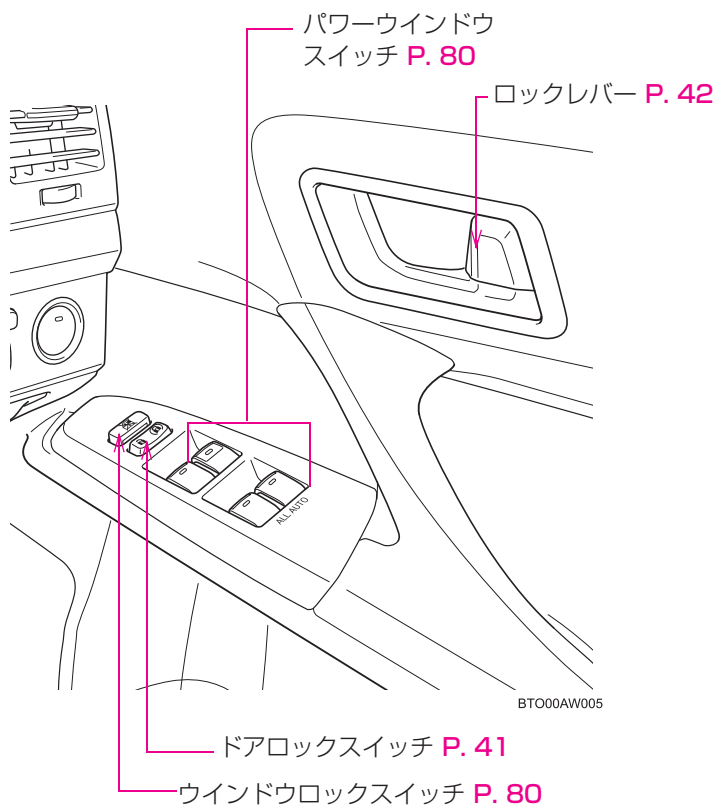


※：やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
(→P. 119)

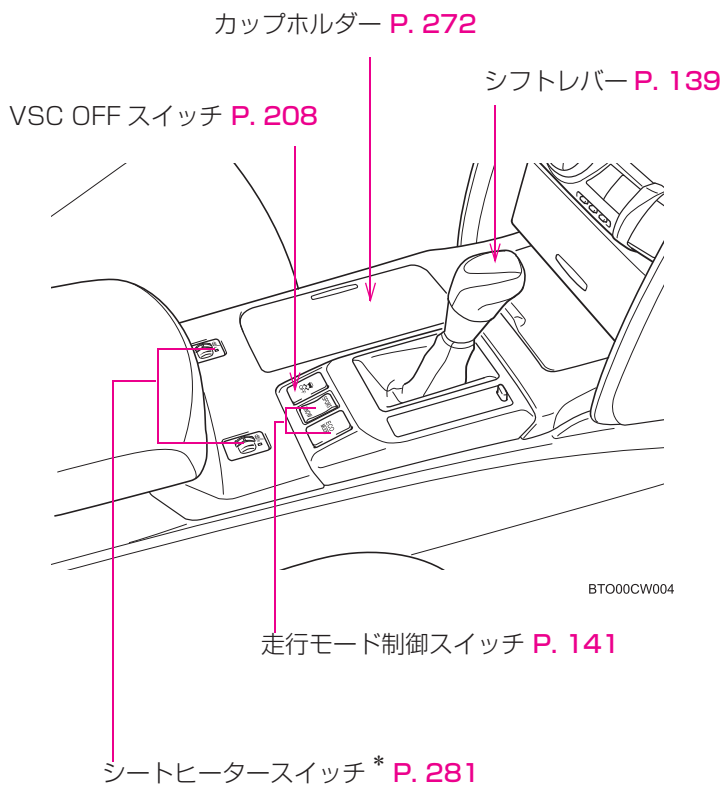


*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B



C



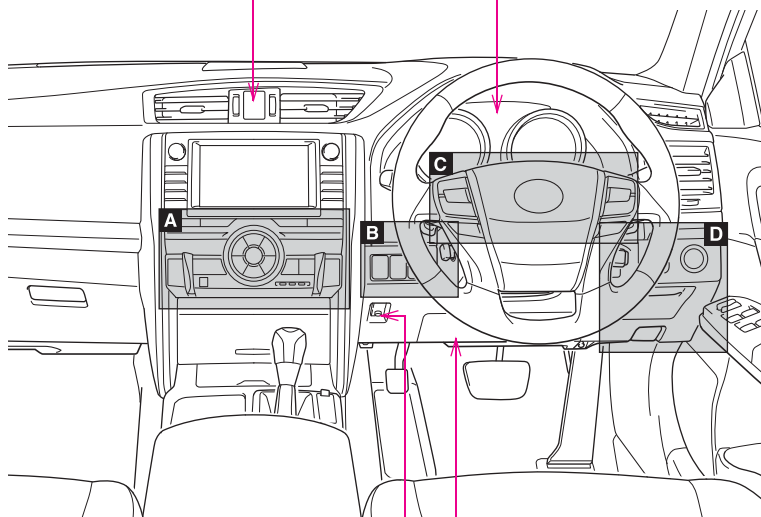
BTO00CW004

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

メーター **P. 149**

マルチインフォメーション
ディスプレイ* **P. 163**

非常点滅灯スイッチ **P. 341**



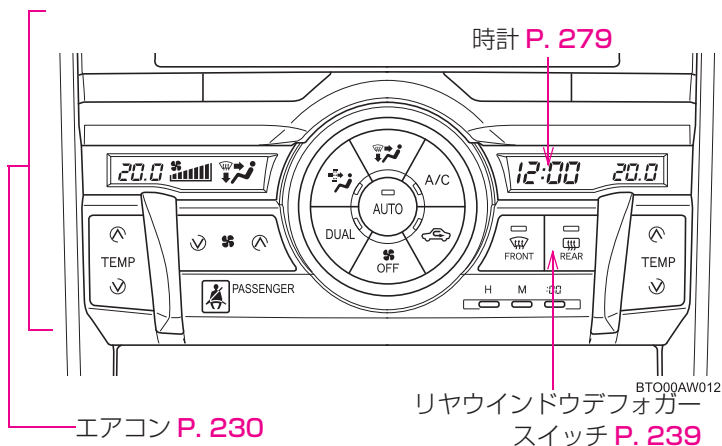
BTO00CW005

SRS ニーエアバッグ **P. 96**

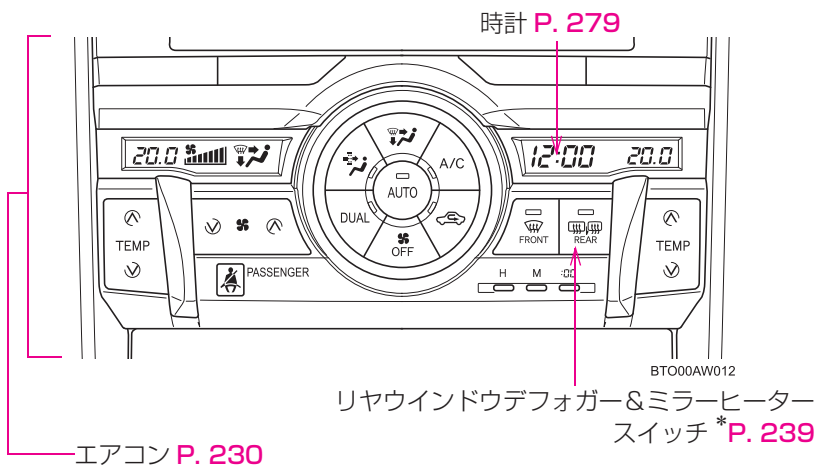
AFS OFF スイッチ **P. 168**

A

オートエアコン（ミラーヒーター非装着車）



オートエアコン（ミラーヒーター装着車）

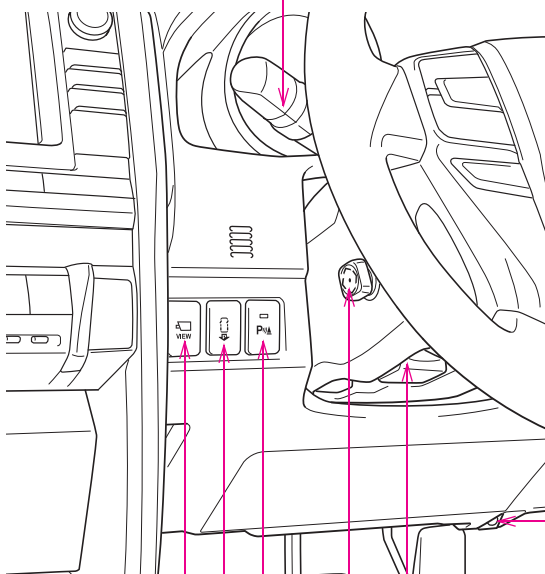


*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B

ワイパー&ウォッシャー
スイッチ **P. 171**

プリクラッシュブレーキ
OFF スイッチ * **P. 216**



サイドカメラスイッチ※

IPA(インテリジェントパーキング
アシスト) プレサポートスイッチ※

クリアランスソナー
メインスイッチ * **P. 197**

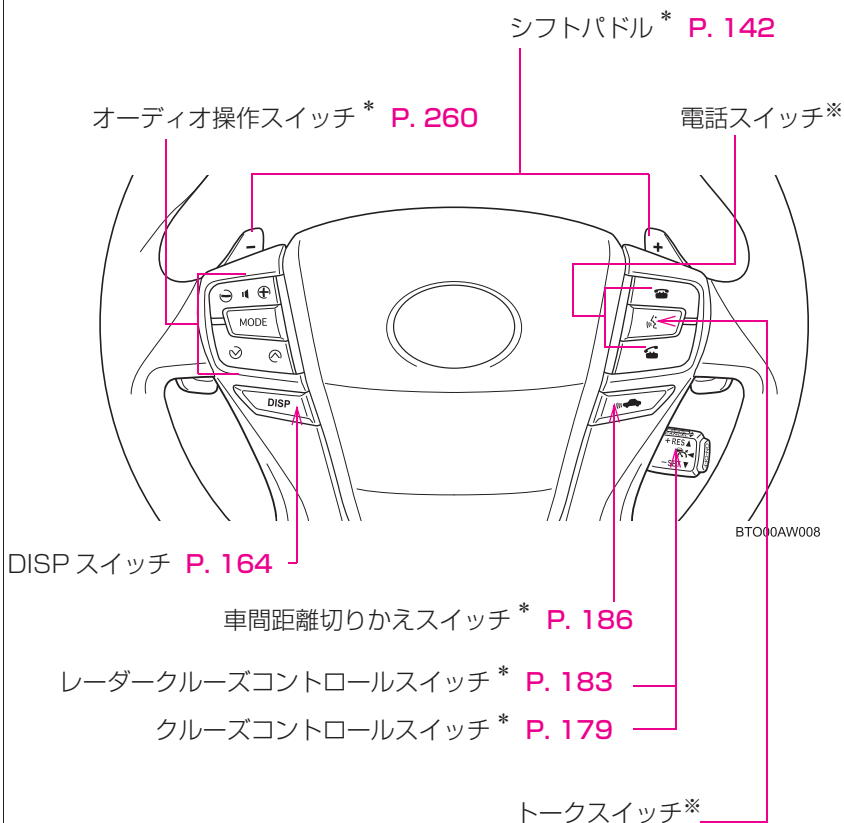
BTO00AW011

チルト&テレスコピック
ステアリングレバー *

P. 68

ハンドル位置調整
スイッチ * **P. 68**

C

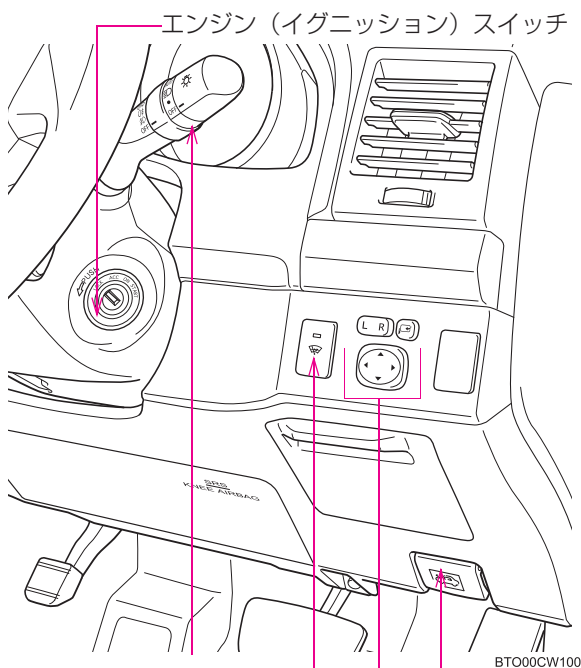


* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

D

スマートエントリー&スタートシステム非装着車



エンジン（イグニッション）スイッチ P. 131

ランプスイッチ P. 167

方向指示レバー P. 146

フォグラмп
スイッチ * P. 170

フロントウインドシールドデアイサー
スイッチ * P. 241

ドアミラースイッチ P. 76

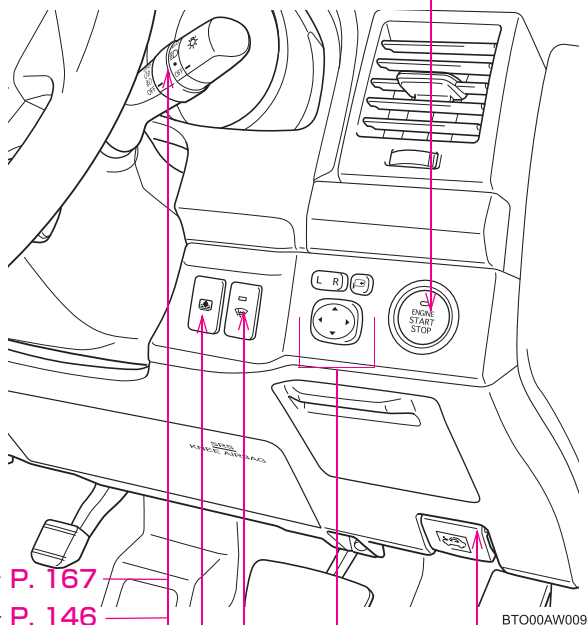
ボンネットオープナー P. 304

BTO00CW100

D

スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジン（イグニッション）スイッチ P. 134



ランプスイッチ P. 167

方向指示レバー P. 146

フォグランブ

スイッチ P. 170

LED イルミネーションビーム
スイッチ* **P. 221** —————

リヤサンシェード
スイッチ* P. 284

フロントウインドシールドデアイサー
スイッチ * **P. 241** —————

ドアミラースイッチ P. 76

ボンネットオープナー P. 304

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

車両データの記録について

お車には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが複数装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- ・ エンジン回転数
- ・ アクセルの操作状況
- ・ ブレーキの操作状況
- ・ 車速
- ・ シフトポジション

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。なお、コンピューターは会話などの音声や映像は記録しません。

● データの取り扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています。）

警告

■ お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター・発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」（→P. 114）をお読みください。

本書中の表示について

警告、注意、知識について

⚠ 警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠ 注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあります。

📖 知識

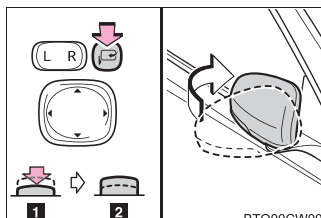
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

- ➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。
- ⇒ 操作後の作動（フタが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

1-1. キーの取り扱い

キー	24
----------	----

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた

スマートエントリー&スタートシステム	27
ワイヤレスリモコン	38
ドア	41
トランク	47

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

フロントシート	51
リヤシート	54
ヘッドレスト	58
シートベルト	60
ハンドル	68
インナーミラー	74
ドアミラー	76

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方

パワーウインドウ	80
ムーンルーフ	84

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方	88
---------------	----

1-6. 盗難防止システム

エンジンイモビライザーシステム	92
-----------------------	----

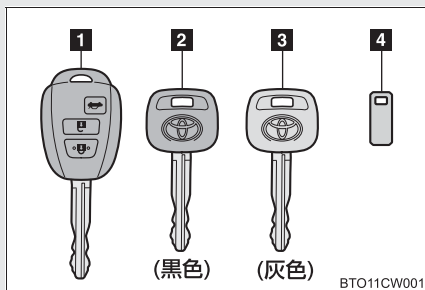
1-7. 安全に

お使いいただくために

正しい運転姿勢	94
SRS エアバッグ	96
子供専用シート	105
チャイルドシートの取り付け	114

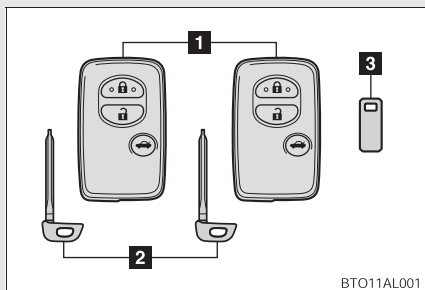
お客様へ次のキーをお渡しします。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車



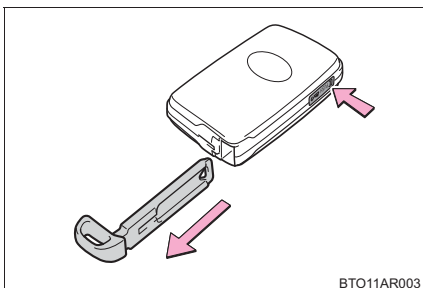
- 1** キー（ワイヤレス機能装着）
ワイヤレス機能の作動（→P. 38）
- 2** キー（ワイヤレス機能非装着）
- 3** サブキー
（ワイヤレス機能非装着）
- 4** キーナンバープレート

スマートエントリー&スタートシステム装着車



- 1** 電子キー
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動（→P. 27）
 - ・ ワイヤレス機能の作動（→P. 38）
- 2** メカニカルキー
- 3** キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 395)

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。

■航空機に乗るときは

航空機にワイヤレス機能装着キーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。



注意

■キーの故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所に置いたり、ぬらしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近付けたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。
- キーを分解しないでください。

■電子キーについて

電子キー・ワイヤレスキーは電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■キーを携帯するときは

電源を入れた状態の電化製品とは10 cm以上離して携帯してください。10 cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくときは

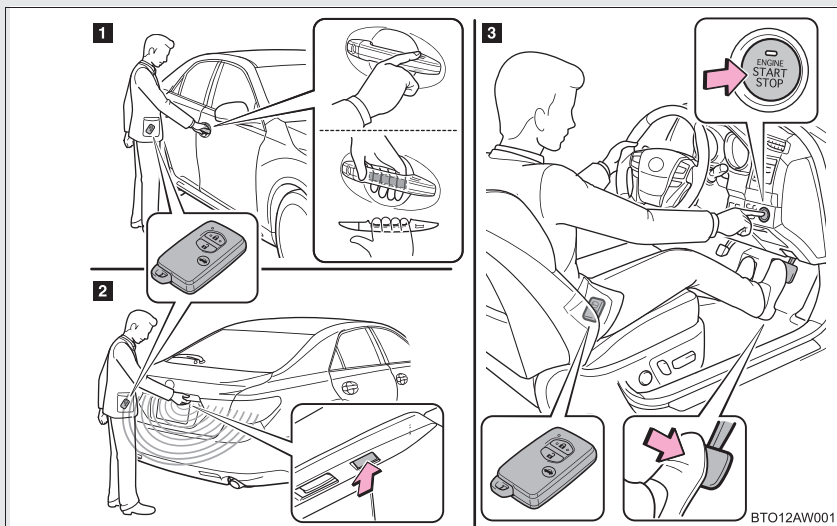
車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

■キーを紛失したときは

キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りのキーをすべてお持ちのうえ、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キーをポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)

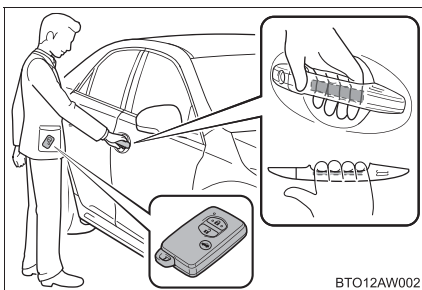


1 ドアを解錠・施錠する (→P. 28)

2 トランクを解錠する (→P. 29)

3 エンジンを始動する (→P. 134)

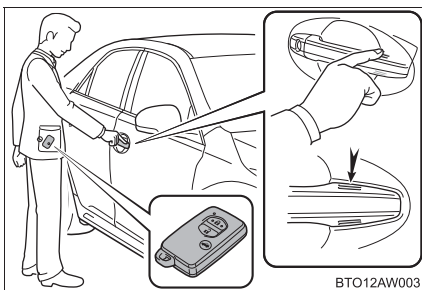
ドアの解錠・施錠（フロント席ドアハンドルのみ）



ハンドルを握って解錠する

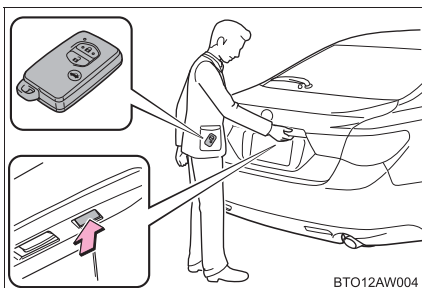
ハンドル裏面のセンサー部に確実に
ふれてください。

施錠操作後3秒間は解錠できません。



ドアハンドル上側のロックセン
サー部（ハンドルのくぼみ部）に
ふれ施錠する

トランクの解錠



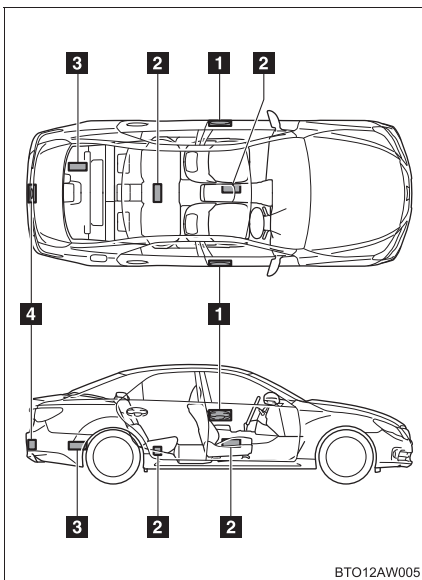
トランクオープンスイッチを押して解錠する

1

運転する前に

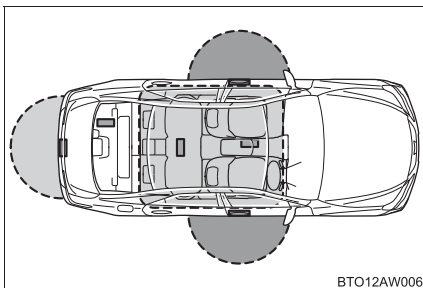
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



● : ドアの解錠・施錠時

フロント席ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

● : トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

● : エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチ切りかえ時

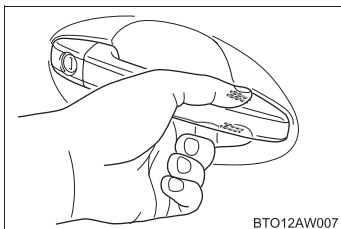
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(解錠は 2 回、施錠は 1 回)

■ ドアハンドル上側のロックセンサーで施錠できないときは



ドアハンドル上側のロックセンサー部にふれても施錠できないときは、上下のロックセンサー部に同時にふれてください。

■警告音と警告表示について

誤動作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P. 355）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と 鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・車の外約 2m 以内にスマートキーを 10 分以上放置した。
 - ・5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった。
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 395)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの解錠・施錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリアバンパー中央に近付きすぎた場合
 - ・エンジン始動時または“エンジン スタート ストップ”スイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤシート後方のパッケージトレイ上・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも解錠・施錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子キーが作動範囲内にある場合、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します）
- 車外アンテナの作動範囲内への急な接近やドアハンドル操作では、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■施錠時の留意事項

- 手袋を着けてロックセンサーにふれた場合、施錠が遅れたり、施錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてロックセンサーにふれてください。
- ロック操作は、連続で2回まで有効で、3回目以降はロック動作しません。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、解錠／施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 車内にキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにかけた場合、警報がマルチインフォメーションディスプレイに表示され、車外のブザーが吹鳴することがあります。その場合は全ドアを施錠すれば警報表示は消え、ブザーは停止します。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着した場合、センサーが反応しない場合があります。反応しない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作するか、ドアハンドル下部のロックセンサーを使って操作してください。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■ 解錠時の留意事項

- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 手袋を着けてドアハンドルを握った場合は、解錠が遅れたり、解錠されなかったりすることがあります。その場合、手袋をはずしてハンドル裏面のセンサー部にふれてください。
- キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、解錠／施錠動作をくり返すことがあります。その場合はキーを車両から 2m 以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください。（キーの盗難に注意してください）
- 作動範囲内に他の電子キーがあるときは、ドアハンドルを握ってから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。
- ドアハンドルを操作するときに、爪がドアにあたる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないよう注意してください。

■ 長期間運転しないときは

- 盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。（→P. 418）

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドアの解錠・施錠：→P. 395
- エンジンの始動：→P. 396

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。(→P. 364)
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・作動範囲が狭くなった
 - ・電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐために次のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを保管しないでください。
 - ・TV
 - ・パソコン
 - ・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・電気スタンド
 - ・電磁調理器

■電池が切れたときは

→P. 330

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 418)

**警告****■電波がおよぼす影響についての警告**

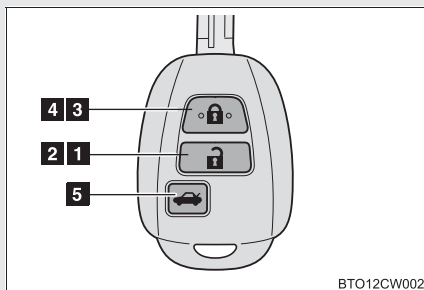
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 29）から約 22 cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくは販売店にお問い合わせください。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた ワイレスリモコン

ドアを解錠・施錠、トランクを解錠できます。

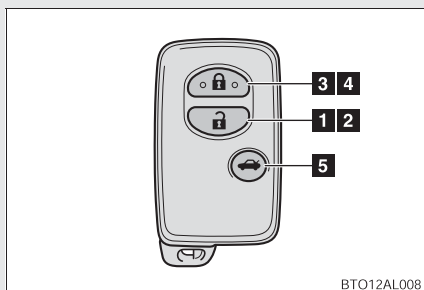
スマートエントリー&スタートシステム非装着車



- 1 全ドアを解錠する
- 2 ドアガラスとムーンルーフを開ける（押し続ける）※
- 3 全ドアを施錠する
- 4 ドアガラスとムーンルーフを閉める（押し続ける）※
- 5 トランクを解錠する（長押し）

※：トヨタ販売店での設定が必要です。

スマートエントリー&スタートシステム装着車



- 1 全ドアを解錠する
- 2 ドアガラスとムーンルーフを開ける（押し続ける）※
- 3 全ドアを施錠する
- 4 ドアガラスとムーンルーフを閉める（押し続ける）※
- 5 トランクを解錠する（長押し）

※：トヨタ販売店での設定が必要です。

 知識**■ 作動の合図**

ドア : ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（解錠は 2 回、施錠は 1 回）

トランク : ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）で知らせます。

■ 半ドア警告ブザー（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとする、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ 電池の消耗について**スマートエントリー&スタートシステム非装着車**

電池の標準的寿命は 1 ～ 2 年です。（ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します）ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池と交換してください。（→P. 330）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 36

■ 解錠操作のセキュリティ機能**スマートエントリー&スタートシステム非装着車**

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

→P. 31

■ 電池が切れたときは

→P. 330

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

→P. 32

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 418)

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

次のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って解錠・施錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

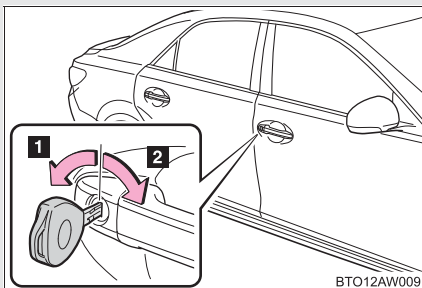
→P. 28

■ ワイヤレス機能

→P. 38

■ キー

スマートエントリー&スタートシステム非装着車



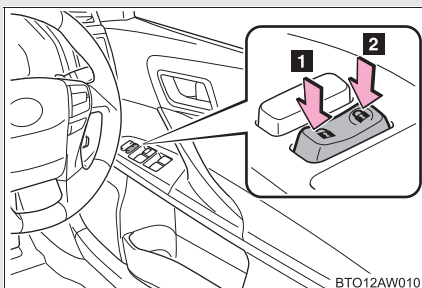
1 全ドアを解錠する

2 全ドアを施錠する

スマートエントリー&スタートシステム装着車

メカニカルキーを使ってドアを解錠・施錠できます。(→P. 395)

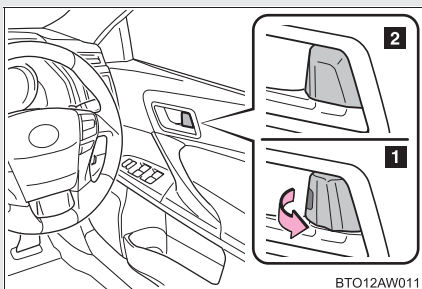
■ ドアロックスイッチ



1 全ドアを解錠する

2 全ドアを施錠する

■ ロックレバー



1 ドアを解錠する

2 ドアを施錠する

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 **1** ロックレバーを施錠側にする

手順 **2** ドアハンドルを引いたままドアを閉める

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

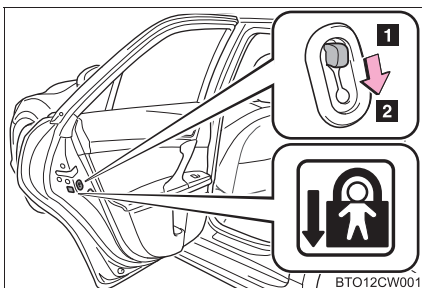
キーがエンジン スイッチに挿し込まれているときは施錠されません。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感应オートロック	車速が 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動 オートアンロック	スマートエントリー&スタートシステム非装着車 エンジン スイッチを “ LOCK ” にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。 スマートエントリー&スタートシステム装着車 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

1

運転する前に

■ 設定・解除のしかた

次の手順で、各機能の設定と解除が交互に切りかわります。

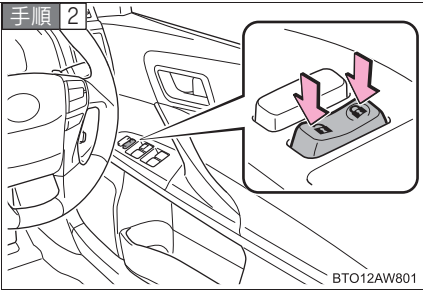
手順 1

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

すべてのドアを閉め、エンジン スイッチを “ ON ” にする（その後 20 秒以内に手順 2 を行う）

スマートエントリー&スタートシステム装着車

すべてのドアを閉め、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードにする（その後 20 秒以内に手順 2 を行う）



シフトレバーを P または N にいれ、運転席ドアロックスイッチの  または  を約 5 秒間押して離す

設定を行う機能によってシフトレバーとスイッチの位置を次の表から選択します。

機能を解除するには、同じ手順を行います。

機能	シフトレバーの位置	ドアロックスイッチの位置
シフト連動オートロック	P	
シフト連動オートアンロック		
車速感应オートロック	N	
運転席ドア連動 オートアンロック		

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。

 知識

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ 販売店で設定可能な機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 418)

 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● シートベルトを必ず使用する

● すべてのドアを施錠する

● すべてのドアを確実に閉める

● 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。特に、運転席はロックレバーが施錠側になってもドアが開くため、注意してください。

● お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などのあいだが狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。



注意

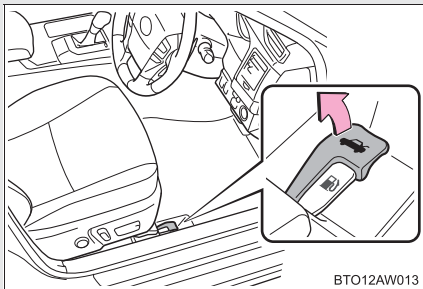
■ オートドアロック・アンロック機能の切りかえについて

設定または解除の切りかえ操作が完了すると、すべてのドアが施錠されたあと、解錠されます。解錠・施錠の作動がない場合、切りかえられていない場合があります。

1-2. ドアの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能を使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには



レバーを引き上げて、トランクのロックを解除する。

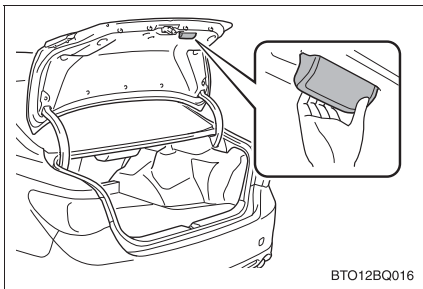
■ 車外からトランクを開けるには ワイヤレス機能

→P. 38

スマートエントリー&スタートシステム

→P. 29

トランクを閉めるときは



トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉めてください。

 知識

■ トランクランプ

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について
(スマートエントリー&スタートシステム装着車)

- すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合トランクオープンスイッチ(車外)で開けられます。
- すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。
- すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いていても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。
- ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナーでトランクを開けてください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

トランクが開いた状態でトランクリンプが点灯したまま長時間放置しないでください。

 警告**■ 走行中の警告**

- 走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。
- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

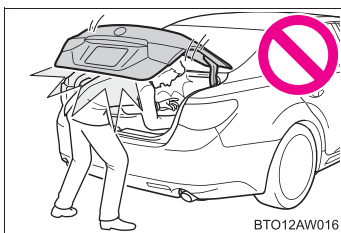
- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

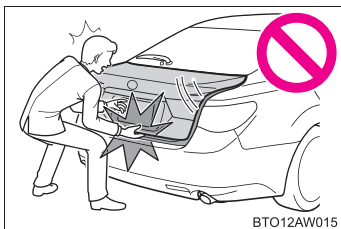
■ **トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

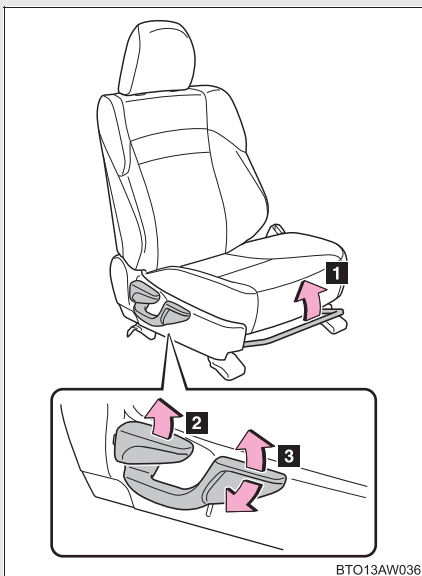


- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランク上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート

マニュアルシート装着車

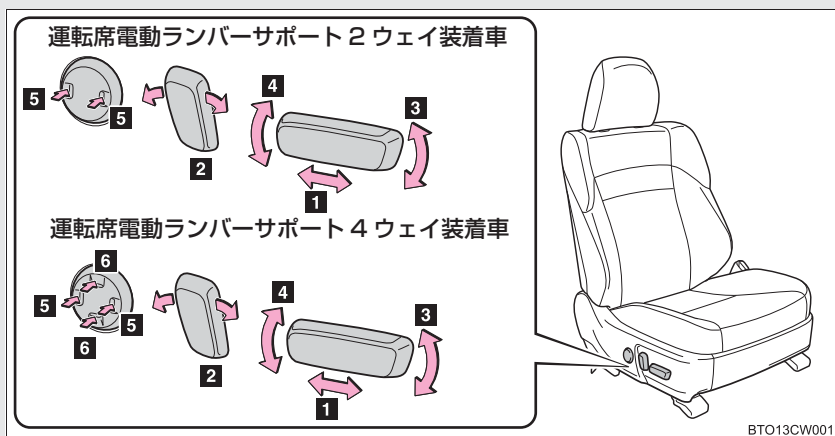


- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 シート全体の上下調整
(運転席のみ)

1

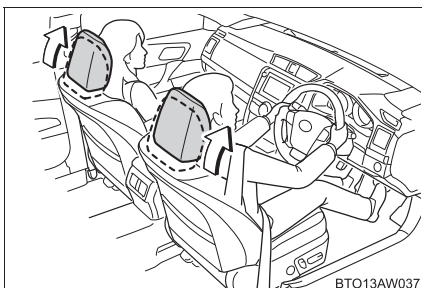
運転する前に

パワーシート装着車



- 1 前後位置調整
- 2 リクライニング調整
- 3 クッション前端の上下調整
(運転席のみ)
- 4 シート全体の上下調整
(運転席のみ)
- 5 腰部硬さ調整
(運転席のみ)
- 6 腰部高さ調整
(運転席のみ)

アクティブヘッドレスト



背もたれに強い衝撃を受けると、フロント席乗員のむち打ちの症状を軽減させるためにヘッドレストが少し前方上側に動きます。

知識

■アクティブヘッドレストについて

背もたれに弱い衝撃を受けてもヘッドレストが動く場合がありますが、故障ではありません。

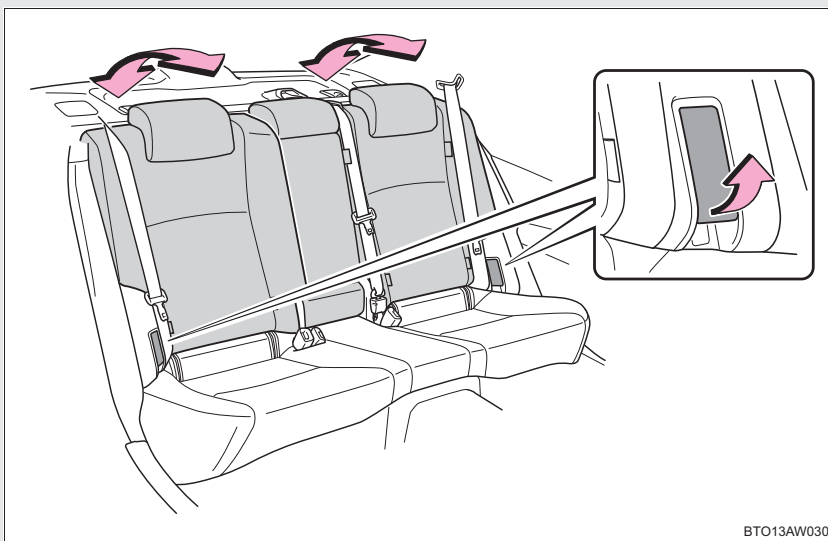
警告

■シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- マニュアルシート装着車は、シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

リヤシート

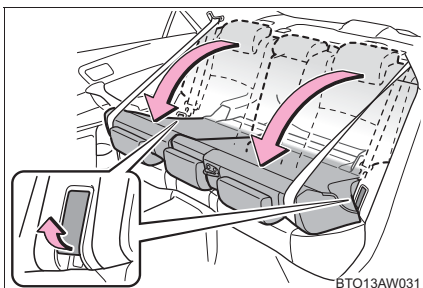


ロックが確実に解除されるまでレバーを引いてください。

リヤシートの前倒しをする前に

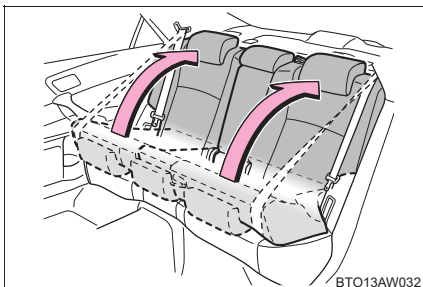
- 手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 手順 2 ヘッドレストをいちばん下に下げる (→P. 58)
- 手順 3 リヤ中央席用シートベルトを分離・格納する (→P. 62)
運転席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。
- 手順 4 リヤセンターアームレストを格納する (→P. 283)
運転席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

リヤシートの前倒し



レバーを引きながら、背もたれを前方に倒す

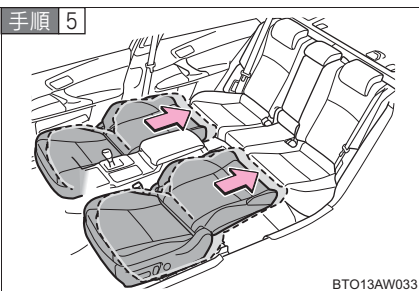
■ もどすときは



背もたれを起こし、固定する

フラットシートにするには

- 手順 1 車を停止させ、しっかりとパーキングブレーキをかける
- 手順 2 フロントシートのヘッドレストをはずす (→P. 58)
- 手順 3 フロントシートをいちばん前まで移動させる (→P. 51、52)
- 手順 4 フロントシートの背もたれを後方いっぱいまで倒す (→P. 51、52)



リヤシートとのすき間がなくなるようにシートを移動させる (→P. 51、52)

※ 4WD 車は運転席側のみフラットにできます。

- 手順 6 もとにもどるときは、逆の手順で操作する

⚠ 警告

■ リヤシートを操作するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作中は、パッケージトレイとまわりの部品とのあいだに指や腕などを入れない
- 倒した背もたれやトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 警告**■フラットシートについて**

フラットにした状態で人や荷物をのせて走行しないでください。

■背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートのあいだにシートベルトが挟み込まれていないか確認する

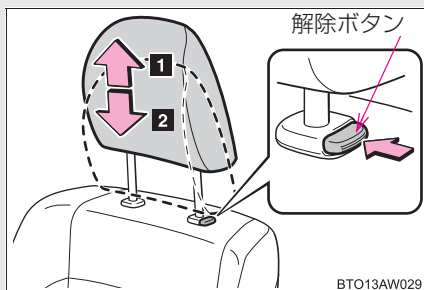
 注意**■シートを操作するときは**

- 可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意してください。
- シートに人が乗っている状態でシートアレンジ操作をしないでください。

■フラットシートについて

- マニュアルシート装着車では背もたれをもどすときは、背もたれを押さえながらリクライニング調整を行ってください。
- フラットにした状態でシートの上を走りまわらないでください。またシートの上を移動するときは、シートの中央を踏んでゆっくり移動してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト



1 上げる

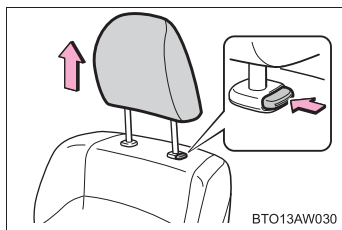
2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

グレードによりリヤ左右席のヘッドレストは固定式のため、調整することができません。

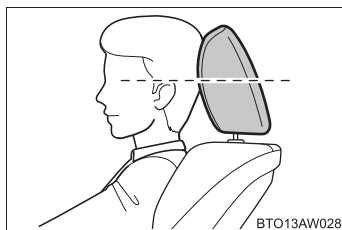
知識

■ ヘッドレストを取りはずすときは（上下調整式ヘッドレスト）



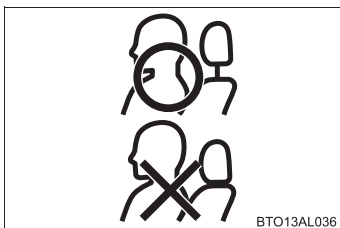
解除ボタンを押しながら取りはずします。

■ フロント席のヘッドレストの高さについて



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■ リヤ席のヘッドレストの使用について（上下調整式リヤヘッドレスト）



使用するときは、常に格納位置（ヘッドレストが最も下がった位置）から“カチッ”と音がするまで上げた位置にしてください。また、ヘッドレストを押し下げ、確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

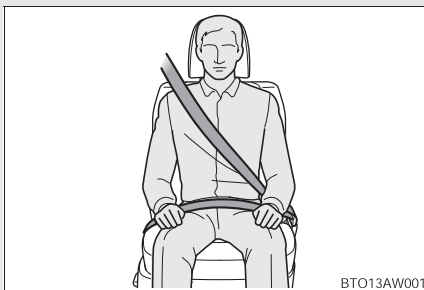
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- リヤ席に乗車するときは、必ずヘッドレストを上げた状態にする（上下調整式リヤヘッドレスト）

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

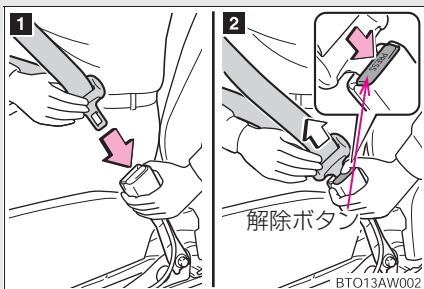
走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

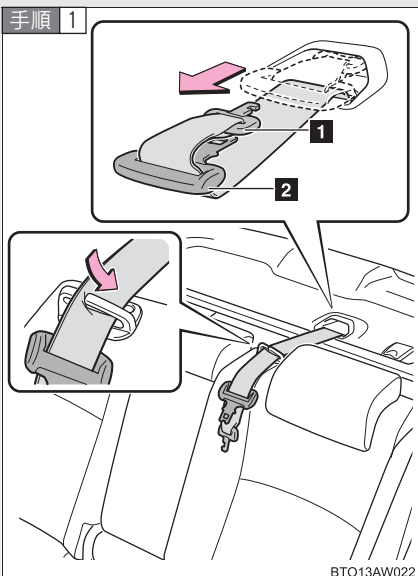
■ 着け方、はずし方（フロント席・リヤ左右席）



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには解除ボタンを押す

■ 分離格納式シートベルトの着け方（リヤ中央席）

手順 1

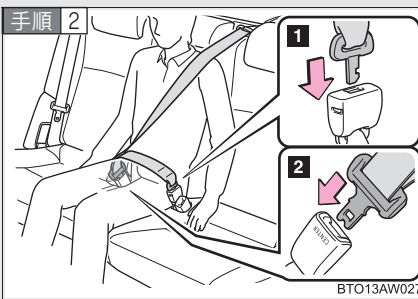


1 プレート A

2 プレート B

シートベルトを引き出し、ガイドに通す

手順 2

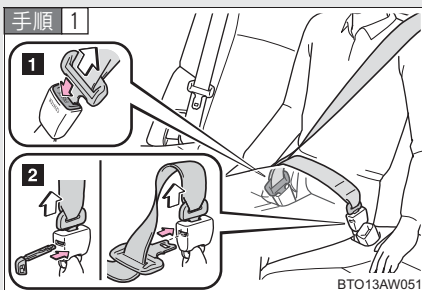


1 プレート A を取り付ける

2 プレート B を取り付ける

“カチッ” と音がするまで挿し込みます。

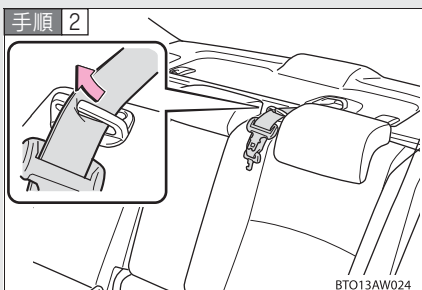
■ 分離格納シートベルトの格納のしかた（リヤ中央席）



1 バックルの解除ボタンを押す

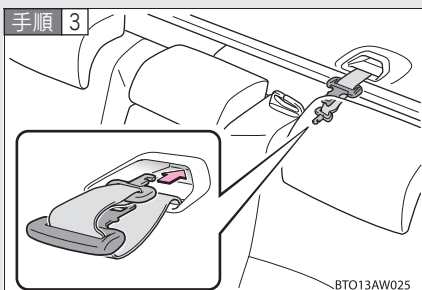
2 キー（→P. 24）、またはプレートBでバックルBの解除ボタンを押す

シートベルトを分離・分割するとき、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。



シートベルトをガイドからははずす

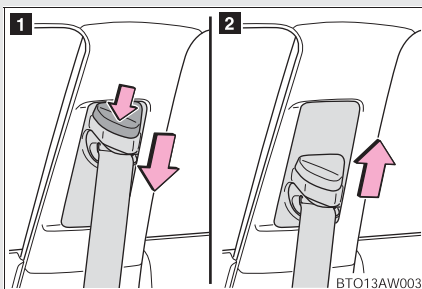
ガイドの切り込みのあいだを通して、シートベルトをガイドからはずします。



プレート A、B を重ねてもとにもどす

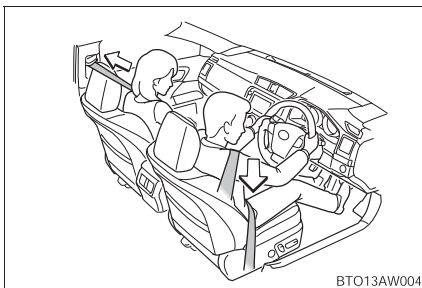
確実に固定されるよう、しっかりと奥まで挿し込みます。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 解除ボタンを押しながら、アジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席）



前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト(プリクラッシュセーフティシステム装着車のフロント席)

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。
(→P. 215)

 知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 105)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P. 60)

■ シートベルトプリテンショナーについて

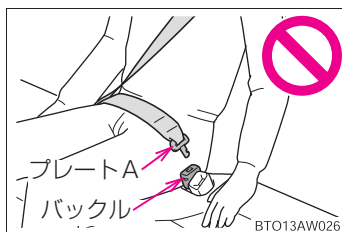
シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

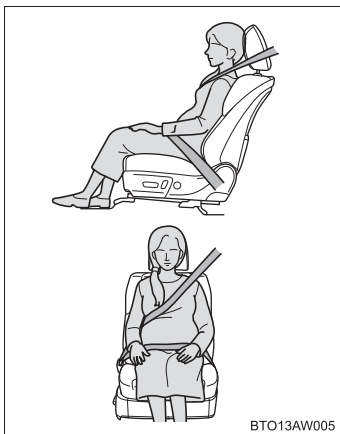
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、シートベルトがガイド（→P. 61）に通っていることを確認してください。



- リヤ中央席のシートベルトを使用するときは、プレート A とバックルを結合してください。

！ 警告

■ 妊娠中の女性の場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 60)

妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

 警告**■ プリテンショナー付シートベルトについて**

シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

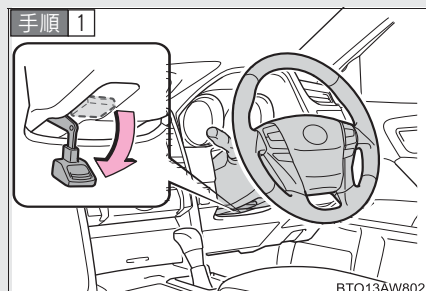
■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動なくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

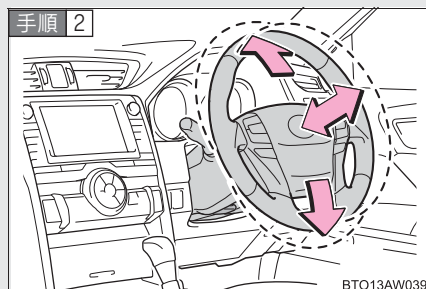
1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

マニュアルチルト&テレスコピックステアリング



ハンドルを持ち、レバーを下げる

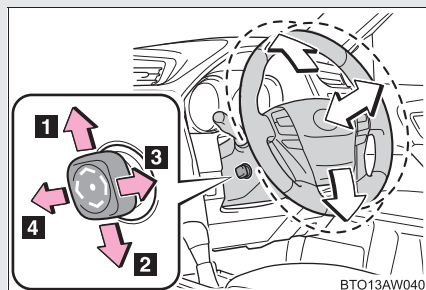


ハンドルを上下・前後に動かし、適正な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

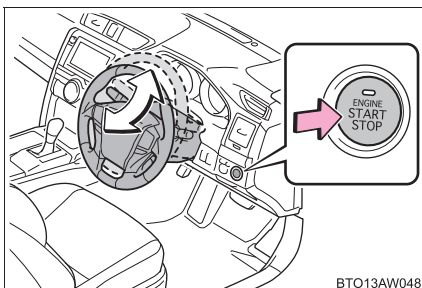
電動チルト&テレスコピックステアリング

スイッチを操作すると、ハンドルを下記の方法に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ

オートチルトアウェイ&リターン機能*

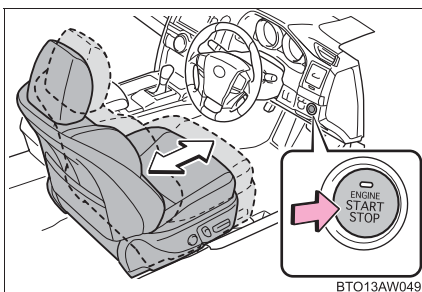


“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、乗降がしやすくなるように、ハンドルが動きます。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにすると、もとの位置にもどります。

オートシートスライドアウェイ&リターン機能*

運転者が乗り降りする際に、運転席シートが自動で、次のように動きます。



降車時：運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

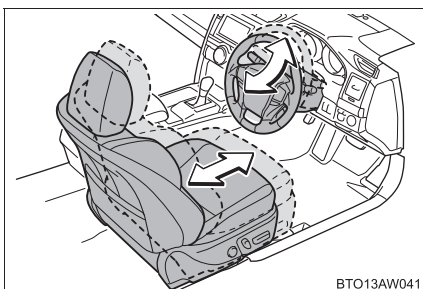
乗車時：運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※オートアウェイ機能が作動する前のシートの位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パワーイージーアクセスシステム*

運転者が乗り降りする際に、ハンドルと運転席シートが自動で、次のように動きます。



降車時：ハンドルが最上段、最前方に移動、運転席シートが後方に移動（オートアウェイ機能）

乗車時：ハンドル、運転席シートがもとの位置※に移動（オートリターン機能）

※ハンドルの上下前後位置、運転席シートの前後位置をお好みの位置に調整しておけば、ハンドル・シートがその位置で記憶されます。

知識

■電動チルト&テレスコピックステアリングの作動条件

“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■電動チルト&テレスコピックステアリングのハンドル位置調整について

パワーイージーアクセスシステム装着車では、販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFでも、シートベルトのバックルを装着すると、ハンドルの位置を調整することができます。

■降車時の運転席シートのオートアウェイ機能について (オートシートスライドアウェイ&リターン機能 / パワーイージーアクセスシステム機能装着車)

降車時に、シートの位置が最後方に近い位置にある場合、オートアウェイ機能を行わない場合があります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ オートアウェイ機能の作動条件（オートシートスライドアウェイ&リターン機能装着車）

- 次の条件を満たすと作動します。
 - ・ シフトレバーを P にする
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする
 - ・ シートベルトのバックルをはずす
（販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）
- 作動中に次の操作をすると作動が停止します。
 - ・ シフトレバーを操作する
 - ・ 運転席のシート調整スイッチ（→P. 52）のいずれかを操作する（腰部調整スイッチを除く）

■ オートリターン機能の作動条件（オートシートスライドアウェイ&リターン機能装着車）

- 次の条件のいずれかを行うと作動します。
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにする
 - ・ 運転席シートベルトのバックルを装着する
（販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ）
- 作動中に次の操作をすると作動が停止します。
 - ・ 運転席のシート調整スイッチ（→P. 52）のいずれかを操作する（腰部調整スイッチを除く）
 - ・ 車両を発進させる

■ オートシートスライドアウェイ&リターン機能でのシートの作動について

- オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 52）のいずれかを操作した場合、オートリターン機能は作動しません。
- エンジン始動時にシートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。
- オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。

■販売店で設定可能な機能

オートシートスライドアウェイ&リターン機能のシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。

(カスタマイズ機能一覧 →P. 418)

■オートアウェイ機能の作動条件 (パワーイーザーアクセスシステム装着車)

●次の条件を満たすと作動します。

- ・ シフトレバーを P にする
- ・ “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にする
- ・ シートベルトのバックルをはずす

(販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ)

●作動中に次の操作をすると作動が停止します。

- ・ シフトレバーを操作する

●作動中に次の操作をするとシートの作動のみが停止します。

- ・ 運転席のシート調整スイッチ (→P. 52) のいずれかを操作する (腰部調整スイッチを除く)

■オートリターン機能の作動条件 (パワーイーザーアクセスシステム装着車)

●次の条件のいずれかを行うと作動します。

- ・ “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにする
- ・ 運転席シートベルトのバックルを装着する

(販売店で設定可能な機能での「降車時運転席シート移動量調節」で「OFF」以外を選択しているときのみ)

●作動中に次のいずれかを行うとシートの作動のみが停止します。

- ・ 運転席のシート調整スイッチ (→P. 52) のいずれかを操作する (腰部調整スイッチを除く)
- ・ 車両を発進させる

●作動中に次のスイッチを操作するとハンドルの作動のみが停止します。

- ・ 電動チルト&テレスコピックステアリングのスイッチ (→P. 68) を操作する

■パワーイージーアクセスシステムでのハンドル、シートの作動について

- オートアウェイ機能作動中・オートアウェイ機能作動終了後に、運転席のシート調整スイッチ（→P. 52）のいずれかを操作した場合、オートリターン機能は作動しません。
 - エンジン始動時にハンドル、シートの作動が一時停止し、エンジン始動後に作動が再開することがあります。
 - オートリターン機能作動中に、車両を発進させるとシートの作動が停止します。停止したときは、車両を停止しシートの前後位置を適切な位置に調整してください。
- なお、この場合、ハンドルはリターン機能作動を継続します。

■販売店で設定可能な機能

パワーイージーアクセスシステムのシートスライドを非作動にしたり、シートスライド量の変更ができます。シートスライドを非作動にした場合、パワーイージーアクセスシステムはハンドルのみの作動になります。

（カスタマイズ機能一覧 →P. 418）

警告

■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト&テレスコピックステアリング装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だと、ハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■オートシートスライドアウェイ&リターン機能でシート、パワーイージーアクセスシステムでハンドル・シートが作動しているときは

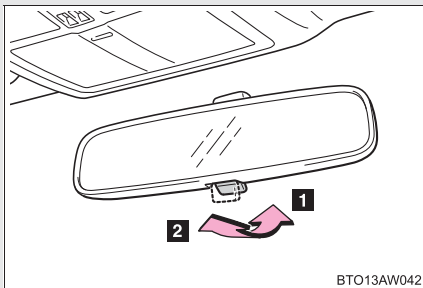
体や荷物などが挟まれないようにしてください。けがをしたり、荷物が破損するおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

インナーミラー

手動防眩ミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。



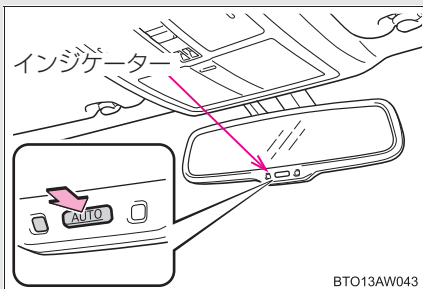
BTO13AW042

1 通常使用状態

2 防眩時

自動防眩ミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



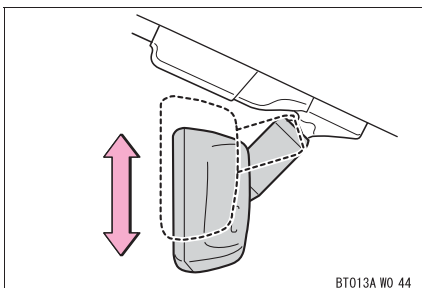
BTO13AW043

自動モードの ON・OFF を切りかえる

自動モードのときはインジゲーターが点灯します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

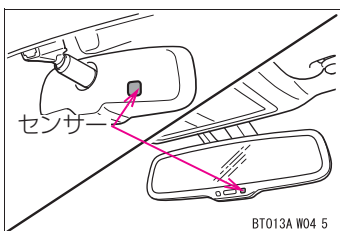
上下調整のしかた



インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

知識

■ センサーの誤作動防止（自動防眩ミラー装着車）



センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたり、センサーを覆ったりしないでください。

警告

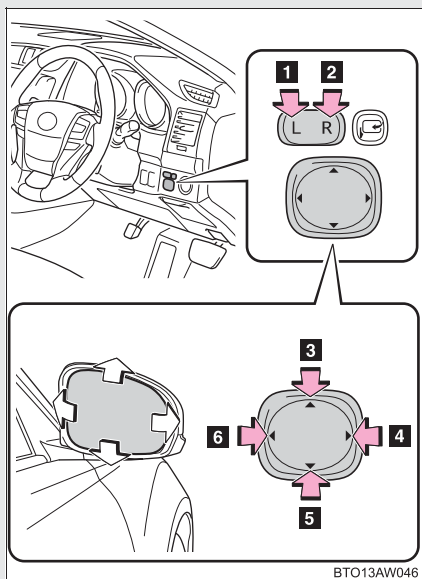
■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

スイッチで鏡面の角度調整をします。



調整するミラーを選ぶには、スイッチを押す

1 左

2 右

ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す

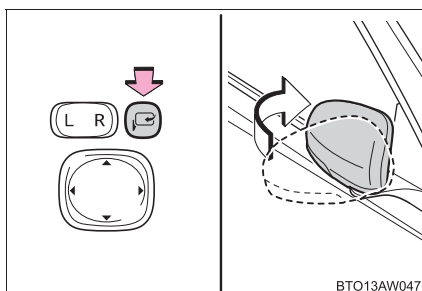
3 上

4 右

5 下

6 左

ドアミラーを格納するときには



ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

 知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ACC” または“ON” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ ミラーが曇ったときは*

リヤウィンドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P. 239)

■ レインクリアリングミラー*

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。

- 鏡面に汚れなどが付着したときや、地下や屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したときなどは親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。
- 低下した親水効果を早く回復させたいときは回復作業 (→P. 293) を行ってください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告

■ **走行しているときは**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ミラーを格納したまま走らない

走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ **ミラーが動いているときは**

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ **ミラーヒーターが作動しているときは**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

 注意**■ レインクリアリングミラーの取り扱いについて***

親水効果には限りがあります。長持ちさせるためには次のことをお守りください。

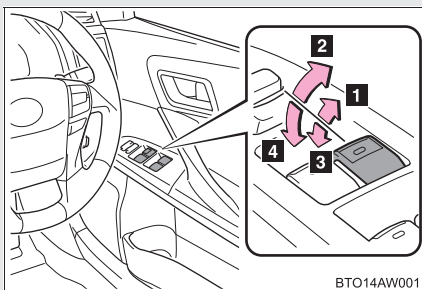
- シリコン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないように十分注意してください。
- 砂の付いた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷付けるものでこすらないでください。
- 鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。
- 撥水洗車を行ったときは、鏡面を大量の水で洗い、きれいなやわらかい布などでふき取ってください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。

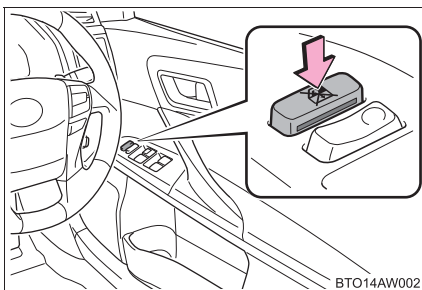
スイッチを操作すると、ドアガラスを下記のように動かします。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウィンドウロックスイッチ



スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

- エンジン スイッチ “LOCK” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) または “エンジン スタートストップ” スイッチ OFF (スマートエントリー&スタートシステム装着車) 後の作動

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ACC” または “LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間 ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモード、または OFF にしたあとでも、約 45 秒間 ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

- パワーウィンドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることのできないドアのパワーウィンドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- 車を停止し、エンジン スイッチを “ON” の位置で、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で上げ続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間上げ続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で下げ続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間下げ続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で上げ続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間上げ続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

- 車を停止し、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードの状態、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で上げ続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを6秒間上げ続ける

手順 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で下げ続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを2秒間下げ続ける

手順 3 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で上げ続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを2秒間上げ続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

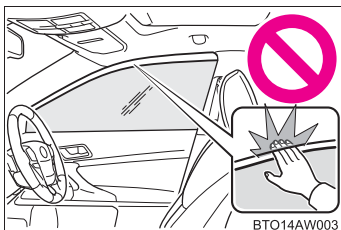
■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ機能一覧→P. 418)

警告**■ ドアガラスを開閉するときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意**■ ドアガラスを開閉するときは**

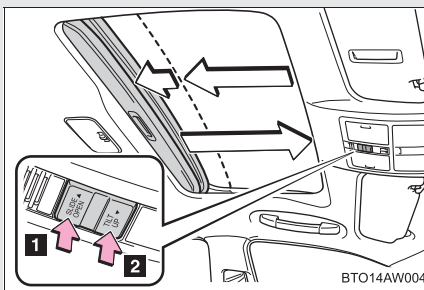
以下のことをお守りください。

- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉、またはチルトアップ / ダウンできます。

■ 開閉



1 ムーンルーフを開く※

全開の手前の位置で止まります。

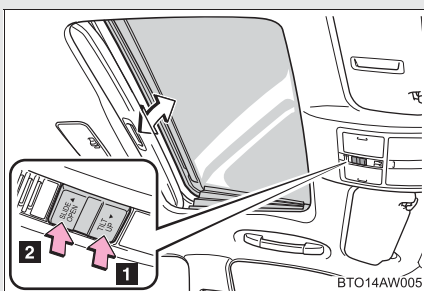
(風切音の低減機能)

全開にしたいときは、スイッチをもう一度押してください。

2 ムーンルーフを閉める※

※途中で止めるときは、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ / ダウン



1 チルトアップ※

2 チルトダウン※

※途中で止めるときは、スイッチを軽く押します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ON” のとき

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチ OFF（またはエンジン スイッチ “LOCK”）後の作動

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “ACC” または “LOCK” にしたあとでも、約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し、少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ 閉め忘れ警告表示

スマートエントリー&スタートシステム装着車

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にして、運転席ドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P, 358)

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ムーンルーフが完全に閉まっておらず、エンジンスイッチを “LOCK” にして、運転席ドアを開けるとマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P, 358)

■ムーンルーフが正常に閉まらないときは

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

手順 1 スイッチの“TILT UP”を押し続ける※¹

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10秒間停止します。※² その後再び閉じ、チルトアップし、1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 2 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 スイッチの“TILT UP”を押し続け※¹、ムーンルーフをチルトアップ位置にする

手順 2 スイッチから一度手を離し、再度“TILT UP”を押し続ける※¹

ムーンルーフがチルトアップの状態で10秒間停止し、※² 微調節後1秒間停止します。チルトダウン後、いったん開いてから閉じます。

手順 3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※¹ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

※² 10秒間停止した後にスイッチから手を離すと、それ以降オート作動できなくなります。その場合は、スイッチの“TILT UP”を押し続けてください。ムーンルーフがチルトアップし、1秒間停止します。その後、チルトダウンし、いったん開いてから閉じます。ムーンルーフが完全に閉まったことを確認したら、スイッチから手を離してください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ機能一覧→P. 418)

警告**■ムーンプーフを開けているときは**

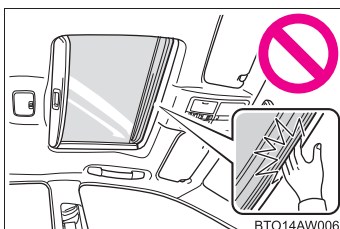
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

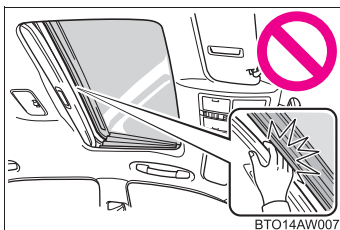
■ムーンプーフを開閉するときには

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンプーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- お子さまには、ムーンプーフの操作をさせないでください。ムーンプーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 挟み込み防止機能は、ムーンプーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-5. 給油のしかた

給油口の開け方

次の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

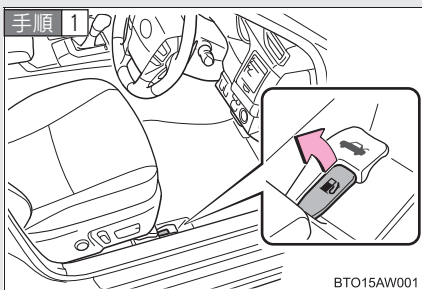
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- 燃料の種類を確認してください（→P. 89）
- ドアと窓を閉めて、エンジン スイッチを “ LOCK ” にしてください。

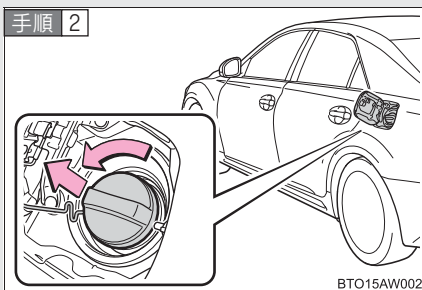
スマートエントリー&スタートシステム装着車

- 燃料の種類を確認してください（→P. 89）
- ドアと窓を閉めて、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方

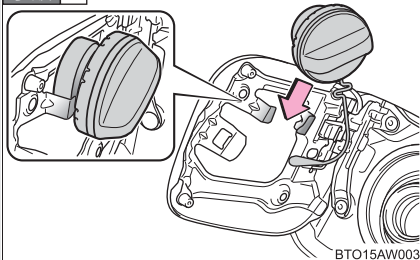


レバーを引き上げて、給油口を開ける



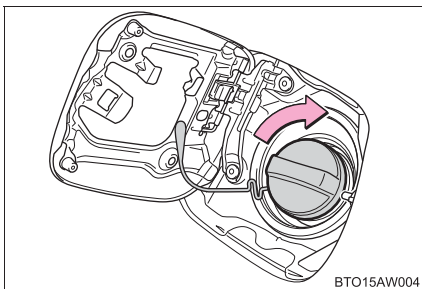
キャップをゆっくりまわして開ける

手順 3



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■ 燃料の種類

4GR-FSE エンジン車：無鉛レギュラーガソリン

2GR-FSE エンジン車：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

■ エタノール混合燃料について

無鉛レギュラーガソリン仕様車では、エタノール混合燃料（エタノールの混合率 3%以下、含酸素化合物の含酸素率 1.3%以下）も使用することができます。



警告

■ 給油について

給油前には次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去する
除去しないと放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音ができる場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。
ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、静電気を除去していない人や帯電しているものにふれない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- ふきこぼれを防ぐため以下の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示に従ってください。

■ キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定のガソリンを使用してください。

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

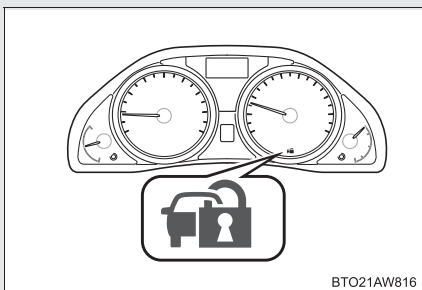
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。



スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内の表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ONモードにするとシステムが解除され、表示灯が消灯します。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内の表示灯が点滅します。

登録されたキーをエンジン スイッチに挿し込むとシステムが解除され、表示灯が消灯します。

 知識■ **メンテナンスについて**

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

■ **機能が正常に働かないおそれのある状況**

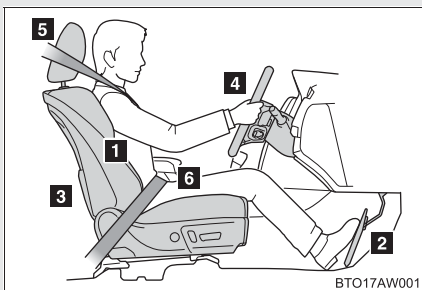
→P. 32

 注意■ **エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

1-7. 安全にお使いいただくために 正しい運転姿勢

次の条件にあった正しい姿勢で運転してください。



- 1** まっすぐ座り、背もたれから背を離さない
(→P. 51、52)
- 2** シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする
(→P. 51、52)
- 3** 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- 4** SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする (→ P. 68)
- 5** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする (→ P. 58)
- 6** シートベルトが正しく着用できる (→ P. 60)

 警告**■ 走行中は**

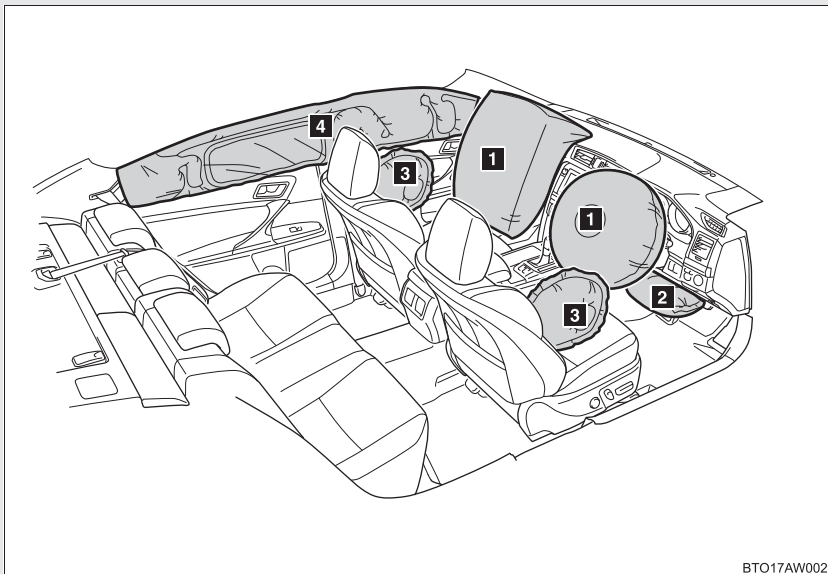
- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されずに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因になって、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



BTO17AW002

フロント SRS エアバッグ

- ❶ 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)
- ❷ SRS ニーエアバッグ
(運転者の衝撃緩和を補助)

SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

- ❸ SRS サイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)
- ❹ SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤシート外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

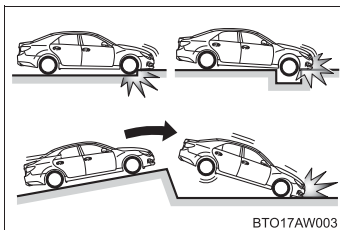
- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝撃条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき**（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ）**

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

■衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

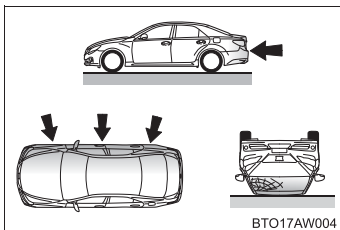
次のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグが作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

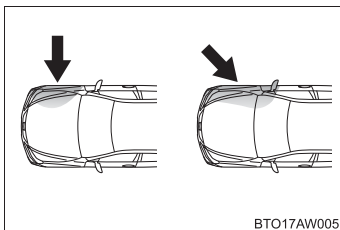


- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき

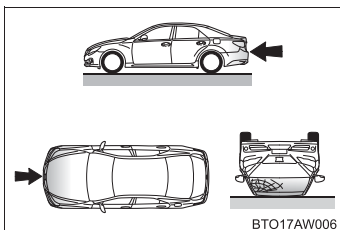
(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃では、作動しません。

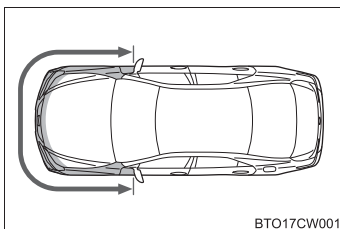


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

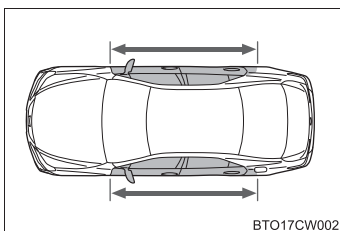
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

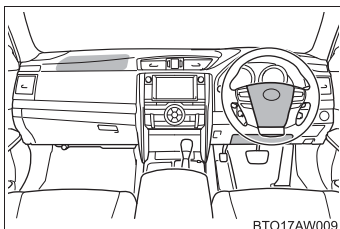


- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

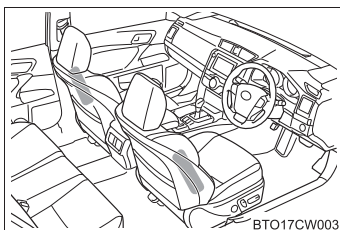
●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



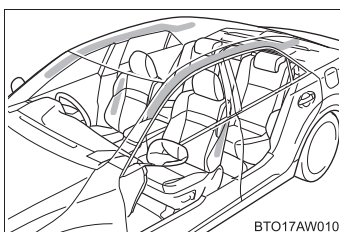
- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

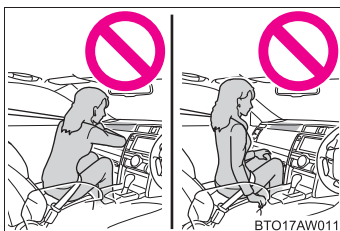
警告

SRS エアバッグについて

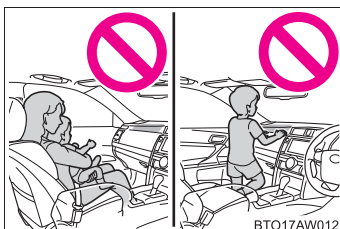
必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→P. 114)



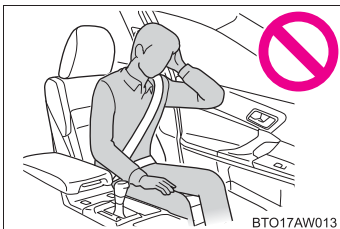
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



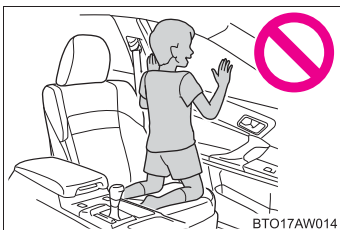
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

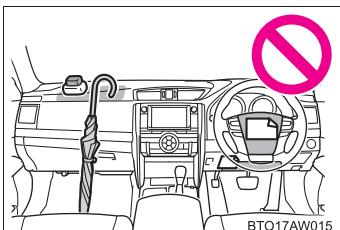
■ SRS エアバッグについて



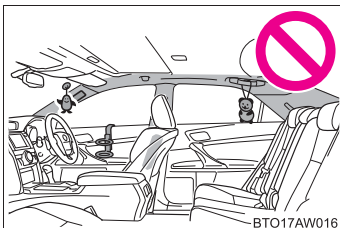
- ドアやフロント・センター・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない。



- 助手席や、リヤシート外側席でドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。



- ダッシュボード、ハンドルのパッド部・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドア、フロントガラス、ドアガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。(速度制限ラベルを除く →P. 382)

**警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

 警告

■ **改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

子供専用シート

子供専用シートの固定機構を使用して、子供専用シートを固定することができます。

知っておいていただきたいこと

- お子さまの年齢や体格に合わせて、適切な子供専用シートをお選びください。
- 子供専用シートの取り付け方法および取りはずし方は、それぞれの子供専用シートに付属の取り扱い説明書をお読みください。
- この車は2006年10月1日施行の保安基準に適合したISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーを標準装備しています。

子供専用シートの適合性一覧表について

■ 質量グループについて

ECE R44 ※の基準に適合する子供専用シートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ 0	: 10kg まで
グループ 0 ⁺	: 13kg まで
グループ I	: 9 ~ 18kg
グループ II	: 15 ~ 25kg
グループ III	: 22 ~ 36kg

この本では代表的な次の3種類の子供専用シートをシートベルトで固定する方法を紹介します。

※ ECE R44 は、子供専用シートに関する国際法規です。

■ サイズ等級、固定具について

子供専用シートに表示される分類記号と、それにとりなう取り付け器具の記号になります。

ベビーシート



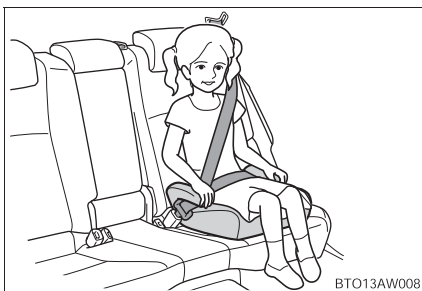
ECE R44 基準のグループ 0、0⁺
に相当

チャイルドシート



ECE R44 基準のグループ 0⁺、I
に相当

ジュニアシート



ECE R44 基準のグループ II、III
に相当

シート位置別子供専用シート適合性一覧表（シートベルトでの取り付け）

1

運転する前に

質量グループ	着席位置（または他の場所）		
	フロントシート	リヤシート	
	助手席	左右席	中央席
0 (10kg まで)	×	U	UF
0 ⁺ (13kg まで)	×	U	UF
I (9 ～ 18kg)	前向き UF	U	UF
	うしろ向き ×		
II (15 ～ 25kg)	UF	U	UF
III (22 ～ 36kg)	UF	U	UF

● 上記に記入する文字の説明

U：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの子供専用シートに適しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリの前向き子供専用シートに適しています。

×：子供専用シートを取り付けることはできません。

- ・ 子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取り扱い説明書もご確認ください。
- ・ 表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

**シート位置別子供専用シート適合性一覧表
(ISOFIX 対応トップテザーアンカーでの取り付け)**

質量グループ	サイズ 等級	固定具	車両 ISOFIX 位置
			リヤシート左右席
キャリコット	F	ISO/L1	×
	G	ISO/L2	×
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	IL1、IL2
0 ⁺ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL1、IL2
	D	ISO/R2	IL2
	C	ISO/R3	IL2
I (9 ～ 18kg)	D	ISO/R2	×
	C	ISO/R3	×
	B	ISO/F2	IUF、IL2
	B1	ISO/F2X	IUF、IL2
	A	ISO/F3	IUF、IL2
II (15 ～ 25kg)		(1)	×
III (22 ～ 36kg)		(1)	×

● 上表に記入する文字の説明

(1)：サイズ等級表示 (A から G) のない子供専用シートの各シート位置での ISOFIX 対応子供専用シート固定機構の取り扱いについては、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用 (ユニバーサル) カテゴリーの ISOFIX 対応の前向き子供専用シートに適しています。

IL1：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby」に適しています。

IL2：この質量グループでの使用を許可された「トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg」に適しています。

×：ISOFIX 子供専用シートを取り付けることはできません。

- ・ 子供専用シートの装着に際しては子供専用シートの取扱い説明書もご確認ください。
- ・ 表に記載されていない子供専用シートを使用する場合は、子供専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

ISOFIX 子供専用シートのリスト

質量グループ	サイズ 等級	固定具	ISOFIX 子供専用シート	カテゴリー
O (10kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
O+ (13kg まで)	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO baby	準汎用
	E	ISO/R1	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	D	ISO/R2		
	C	ISO/R3		
I (9 ~ 18kg)	B	ISO/F2	トヨタ純正 NEO G-Child ISO leg	準汎用
	B1	ISO/ F2X		
	A	ISO/F3		

知識

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

この車に標準装備されている ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーは、ECE R44 に適合している子供専用シートの取り付け専用です。それ以外のものを使用することはできません。

■ 子供専用シートの選択・使用について

- お子さまに最適な子供専用シートについては、子供専用シート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- 体が十分大きく、子供専用シートが不必要なお子さまは、リヤシートに乗せて車のシートベルトを使用してください。

■シートベルトで取り付けるタイプの子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シート適合性一覧表」(→P. 107)を参照し、子供専用シートを取り付け可能な位置と、対応する子供専用シートの種類(記号)をご確認の上、適したものを選択してください。

■ECE R44 適合の ISOFIX 対応子供専用シートの選択について

「シート位置別子供専用シートの適合性一覧表」(→P. 108)を確認して、適切なシートを選択してください。

手順 1 お子さまの体重から、該当する「質量グループ」を確認する

(例 1) : 体重が 12kg の場合、質量グループは「O⁺」になります。

(例 2) : 体重が 15kg の場合、質量グループは「I」になります。

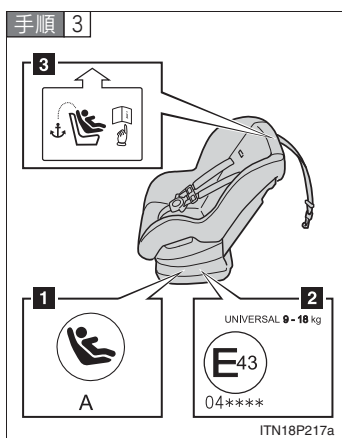
手順 2 サイズ等級を選択する

手順 1 で確認した「質量グループ」から該当するサイズ等級を確認します。※

(例 1) : 質量グループが「O⁺」の場合、サイズ等級は「C」・「D」・「E」が該当します。

(例 2) : 質量グループが「I」の場合、サイズ等級は「A」・「B」・「B1」・「C」・「D」が該当します。

※ただし、該当のサイズ等級でも適合性一覧表の「車両 ISOFIX 位置」に「×」と記載されているものは選択できません。また、「IL」と記載されている場合は、「ISOFIX 子供専用シートのリスト」(→P. 109)で指定されている製品を使用してください。



子供専用シートに表示されているマーク／ラベルを確認して、基準に適合したシートであることを確認する

汎用（ユニバーサル）子供専用シートには、次に示すマーク・ラベル類が表示されています。※

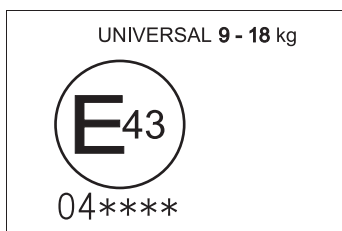
※表示されている位置・記号などは、商品により異なります。



1 ISOFIX 対応子供専用シートであることを示す表示

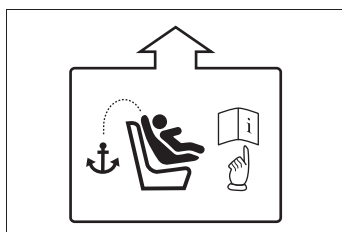
サイズ等級が示されています。（表示される文字は、製品により異なります）

手順 2 で確認したサイズ等級に適合しているものを選択してください。



2 汎用（ユニバーサル）子供専用シートの認可マーク

UNIVERSAL は汎用品の認可であることをあらわし、併せて、対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。



3 トップテザー（→P. 114）を示すマーク

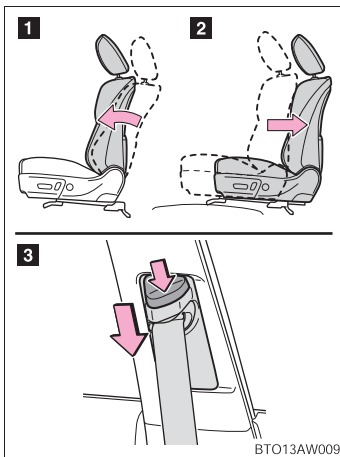
商品の取り付け装置の位置により、意匠は異なります。

■ ISOFIX 対応子供専用シートの種類（サイズ等級別）

A-ISO/F3	全高前向き幼児用チャイルドシート
B-ISO/F2	低型前向き幼児用チャイルドシート
B1-ISO/F2X	低型前向き幼児用チャイルドシート (B-ISO/F2 と別形状のもの)
C-ISO/R3	大型後向き幼児用チャイルドシート
D-ISO/R2	小型後向き幼児用チャイルドシート
E-ISO/R1	後向き乳児用チャイルドシート
F-ISO/L1	左向き位置用チャイルドシート（キャリコット）
G-ISO/L2	右向き位置用チャイルドシート（キャリコット）

■ 助手席に子供専用シートを取り付けるとき

やむを得ず助手席に子供専用シートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、子供専用シートを前向きに取り付けてください。



- 背もたれを直立状態にする
- シートをいちばんうしろに下げる
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる

■ キャリコットについて

キャリコットは横向きに取り付けることのできるベビーシートのことです。詳しくは子供専用シート製造業者または販売業者におたずねください。

**警告****■ 子供専用シートを使用しない場合**

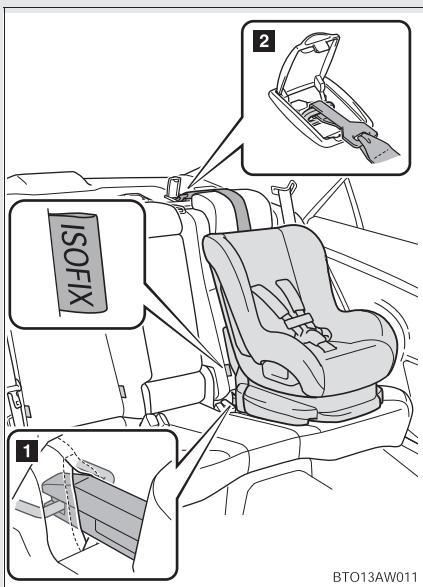
- 子供専用シートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください（→ P. 115、P. 116）。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- 子供専用シートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシート（子供専用シート）の取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシート外側シートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。



シートベルトによる取り付け
(→ P. 115)



1 ISOFIX 対応チャイルドシート
固定専用バー(→ P. 116)

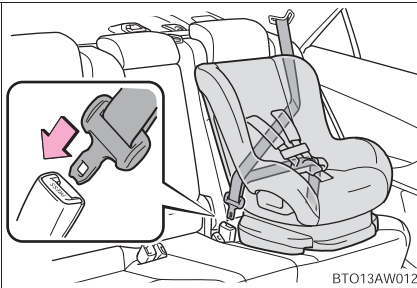
リヤシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートについています)

2 トップテザーアンカー
(→ P. 117)

テザーベルトを固定するときに使います。

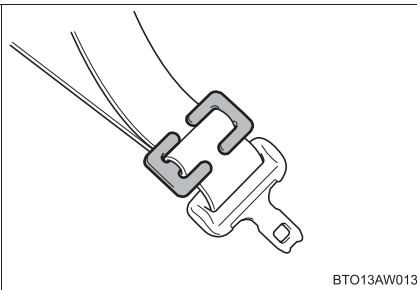
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイに装備されています。

シートベルトで固定する



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。



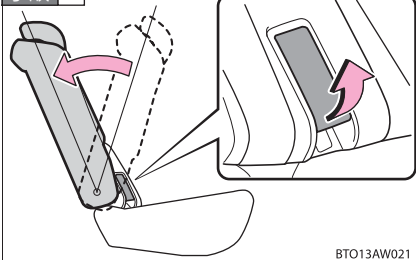
チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロックングクリップ（別売）を使用して固定する

ロックングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロックングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する

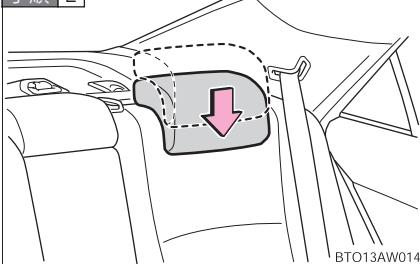
手順 1



背もたれの角度を調整する

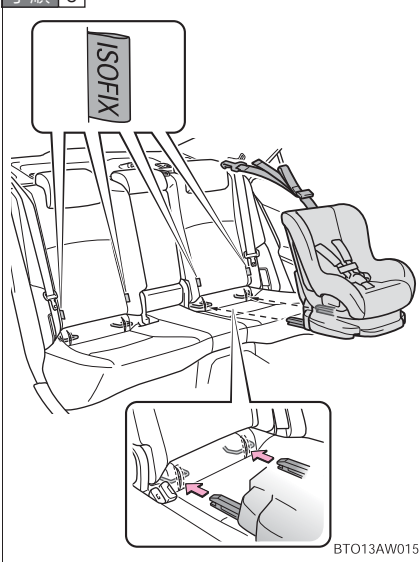
リクライニングレバーを引き上げながらいったん背もたれを前に倒し、一段目の固定位置まで起こします。
(→ P. 54)

手順 2



上下位置調整が可能なヘッドレスト装着車はヘッドレストをいちばん下まで下げる (→ P. 58)

手順 3

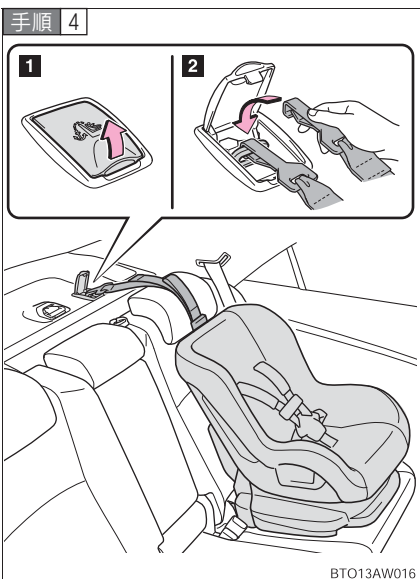


固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。

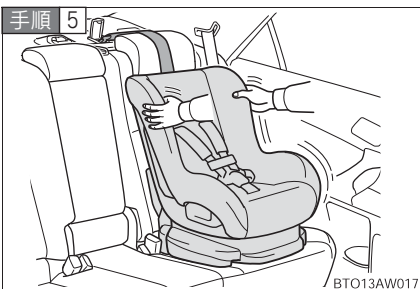
チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれの商品に付属の取扱説明書に従ってください。



フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。



取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、確実に取り付けられていることを確認する

警告

■チャイルドシートについて

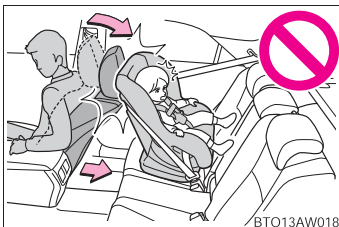
- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけさせないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆずって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

警告

●チャイルドシートを取り付けるときは



BTO13AW018

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



BTO17CW007

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるときは



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと、事故や急ブレーキの際に重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

⚠ 注意

■ トップテザーアンカーについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに

2

2-1. 運転のしかた

運転にあたって	122
エンジン（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー& スタートシステム非装着車）...	131
エンジン（イグニッション）スイッチ （スマートエントリー& スタートシステム装着車）....	134
オートマチック トランスミッション	139
方向指示レバー	146
パーキングブレーキ.....	147
ホーン（警音器）.....	148

2-2. メーターの見方

計器類.....	149
表示灯／警告灯	156
ドライブモニター（常時発光式 メーター装着車）	160
マルチインフォメーション ディスプレイ（オプティトロン メーター装着車）	163

2-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	167
フォグランプスイッチ	170
ワイパー & ウォッシャー （フロント）.....	171
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）.....	177

2-4. その他の走行装置の

使い方

クルーズコントロール	179
レーダークルーズ コントロール	183
クリアランスソナー	197
運転を補助する装置	206
ヒルスタートアシスト コントロール	213
PCS（プリクラッシュ セーフティシステム）.....	215
LED イルミネーション ビーム.....	221

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意	222
寒冷時の運転.....	224

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

■ エンジンをかける (→P. 131、134)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする
(→P. 139)

手順 2 パーキングブレーキを解除する (→P. 147)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。(→P. 139)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 147)

手順 3 シフトレバーを P にする (→P. 139)

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを “LOCK” にしてエンジンを停止する
(→P. 131)

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしてエンジンを停止する (→P. 134)

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

- 手順 1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーをDにする
- 手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

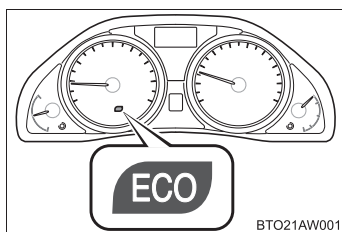
■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを、樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転をするには

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。

- 走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード以外のとき
- エコドライブインジケータランプユーザーカスタマイズで「ECO OFF」設定時（→P. 153）



- シフトポジションが D 以外で走行中（シフトパドル装着車は、シフトパドル使用時）
- 車速が約 100km/h 以上のとき

⚠ 警告

■発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
 - ・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障につながるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因になるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D に入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーを N にすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンプレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 406 を参照してください。

警告

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 140)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- オフロード走行をしないでください。本格的なオフロード走行を目的とした4WD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告**■ シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

警告

- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気管の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告**■ ブレーキをかけるときは**

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまうす。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ 運転中は**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

 注意

■ **駐車するときは**

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ **部品の損傷を防ぐために**

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ **走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は、P. 366 または P. 376 をご覧ください。

■ **冠水路走行に関する注意**

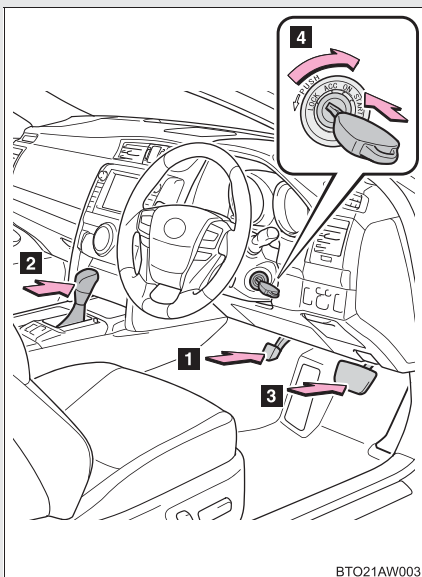
大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

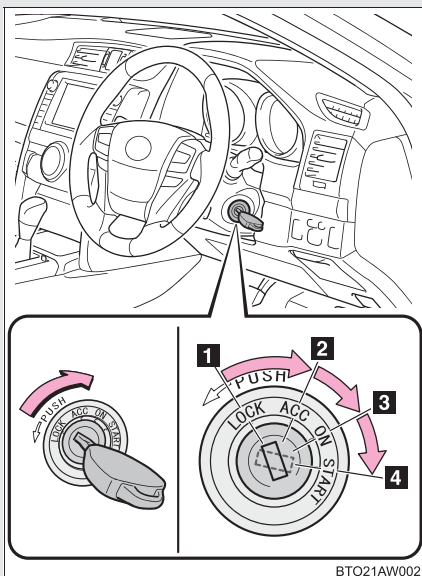
■ エンジンのかけ方



BTO21AW003

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 運転席に座ってブレーキペダルをしっかりと踏む
- 4 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす

■ エンジン スイッチの位置の切りかえ



BTO21AW002

- 1 “LOCK” (OFF)
 - ・ ステアリングロックがかかります。
 - ・ シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しすることができます。
- 2 “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。
- 3 “ON”

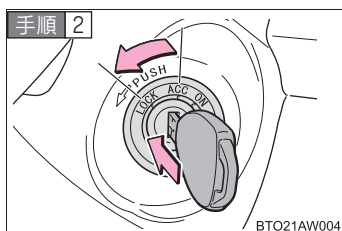
すべての電装品が使用できます。
- 4 “START”

エンジンが始動できます。

知識

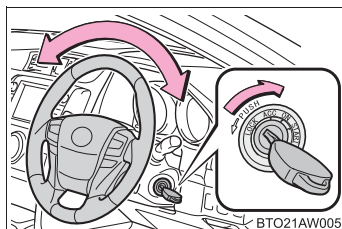
■ キーを “ ACC ” から “ LOCK ” にまわすには

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する



キーを押し込みながら “ LOCK ” までまわす

■ ステアリングロックを解除するには



ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 92)

■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジン スイッチが “ ACC ” または “ LOCK ” のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

**警告****■ エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。

緊急時は走行中にエンジンを切り、“ACC”にしてください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(→P. 406)

**注意****■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

エンジン (イグニッション) スイッチ (スマートエントリー&スタートシステム装着車)

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動または“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■ エンジンのかけ方

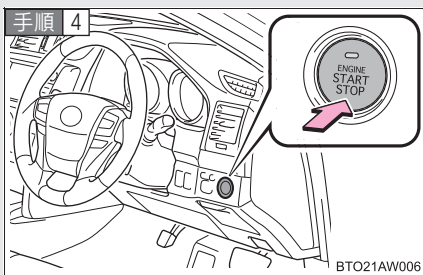
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



“エンジン スタート ストップ”
スイッチを押す

エンジンが始動するまで最大 25
秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブ
レーキペダルを踏み続けてくださ
い。

“エンジン スタート ストップ” ス
イッチのどのモードからでもエン
ジンを始動できます。

■ エンジンの停止方法

手順 1 車両を完全に停止させる

手順 2 パーキングブレーキをかける (→P. 147)

手順 3 シフトレバーを P の位置にする (→P. 139)

シフトポジションが P であることをメーターで確認する。

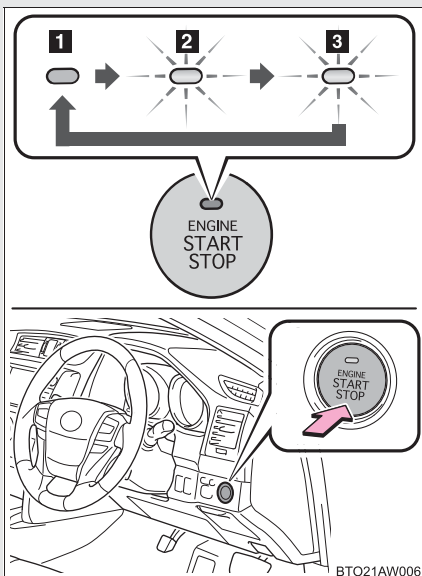
(→P. 149、151)

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

手順 5 ブレーキペダルからゆっくり足を離した状態にして “エン
ジン スタート ストップ” スイッチのインジケーターが消灯し
ていることを確認する

■ “エンジン スタート ストップ” スイッチのモード切り換え

ブレーキペダルを踏まずに“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すと、モードを切り換えることができます。(スイッチを押すごとに“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードが切りかわります)



1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。

2 アクセサリーモード

アクセサリースocketなどの電装品が使用できます。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※ :シフトレバーが P 以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したときは

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、“エンジン スタート ストップ”スイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーを P の位置にする

手順 3 “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが橙色に点灯していることを確認し、“エンジン スタート ストップ”スイッチを 1 回押す

手順 4 “エンジン スタート ストップ”スイッチのインジケーターが消灯していることを確認する

知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、20 分以上アクセサリーモードか 1 時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、“エンジン スタート ストップ”スイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチの操作について

“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作する際は、短く確実に押してください。確実に押せてない場合は、モードの切り替えやエンジン始動ができない場合があります。また、確実に操作すれば押し続ける必要はありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 36

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 32

知識

■ ご留意いただきたいこと

→P. 33

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

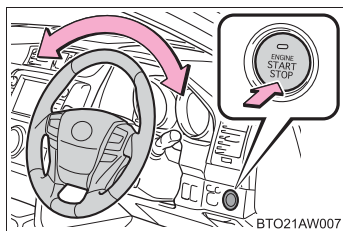
(→P. 92)

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ ステアリングロックについて

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。“エンジン スタート ストップ”スイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

■ ステアリングロックが解除できないときは



マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、“エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ ステアリングロックモーターのオーバーヒート防止について

短時間にエンジン始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。2 秒程度でもとの状態にもどります。

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池が切れたときは

→P. 395

警告

■ エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、“エンジン スタート ストップ”スイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P. 406)

ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

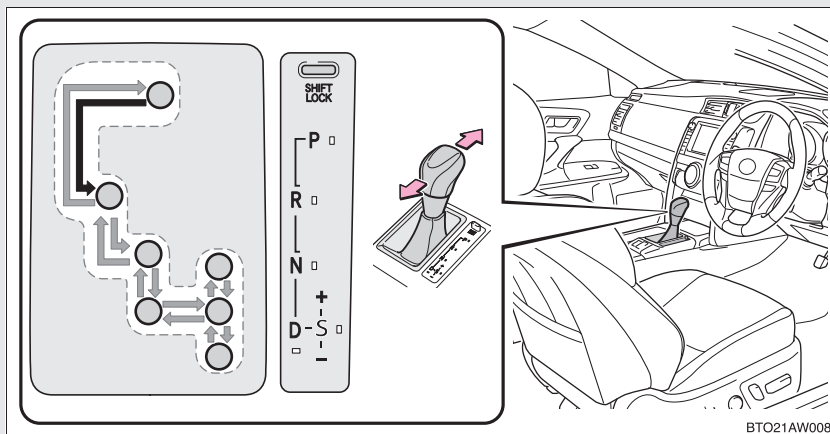
■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方



スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- ← エンジン スイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

- ← “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に停めてから行ってください。

■ シフトポジションの使用目的

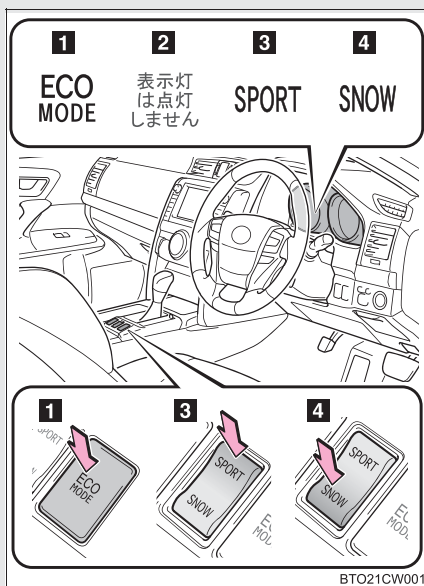
シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	S モード走行※ ² (→P. 142)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードではエンジンブレーキ力の選択が可能です。また、D ポジションにくらべエンジン回転数を高く制御するため、加速応答性が向上します。

■ 走行モードの選択

走行・使用条件にあわせて次のモードを選択できます。



1 エコドライブモード

車両駆動力とエアコンの作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

2 通常走行モード

エコドライブモード、スポーツモード、スノーモードのすべてが OFF の状態です。

3 スポーツモード

カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

4 スノーモード

雪道などすべりやすい路面での発進や走行に適しています。

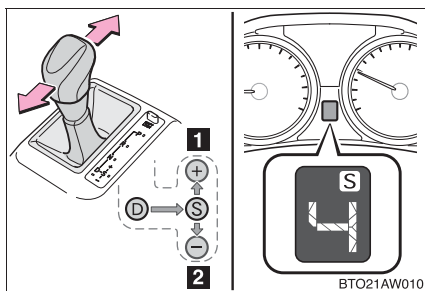
各モードを OFF にするには、もう一度同じモードのスイッチを押します。

また、スポーツモードまたは、エコドライブモードが ON の状態はエンジン スイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）または“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしても記憶されています。

S モードでのシフトレンジ切りかえ

シフトレバーを S の位置にして、シフトレバーまたはシフトパドル*を操作します。

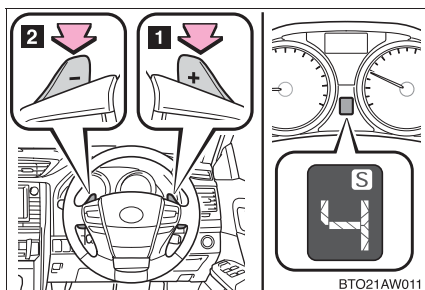
シフトレバー



1 シフトレンジを上げる

2 シフトレンジを下げる

シフトパドル*



1 シフトレンジを上げる

2 シフトレンジを下げる

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは、車速に応じて 5 レンジまたは 4 レンジに設定されます。ただし D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれに従い、初期のシフトレンジが 3 レンジまたは 2 レンジになる場合があります。(→P. 140)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的にかわります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的にかわります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的にかわります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的にかわります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的にかわります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。



知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ S モード

- 4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると、6 レンジに設定されます。
- 1 ～ 5 レンジが選択された状態で加速し、エンジン回転数がレッドゾーン付近になると、自動的に 1 レンジずつシフトレンジアップされます。

■ シフトダウン制限警告ブザー (S モード走行時)

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーやシフトパドルを操作してもシフトダウンできない場合があります。シフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■ レーダークルーズコントロール*またはクルーズコントロール*を使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールまたはクルーズコントロールが解除されないため、エンジンブレーキは効きません。

- D ポジションまたは S モードで走行中に 5 または 4 へシフトダウンしたとき
- D ポジションで走行中に走行モードをスポーツモードにしたとき

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 393

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

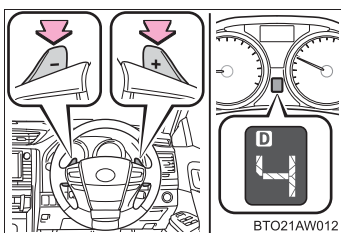
■NAVI・AI-SHIFTについて(メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車)

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は、別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切りかえます。AI-SHIFT は、シフトレバーを D にしているときに自動的に作動します。(シフトレバーを S にすると、機能が解除されます。)

■一時的なシフトパドルの操作について



シフトレバーを D の位置で走行中、シフトパドルを操作することにより任意の変速段を選択することができます。この場合、シフトレンジ表示灯に D が点灯し、変速段が表示されます。

一時的な S モードは次の状態になると解除されます。

- 同一変速段で、アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトパドルのシフトアップ側を一定時間以上押し続けたとき
- 車両停止状態のとき

■シフトレバーを S にしても、シフトレンジ表示部に S が点灯しないときは

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

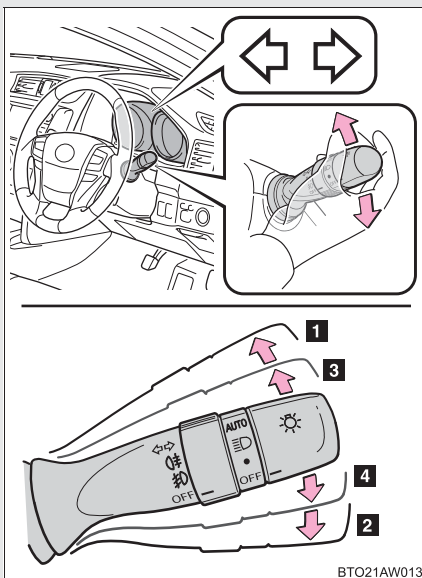
⚠ 警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更

(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、左側方向指示
灯が点滅します。

4 右側へ車線変更

(レバーを途中で保持)

レバーを離すまで、右側方向指示
灯が点滅します。

知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

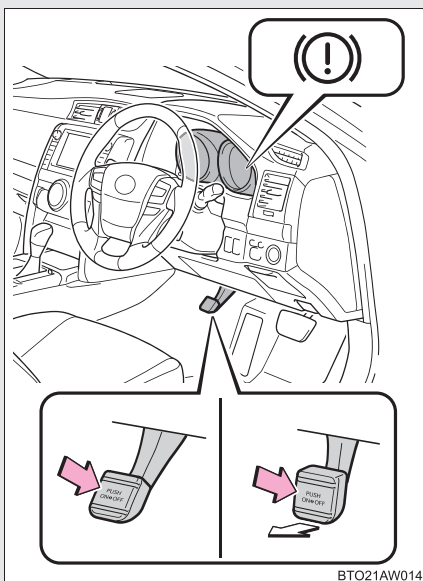
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた

パーキングブレーキ



パーキングブレーキをかけるには、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングペダルをいっぱいまで踏み込む（再度踏み込むと解除される）

知識

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P. 225

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

→P. 358

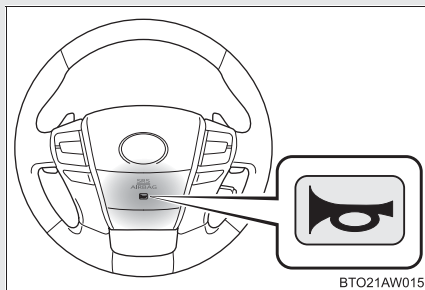
警告

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。

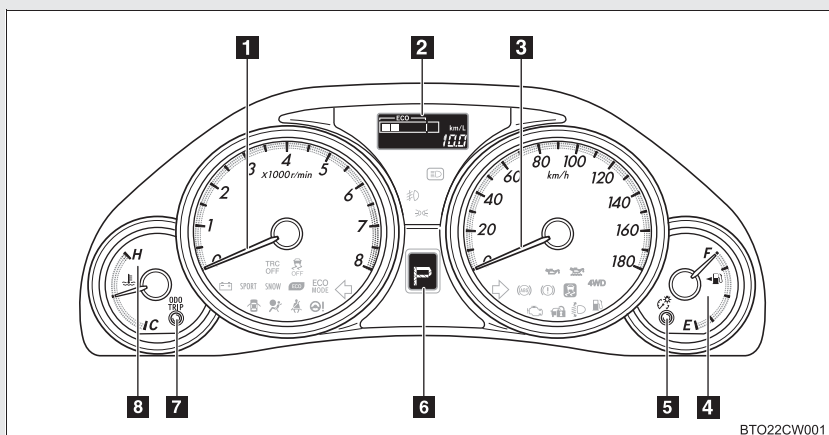
知識

■ ハンドル位置を調整したあとは（マニュアルチルト&テレスコピック装着車）

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 68）

常時発光式メーター



1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 オドメーター／トリップメーター／ドライブモニター／エコドライブインジケータランプユーザーカスタマイズ

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● ドライブモニター

平均燃費、エコドライブインジケータゾーン表示 / 瞬間燃費 / 外気温を表示させることができます。

● エコドライブインジケータランプユーザーカスタマイズ

エコドライブインジケータランプの点灯／消灯をキャンセルできます。

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 メーター明るさ調整ボタン

→P.154

6 シフトレンジ表示

→ 選択しているシフトレンジを表示します。

7 表示切りかえボタン →P.152、160

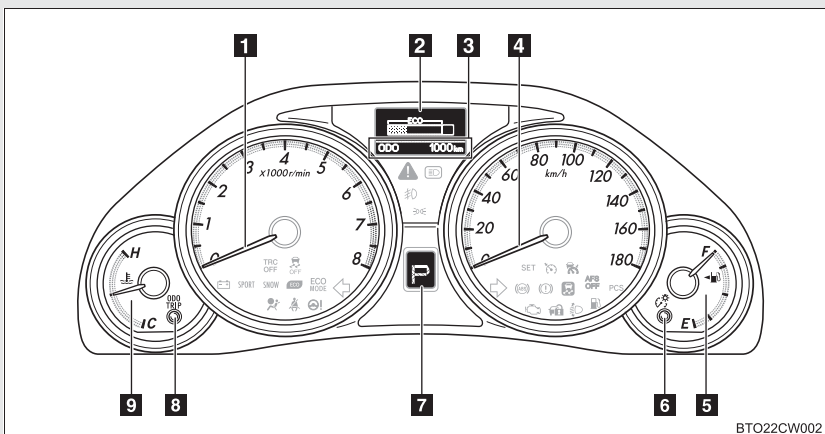
オドメーター／トリップメーター表示／ドライブモニター表示／エコドライブインジケータランプユーザーカスタマイズの切りかえができます。

また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が0にもどります。

8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

オブティロンメーター*



BTO22CW002

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

→P.163

3 オドメーター／トリップメーター／エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

エコドライブインジケーターランプの点灯 / 消灯をキャンセルできます。

* : グレード等によりメーターの意匠は異なります。

4 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

5 燃料計

燃料残量を示します。

6 メーター明るさ調整ボタン

→P.154

7 シフトレンジ表示

→ 選択しているシフトレンジを表示します。

8 表示切りかえボタン →P.152

オドメーター／トリップメーター／エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズの切りかえができます。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離が0にもどります。

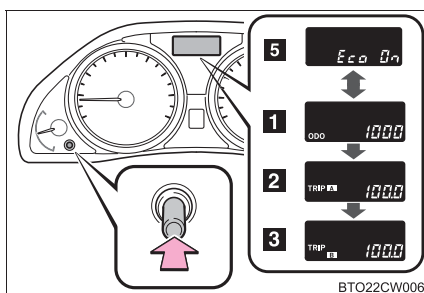
9 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示の切りかえ

ボタンを押すごとに次のように切りかわります。

常時発光式メーター



1 オドメーター

2 トリップメーター A ※

3 トリップメーター B ※

4 ドライブモニター表示 (→P.160)

5 エコドライブインジケーターランプユーザーカスタマイズ

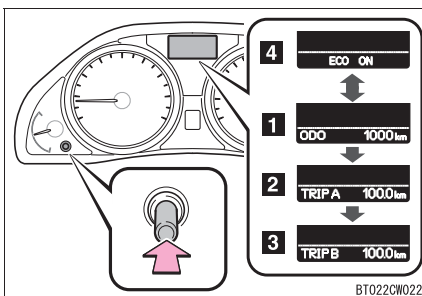
※押し続けると0にもどります。

■ エコドライブインジケーターステータスユーザーカスタマイズ



エコドライブインジケーターステータス (→P.124) の点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターステータスユーザーカスタマイズ画面表示中に、表示切りかえボタンを押します。エコドライブインジケーターステータスユーザーカスタマイズ画面は、オドメーター表示中に、表示切りかえボタンを押すと表示されます。表示が切りかわるまでボタンを押し続けてください。

オプティロンメーター



- 1 オドメーター
- 2 トリップメーター A ※
- 3 トリップメーター B ※
- 4 エコドライブインジケーターステータスユーザーカスタマイズ

※押し続けると 0 にもどります。

■ エコドライブインジケーターステータスユーザーカスタマイズ

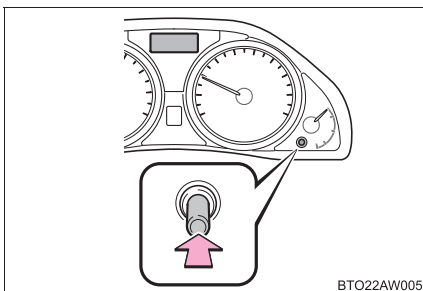


エコドライブインジケーターステータス (→P.124) の点灯／消灯をキャンセルするには、エコドライブインジケーターステータスユーザーカスタマイズ画面表示中に、表示切りかえボタンを押します。エコドライブインジケーターステータスユーザーカスタマイズ画面は、オドメーター表示中に、表示切りかえボタンを押すと表示されます。表示が切りかわるまでボタンを押し続けてください。

メーター明るさ調整ボタン

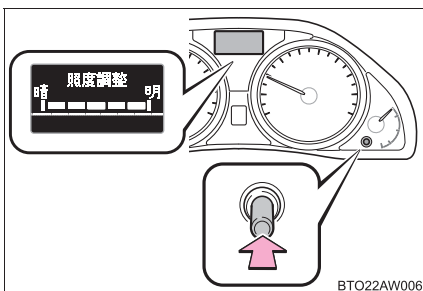
ボタンを押すごとにメーター照明の明るさを 5 段階で調整できます。

常時発光式メーター



車幅灯点灯時に明るさレベルを設定できます。

オプティロンメーター



ボタンを押すとマルチインフォメーションディスプレイの表示が照度調整に切りかわります。

車幅灯消灯時と点灯時それぞれ 5 段階に、明るさのレベルを調整することができます。

 知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンスイッチが“ON” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■メーターの明るさの調整について（オプティロンメーター装着車）

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調整することができます。

■メーター照度の減光制御について

- ランプスイッチが ON になると、メーター照明が減光されます。ただし、メーター照度が最大状態では、ランプスイッチが ON になってもメーター照明は減光されません。
- 周囲が暗いときに車幅灯を点灯すると、メーター照明が減光されます。周囲が明るいとき（昼間など）車幅灯を点灯しても、メーター照明は減光されません。

 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

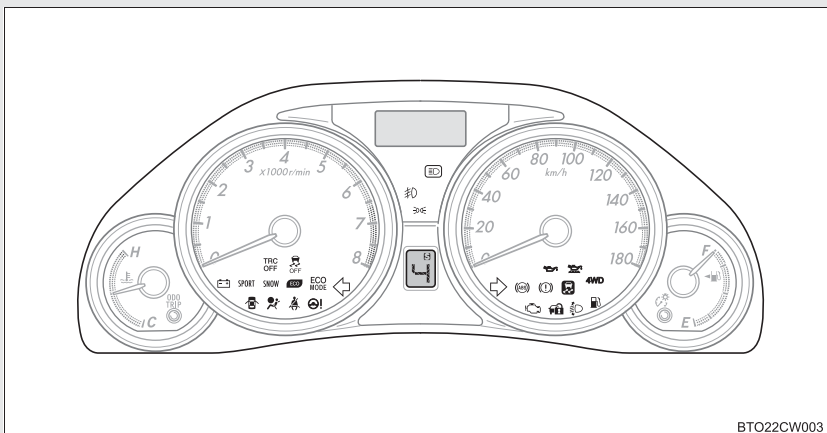
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.401）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

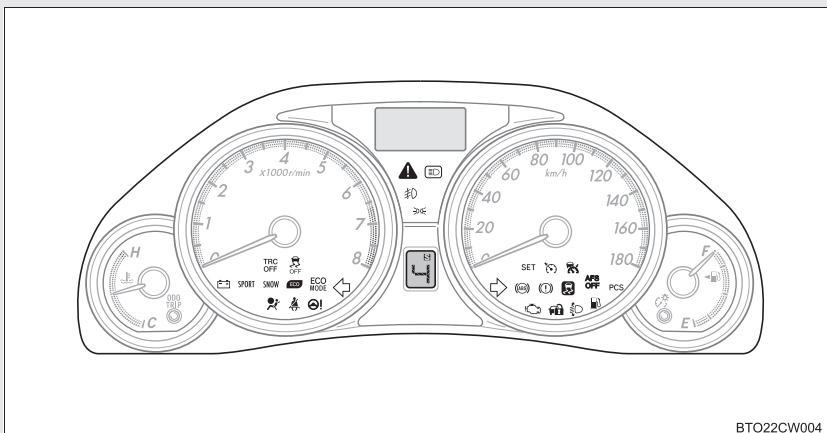
メーター・センターパネル内の表示灯／警告灯でお車の状況をお知らせします。

次のイラストは、説明のためすべての表示灯／警告灯を示しています。

常時発光式メーター

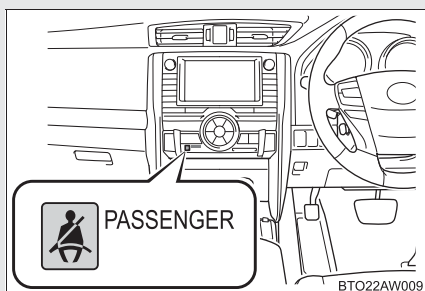


オプティロンメーター*



* : グレード等によりメーターの意匠は異なります。

センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

	方向指示表示灯 (→P.146)		ECO MODE 表示灯 (→P.141)
	尾灯表示灯 (→P.167)		※ SPORT 表示灯 (→P.141)
	※ AFS OFF 表示灯* (→P.168)		※ VSC OFF 表示灯 (→P.208)
	ハイビーム 表示灯 (→P.167)		SNOW 表示灯 (→P.141)
	※ エコドライブ インジケーターランプ (→P.124)		フロントフォグランプ 表示灯* (→P.170)
	※ スリップ表示灯 (→P.207)		※ TRC OFF 表示灯 (→P.208)
	セキュリティ表示灯 (→P.92)		シフトポジション表示灯 (→P.142)
	クルーズコントロール 表示灯* (→P.179)		※ PCS 警告灯* (→P.215)
	レーダー クルーズコントロール 表示灯* (→P.183)		(点灯または速い点滅) ※ クルーズコントロール セット表示灯* (→P.179, 183)

※作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)または、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。(SPORT 表示灯は AVS 装着車のみ作動確認の点灯を行います。)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P.351)



※作動確認のためにエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

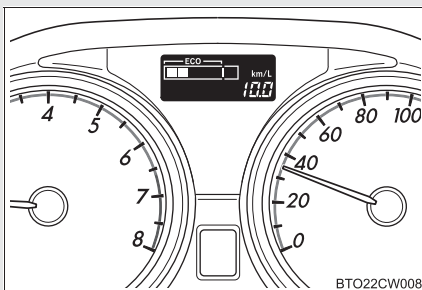
■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）、または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

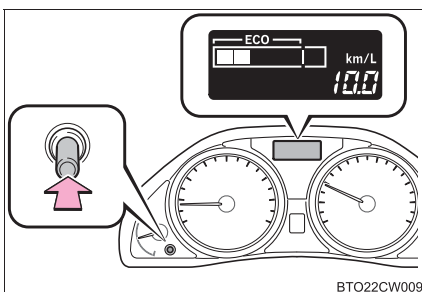
ドライブモニター（常時発光式メーター装着車）

ドライブモニターは、走行に関するさまざまな情報を表示します。



- 平均燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示（→P.160）
- 瞬間燃費（→P.161）
- 外気温（→P.161）

表示切りかえ



項目を切りかえるには、表示切りかえボタンを押します。

- 平均燃費、エコドライブインジケーターゾーン表示



エコドライブインジケーターゾーン表示と平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に表示切りかえボタンを 1 秒以上押します。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

● 外気温

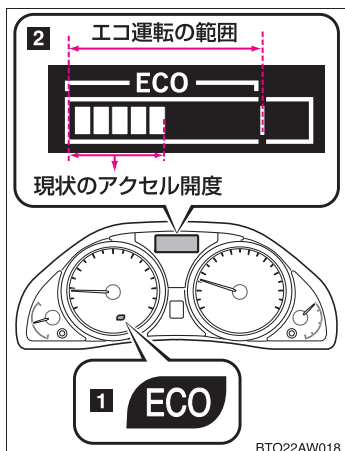


外気温を表示します。

－ 40 °C～ 50 °Cの間で表示します。

知識

■エコドライブインジケータゾーン表示について



環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケータランプ（**1**）が点灯します。

アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケータゾーン表示（**2**）の右側が点滅し、エコドライブインジケータランプが消灯します。次の場合は、エコドライブインジケータゾーン表示が非表示になります。

- シフトポジションが D 以外で走行中（シフトパドル装着車は、シフトパドル使用時）
- 走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード以外のとき
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 外気温の測定が正しく行われないときは「ー °C」または、「E °C」と表示されます。

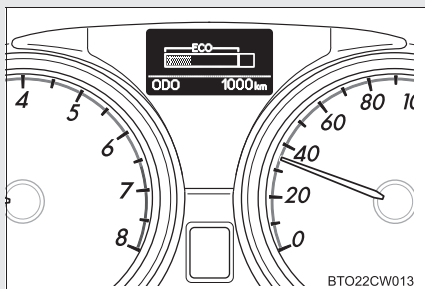
■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費

マルチインフォメーションディスプレイ (オプティロンメーター装着車)

マルチインフォメーションディスプレイは、次のような情報を表示します。



- トリップインフォメーション (→P.152)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

- レーダークルーズコントロール表示* (→P.183)

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- クリアランスソナー表示* (→P.197)

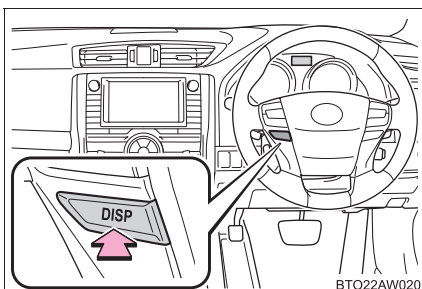
クリアランスソナー使用時に、障害物を感知すると自動で表示されます。

- 警告メッセージ (→P.355)

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

- メーター明るさ調整 (→P.154)

表示の切りかえ



表示を切りかえるには、DISP スイッチを押します。

● エコドライブインジケーターゾーン表示



エコドライブインジケーターゾーン表示を表示します。

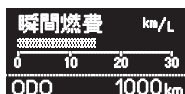
● 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- ・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP スイッチを 1 秒以上押します。
メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車では、「区間燃費画面」も更新されます。「区間燃費画面」については「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 瞬間燃費



現在の瞬間燃費を表示します。

● 給油後平均燃費

給油後平均燃費	
10.0	km/L
ODO	1000km

給油してからの平均燃費を表示します。

- ・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 航続可能距離

航続可能距離	
200	km
ODO	1000km

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

給油の際は“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にしてください。万一“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にせず給油した場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

平均車速	
40	km/h
ODO	1000km

通算の平均車速を表示します。

- ・ リセットするには、平均車速表示中に DISP スwitch を 1 秒以上押します。

● 走行時間

走行時間	
0:20	
ODO	1000km

エンジンを始動してから停止までの間に、走行した時間を表示します。

● 外気温

外気温	
20	℃
ODO	1000km

外気温を表示します。

- － 40℃～50℃の間で表示します。

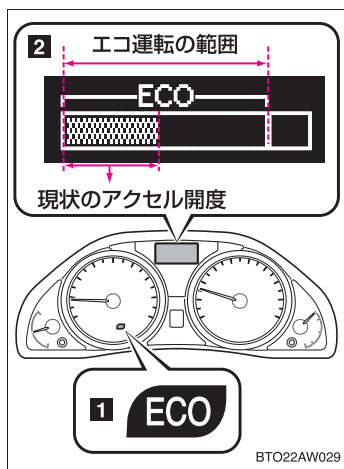
知識

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 25km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 外気温の測定が正しく行われないときは「— °C」または、「E °C」と表示されます。

■ エコドライブインジケータゾーン表示について



環境に配慮したアクセル操作（エコ運転）の範囲と、現状のアクセル開度を表示します。エコ運転中は、エコドライブインジケータランプ（**1**）が点灯します。アクセルの踏み過ぎなど、エコ運転の範囲をこえた場合には、エコドライブインジケータゾーン表示（**2**）の右側が点滅し、エコドライブインジケータランプが消灯します。ただし次の場合、

- シフトポジションが D 以外で走行中（シフトパドル装着車は、シフトパドル使用時）
- 走行モードが通常走行モードまたはエコドライブモード以外のとき
- 車速が約 100 km/h 以上のとき

エコドライブインジケータゾーン表示は左図の表示になります。

■ バッテリー端子の脱着をしたときは

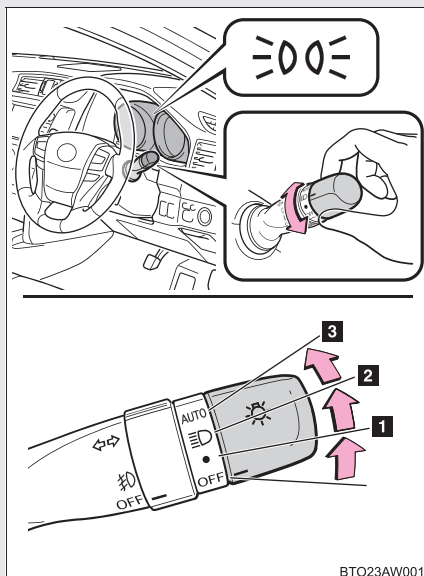
バッテリー端子の脱着を行うと、次のデータはリセットされます。

- 平均燃費
- 航続可能距離
- 平均車速

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方 ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

レバーの端をまわすと、次のようにランプが点灯します。



BTO23AW001

- 1 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプを点灯
- 2 上記ランプとヘッドランプを点灯
- 3 ヘッドランプ、車幅灯などを自動点灯・消灯

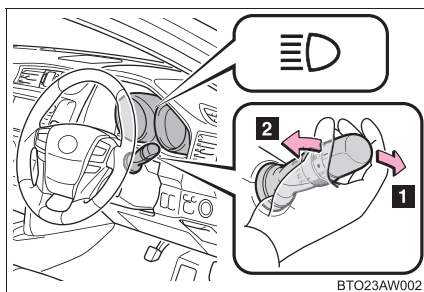
スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが“ON”のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

ハイビームにする



BTO23AW002

- 1 ランプ点灯時ハイビームに切りかえ
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

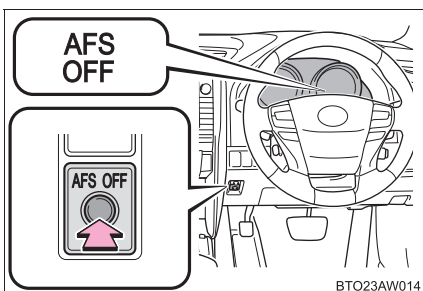
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AFS（アダプティブフロントライティングシステム）*

AFS は、交差点やカーブで優れた視認性を確保するため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

車速が 10km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

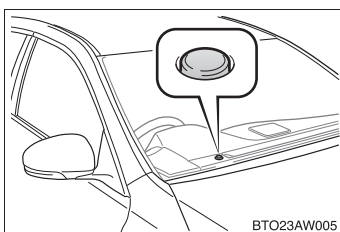


AFS システムの ON・OFF を切りかえる

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。

知識

■ ライトセンサー



センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ ランプ消し忘れ防止機能

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”にして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジン スイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチをOFFにもどし、再度 ● または  の位置にします。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリーモードまたはOFFにして運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチをOFFにもどし、再度 ● または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店に連絡してください。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 418)

注意

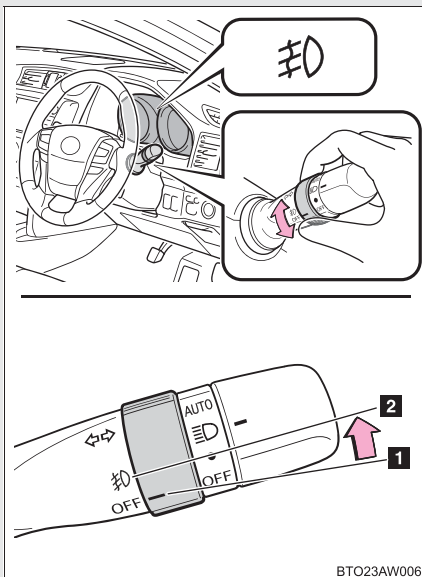
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。

フォグランプスイッチ*

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

フロントフォグランプ



1 消灯する

2 点灯する

BTO23AW006

知識

■点灯条件

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

2-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー（フロント）

間欠時間調整式ワイパー：

“INT”を選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

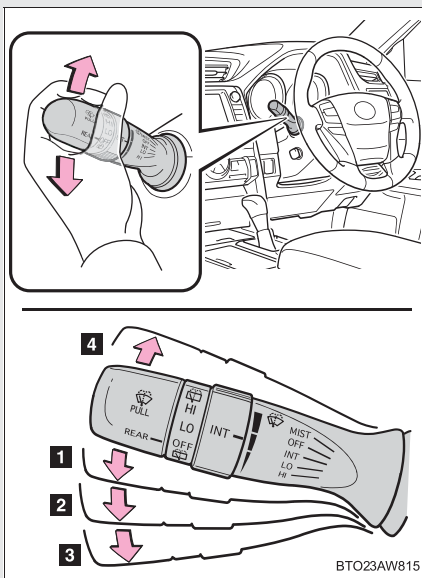
雨滴感知式ワイパー：

“AUTO”を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

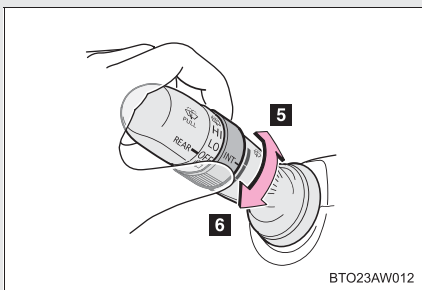
間欠時間調整式ワイパー

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

ワイパーの間欠時間も調整できます。



- 1 間欠作動（INT）
- 2 低速作動（LO）
- 3 高速作動（HI）
- 4 一時作動（MIST）



5 間欠ワイパーの作動頻度(減)

6 間欠ワイパーの作動頻度(増)



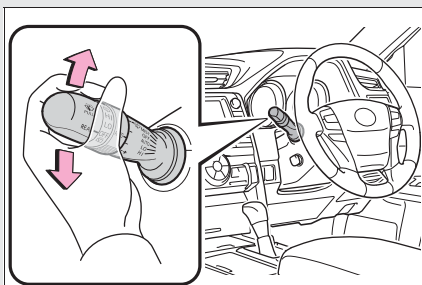
7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

雨滴感知式ワイパー：

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。

“AUTO” が選択されているときは、雨滴センサーの感度も調整できます。

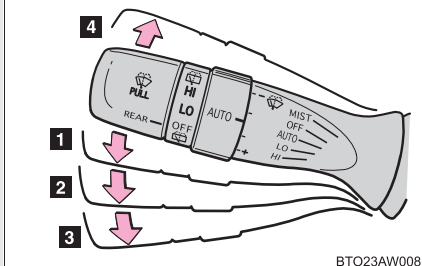


1 雨滴感知オート作動 (AUTO)

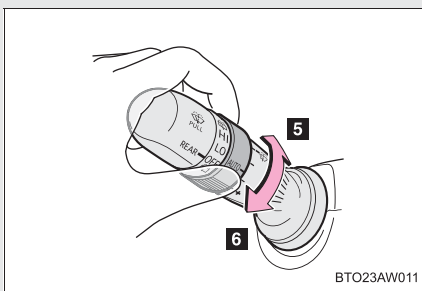
2 低速作動 (LO)

3 高速作動 (HI)

4 一時作動 (MIST)



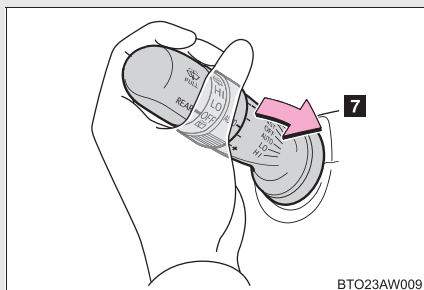
BTO23AW008



BTO23AW011

5 雨滴センサーの感度調整 (低)

6 雨滴センサーの感度調整 (高)



7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。
(数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。)

知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

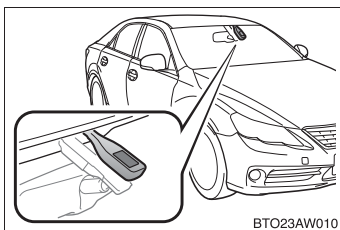
■車速による作動への影響（雨滴感知式ワイパー装着車）

- 車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。
- AUTO 選択時のワイパーLO 作動は、停車時のみ間欠作動へ切りかわります。（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。）

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ 雨滴感知センサー（雨滴感知式ワイパー装着車）



- 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに正しく作動しないことがあります。

- “エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、作動確認のためワイパーが 1 回作動します。
- 雨滴感知センサーの温度が 90℃以上または - 15℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO モード以外でワイパーを使用してください。

⚠ 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告（雨滴感知式ワイパー装着車）

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウィンドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウィンドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



注意

■ **フロントガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

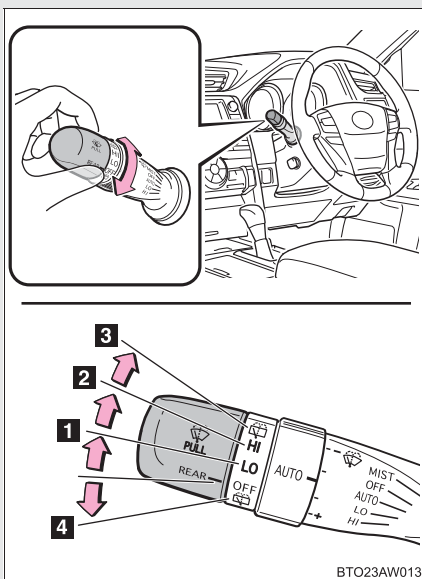
ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）*

次のようにレバーをまわして、ワイパーの作動を選択します。



- 1 間欠作動 (LO)
- 2 通常作動 (HI)
- 3 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。
- 4 ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。

知識

■ 作動条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ON” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備



注意

■ **リヤウインドゥガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

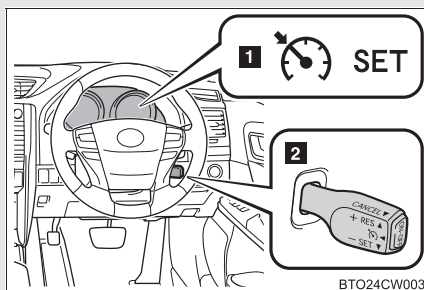
■ **ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。ノズルが損傷するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

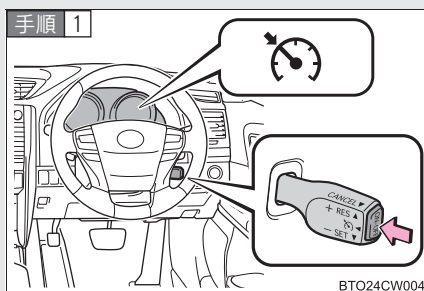
クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- ❶ クルーズコントロール表示灯
- ❷ クルーズコントロールスイッチ

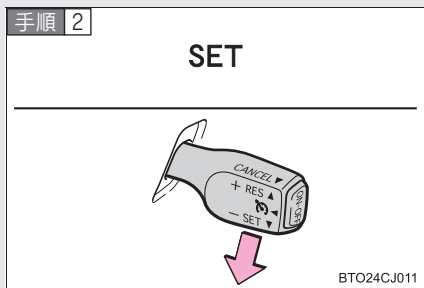
■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする。

メーター内のクルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF には、再度スイッチを押します。



希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げた速度を設定する。

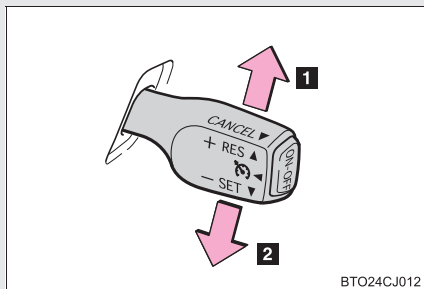
メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度になるまでレバーを操作します。



設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作するごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

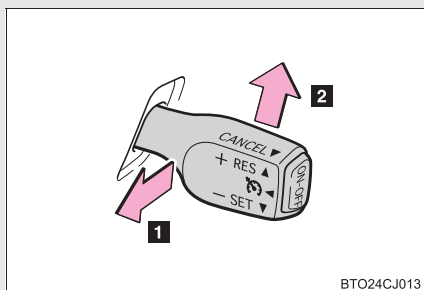
1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の车速になるまでレバーを保持する

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 定速走行にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4 ～ 6 レンジのとき設定できます。
- シフトパドルが S の 4 ～ 6 レンジのとき設定できます。(シフトパドル装着車)
- 車速は約 40 ～ 約 100km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

- 通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。
- クルーズコントロールを解除しなくても、希望の速度まで加速して、レバーを下げるにより設定車速を変更することができます。

■ 定速走行の自動解除

次のとき、自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 実際の速度が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した
- TRC が作動した

■ 定速走行中にクルーズコントロール表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。



警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使用しないときはON-OFFスイッチでシステムをOFFにしてください

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

次の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

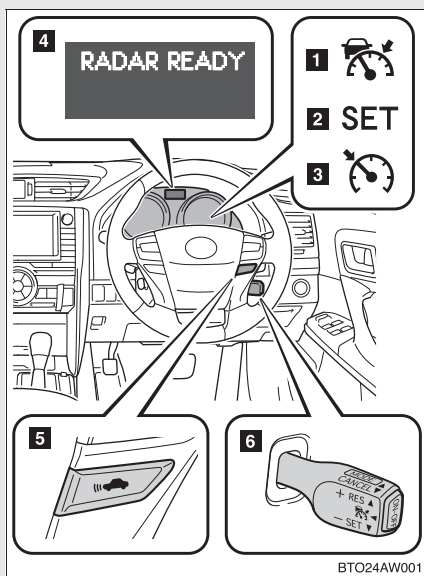
車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 車両けん引時

レーダークルーズコントロール *

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行を行ったり、定速制御モードにより一定の速度で走行できます。

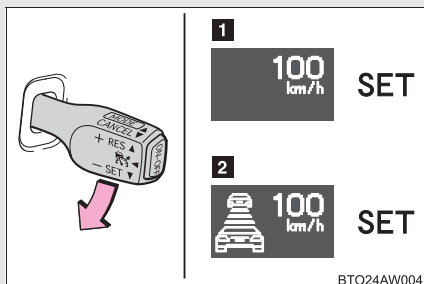
先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などで使用してください。



BTO24AW001

- 1 表示灯（車間制御モード）
- 2 表示灯（SET）
- 3 表示灯（定速制御モード）
- 4 マルチインフォメーションディスプレイ
- 5 車間距離切りかえスイッチ
- 6 レーダークルーズコントロールスイッチ

■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する



BTO24AW004

希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げた速度を設定する

メーター内に“SET”の表示灯が点灯します。

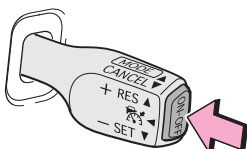
- 1 定速制御モード
- 2 車間制御モード

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 車速を設定する（車間制御モード）

手順 1

RADAR READY



BTO24AW002

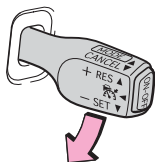
ON-OFF スイッチを押してシステムを ON にする。

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF にするには再度 ON-OFF スイッチを押します。

手順 2

SET



BTO24AW003

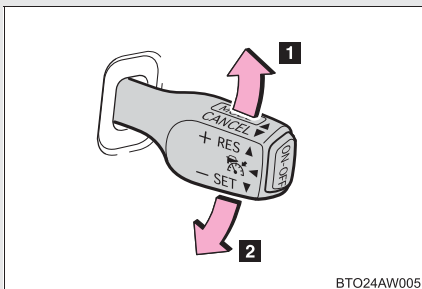
希望の速度まで加速／減速し、レバーを下げ速度を設定する。

メーター内のクルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの速度で定速走行できます。

■ 設定速度をかえるには

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



1 速度を上げる

2 速度を落とす

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

調整：希望の車速になるまでレバーを保持する

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1 km/h

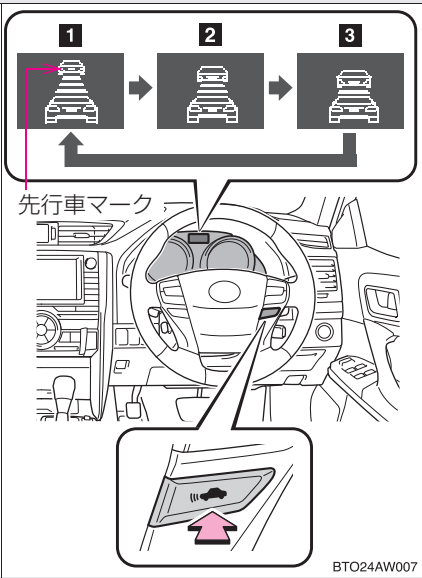
調整：レバーを保持する間、0.75 秒ごとに約 5 km/h

定速制御モード（→P. 190）では、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：レバー操作をするごとに約 1.6 km/h

調整：レバーを保持する間

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

“エンジン スタート ストップ” スイッチが ON モードになるたびに **1** に設定されます。

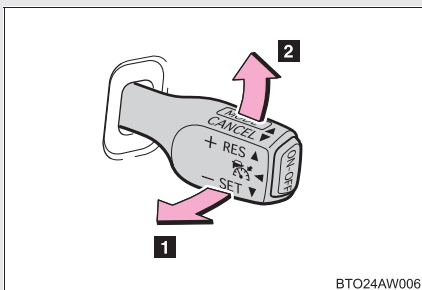
先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 車間距離選択の目安

次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80 km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ 制御を解除する・復帰させるには



BTO24AW006

1 解除するには、レバーを手前に引く

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 もとの制御状態にもどすには、レバーを上げる

レバーを上げると、もとの定速走行にもどります。

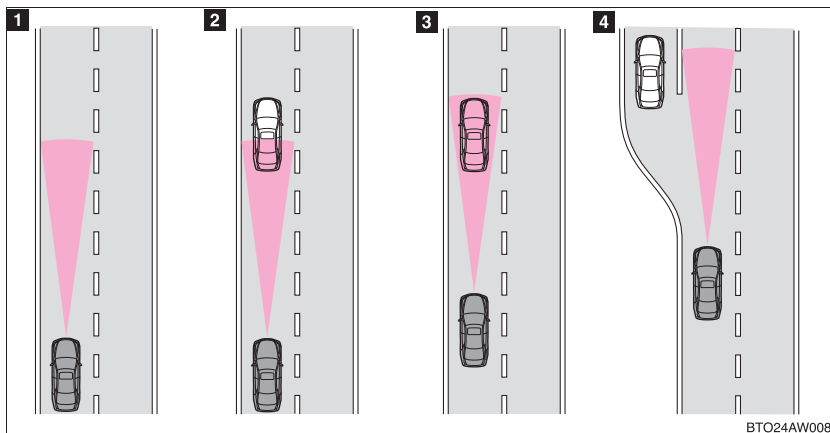
ただし、実際の速度が約 40 km/h 以下のときは復帰しません。

また、定速制御モードで使用しているときは、約 40km/h 以下になると設定速度が消去されるため、復帰しません。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。

長い下り坂を走行しているときは、車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

2 減速走行：

設定した速度より遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した速度より遅い先行車に追従するとき

先行車の车速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した速度より遅い先行車がいなくなったとき

設定速度までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

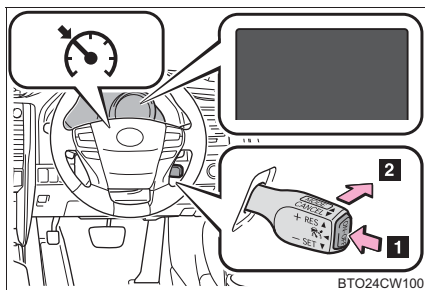
■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルが踏まれたとき

定速制御モードを選択する

定速制御モードを選択したときは、車間制御モードと異なり、先行車の有無に関わらず一定の速度で走行します。



- 1** ON-OFF スイッチを押して、システムを ON にする

メーター内のレーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。

OFF するには再度 ON-OFF スイッチを押します。

- 2** 定速制御モードに切り換え
(約 1 秒間レバーを前方に押し続ける)

定速制御モードに切りかえると、クルーズコントロール表示灯が点灯します。

定速制御モードから車間制御モードにもどすには、再度レバーを前方に約 1 秒間押し続けます。

希望の速度を設定したあとは車間制御モードに切りかえることはできません。

“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にし、再度 “エンジン スタート ストップ” スイッチをイグニッション ON モードにした場合は、自動で車間制御モードにもどります。

設定速度をかえるには

→P. 185

制御を解除する・復帰させるには

→P. 187

 知識**■ 設定条件について**

- シフトレバーが D または S の 4 ～ 6 レンジのとき設定できます。
- シフトパドルが S の 4 ～ 6 レンジのとき設定できます。(シフトパドル装着車)
- 車速は約 50 ～ 約 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため設定車速以下になることもあります。また、車両状態、走行環境によっては設定車速を維持できないことがあります。

■ 車間制御走行の自動解除

次のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

- 車速が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した
- センサーが何かでふさがれて適切に働かない
- 走行モードをスノーモードにセットした
- ワイパーが高速で作動した（ワイパースイッチを“AUTO”モードまたは高速作動の位置にしたとき）
- TRC が作動した

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

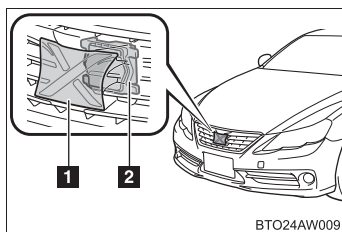
次のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した
- 車速が約 40 km/h 以下になった
- VSC が作動した
- TRC が作動した

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつらら・雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります)

汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

■ レーダークルーズコントロールの表示灯・警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、表示灯や警告メッセージ・警告表示・警告ブザーで注意をうながします。(→P. 355)

 警告**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると、思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点**●運転者が見る過程での支援内容**

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは“ON-OFF”スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告

■ **レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき
- 車両けん引時

■ **センサーが正しく検知しないおそれのある先行車**

次のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 189）も作動しないため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

**警告****■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

次の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーセンサーの作動のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

 警告

■ **レーダーセンサーの取り扱い**

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

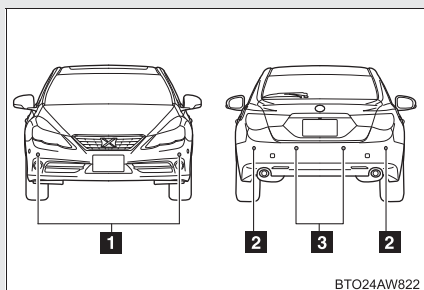
- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。センサー、または周辺に強い衝撃を受けた際は、必ず販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない
- センサーやグリルカバーを改造したり塗装したりしない
- 純正品以外の部品に交換しない
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。

クリアランスソナー*

クリアランスソナーは、車両と障害物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内の表示とブザー音で運転者にお知らせします。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、モニター画面でも距離を表示します。

■ センサーの種類

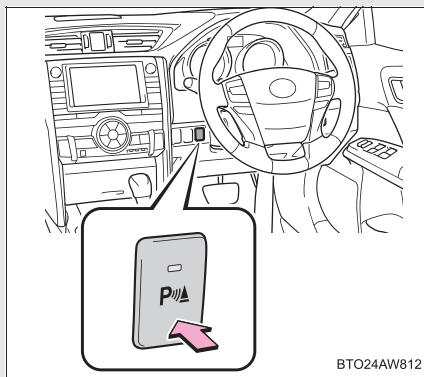


1 フロントコーナーセンサー

2 リヤコーナーセンサー

3 バックセンサー

■ クリアランスソナースイッチ



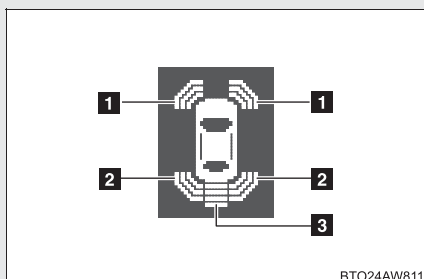
ON / OFF

スイッチを押すとクリアランスソナーはONになり、インジケーターが点灯します。

OFFにするには再びスイッチを押します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

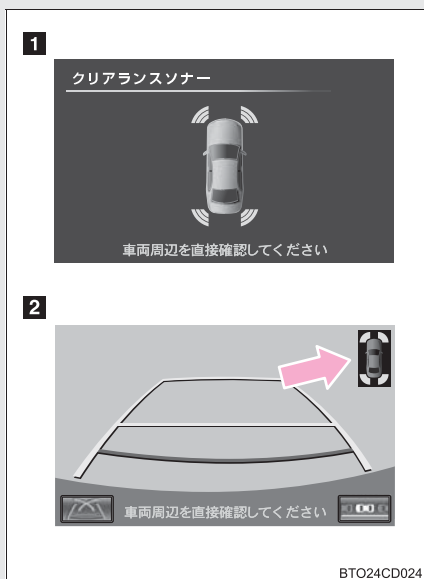
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示



- 1 フロントコーナースセンサー作動表示
- 2 リヤコーナースセンサー作動表示
- 3 バックセンサー作動表示

■ モニター画面の表示

(メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車)



障害物を感知すると自動的に表示されます。

- 1 バックガイドモニター・サイドモニター・インテリジェントパーキングアシスト非表示時

表示されないように設定することができます。(→P. 203)

- 2 バックガイドモニター・サイドモニター・インテリジェントパーキングアシスト表示時
画面上に簡略表示されます。
(左の画面はバックガイドモニターの場合です)

距離表示の見方

■ コーナーセンサー

障害物までの おおよその距離	マルチインフォメーション ディスプレイ表示	モニター表示	
		割り込み表示	
約 60 ～ 45cm	 (点灯)	 (点灯)	 (点滅)
約 45 ～ 30cm	 (点灯)	 (点灯)	 (早い点滅)
約 30cm 以下	 (点滅)	 (点灯)	 (点灯)

■ バックセンサー

障害物までの およその距離	マルチインフォメーションディスプレ イ表示	モニター表示 (割り込み表示)
約 150 ～ 60cm	 (点灯)	 (遅い点滅)
約 60 ～ 45cm	 (点灯)	 (点滅)
約 45 ～ 35cm	 (点灯)	 (早い点滅)
約 35cm 以下	 (点滅)	 (点灯)

音声案内とブザー音

障害物を感知すると、ブザーが鳴ります。

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車は、ブザー音と同時に音声案内を行います。

- 障害物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。障害物との距離が次のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。

- ・ フロントコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 30cm 以下
- ・ リヤコーナーセンサーが感知した障害物との距離が 30cm 以下
- ・ バックセンサーが感知した障害物との距離が 35cm 以下

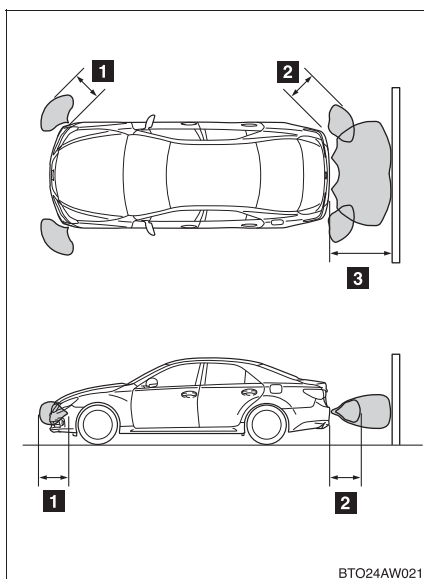
- 複数のセンサーが同時に障害物を感知しているときは、もっとも近い障害物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

ただし、感知した障害物のどちらかが上記の距離より近付くと、ブザーは断続音「ピピピピピピ」と連続音「ピー」をくり返します。また、両方が上記の距離より近付くと、ブザーは断続音「ピピ」と連続音「ピー」をくり返します。

- ブザーの音量と鳴るタイミングは、変更することができます。

- ・ メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車 (→P. 202)
- ・ メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車 (→P. 420)

障害物を感知する範囲



- 1 約 60cm (約 0.6m)
- 2 約 60cm (約 0.6m)
- 3 約 150cm (約 1.5m)

感知できる範囲は左図のとおりです。
ただし、障害物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

障害物の形状・条件によっては感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

音声案内・モニター画面表示・ブザーの設定 (メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車)

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき、クリアランスソナーの設定をすることができます。

手順 1 画面外の **設定・編集** を押す

手順 2 画面内の **運転支援** にタッチする

手順 3 画面内の **クリアランスソナー設定** にタッチする

■ ブザー音量設定

設定したい音量にタッチする

ブザー音量を調整することができます。

■ ソナー表示の ON・OFF

画面内の **ソナー表示なし** にタッチする

- 「ソナー表示なし」 にすると、タッチスイッチの作動表示灯が点灯します。

障害物が感知されたとき、自動的にクリアランスソナー画面が表示されるかどうか設定することができます。

■ 画面表示・ブザータイミング

画面内の **切替え** にタッチする

- タッチすることにより、感知範囲が「遠」（約 150cm 以内）と「近」（約 60cm 以内）に切りかわります。

バックセンサーの割り込み表示が表示される感知範囲と、ブザーが出力される感知範囲を調整することができます。

知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが P 以外にあるとき
 - ・ 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー・バックセンサー：
 - ・ “エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき
 - ・ シフトレバーが R にあるとき

■ クリアランスソナーに異常があるときは

マルチインフォメーションディスプレイに異常を知らせる画面が表示されません。(→P. 357)

■ センサーについて

次のときクリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷、雪、泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（とければ、正常に復帰します）
- 特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、障害物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道、坂道、砂利道、草むら走行時など
- 他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナを車に付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 標識などの物体によっては感知距離が短くなります
- バンパー真下付近は感知しません
- センサーより低い物体や細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知しなくなることがあります。
- ソナーに障害物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近に物をぶつけたときや、たたくななどの強い衝撃を与えたとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

障害物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■ 正確に感知できないことがある障害物

次のような物は感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金、フェンス、ロープなどの細いもの
- 綿、雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的なもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■ 販売店で設定可能な機能

メーカーオプションのナビゲーションシステム非装着車のブザー音量やバックソナーの検知開始距離などの設定を変更できます。
(カスタマイズ機能一覧 →P. 418)

⚠ 警告

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が 10km/h をこえないようにしてください
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）センサー感知範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください
- センサーが感知する範囲にはアクセサリ用品などを取り付けないでください

⚠ 注意

■ 洗車時の注意

高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ ナビ・ブレーキアシスト*

メーカーオプションのナビゲーションシステムからの情報を利用したブレーキアシストです。別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ ヒルスタートアシストコントロール*

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）*

車速やハンドルの動きに合わせて、タイヤの切れる角度を制御します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 215

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ VDIM (ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント) *

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS・VGRS を総合的に制御します。

すべりやすい路面の走行などで急なハンドル操作をした際に、ブレーキ・エンジン出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度を制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ AVS (アダプティブ バリアブル サスペンションシステム) *

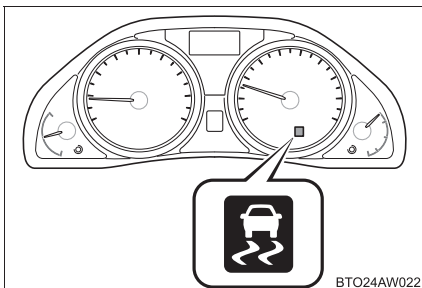
路面の状態や走行状況にあわせてショックアブソーバーの減衰力を4輪独立に制御するシステムです。走行モード制御スイッチ (→P. 141) の選択モードに従い、乗り心地の向上や走行安定性を良好な状態に保ちます。

- スポーツモードを選択すると、ノーマルモードに比べて硬めの減衰力に切りかわります。カーブの多い山道や高速で走行するときに適しています。

■ NAVI・AI-AVS *

AVS の制御に加え、メーカーオプションのナビゲーションシステムからの情報を利用した減衰力制御です。旋回直前にショックアブソーバーの減衰力を高めることにより、優れたコーナリング性能を実現します。ナビゲーションにおいてルート探索可能な道路にて制御を実施します。

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車両が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したとき、坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

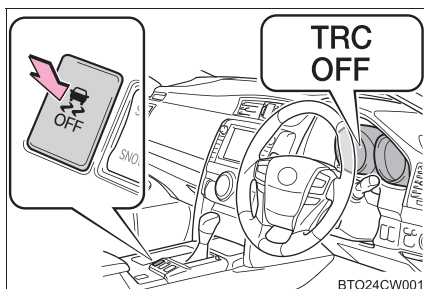
ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、 を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

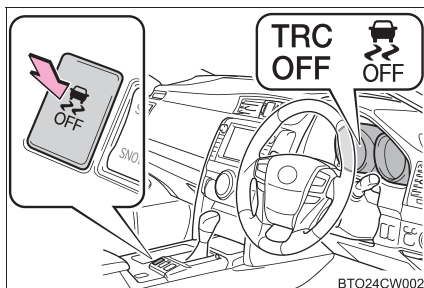
■ TRC を停止するには



TRCを停止するにはスイッチを押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。
もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには



TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し 3 秒以上保持します。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、エンジンを停止すると自動的に TRC と VSC は作動復帰状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロール・VGRS の作動音と振動

- エンジン始動時・発進直後・停止時・ブレーキをくり返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえたり、ハンドルが“ピクッ”と動いたりすることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥にはいる

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■VGRS の作動が停止する場合

次の状況では、VGRS が作動を一時的に停止することがありますが、異常ではありません。

- 停車中や極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき
この場合、VGRS のモーターやコンピューターが過熱するのを防ぐため、システムの作動を一時的に停止することがあります。このため、低速走行時のハンドル操作量が多くなりますが、走行には支障ありません。その後、モーターやコンピューターの温度が下がれば、数分で正常な状態に復帰します。また、モーターやコンピューターの温度が急激に上昇したときは、ハンドルの直進位置がずれる場合があります。ひんばんにこの状態になる場合、トヨタ販売店で点検を受けてください。
- -30℃ 程度の寒冷時でエンジン始動直後にハンドルを操作したとき
この場合、ハンドル操作量が多くなる場合がありますが、一時的に VGRS の作動を停止しているだけで異常ではありません。

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■低速時に素早くハンドル操作したときは

一時的にハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、そのまま走行することで、自動的に正常な位置に復帰します。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

VGRS が初期化され、一時的に、ハンドルの直進位置がずれる場合がありますが、通常のハンドル操作には支障はありません。ハンドルの直進位置は、そのまま走行することで、自動的に復帰します。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

 警告

次の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ **ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ **TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。



警告

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC・ヒルスタートアシストコントロールが作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、指定のメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 415）異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

ヒルスタートアシストコントロール*

急な上り坂やすべりやすい丘面を発進するときに、車両が後退するのを緩和し発進を容易に行うことができます。

車両が完全に停止している状態で、更にブレーキペダルを踏み込むと“ピッ”とブザーが鳴り、スリップ表示灯が点滅します。

知識

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールの作動時間は、ブレーキペダルから足を離して約 2 秒間です。
- ヒルスタートアシストコントロールが作動しているときは、ブレーキペダルを踏んでいなくても制動灯とハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキペダルを踏み込んでもスリップ表示灯が点滅せず、ブザーが鳴らないときは、一度ブレーキペダルを踏む力を弱めてください。（車両が後退しない程度）そのあともう一度ブレーキペダルを踏み込んでください。それでも作動しないときは次の作動条件を確認してください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件について

- 次の状態のときに、ヒルスタートアシストコントロールは作動します。
 - ・ シフトレバーが P 以外の位置のとき
 - ・ パーキングブレーキがかかっていないとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
- スリップ表示灯が点灯しているときは、ヒルスタートアシストコントロールは作動しません。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ヒルスタートアシストコントロール制御ブザーについて

- ヒルスタートアシストコントロールが制御可能状態になると“ピッ”とブザーが1回鳴ります。(シフトレバーがRの位置以外)
- ヒルスタートアシストコントロールが作動中に次の状態になると、制御終了状態になり“ピッピッ”とブザーが2回鳴ります。(シフトレバーがRの位置以外)
 - ・ブレーキペダルから足を離して、約2秒間運転操作を行わなかったとき
 - ・シフトレバーをPの位置にしたとき
 - ・パーキングブレーキをかけたとき
 - ・ブレーキペダルを再度踏み込んだとき
 - ・ブレーキペダルから足を離さずに約3分以上経過したとき
- シフトレバーがRの位置での使用は、ヒルスタートアシストコントロールの制御開始・終了を知らせるブザーは鳴らず、スリップ表示灯の点滅・消灯で作動状態をお知らせします。

警告

■ヒルスタートアシストコントロールについて

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での長時間の駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物と衝突の可能性がある
と判断したときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、
衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、また
は前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシート
ベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員や車両への衝撃の軽減に寄
与します。

■ 衝突警告表示



衝突の可能性が高い場合には、“ピピ
ピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告
灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避
操作をうながします。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断
したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作
動します。（→P. 63）

ただし、VSC システムが作動していないときに、横すべりした場合は作動し
ません。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときにブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ
力を増強します。

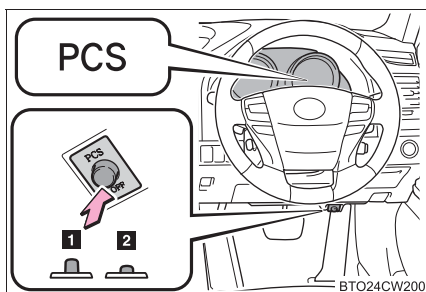
■ プリクラッシュブレーキ

前方の車両や障害物との衝突の可能性が高いときに警告灯、衝突警告表示、ブ
ザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキ
をかけて、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレー
キを OFF にすることができます。

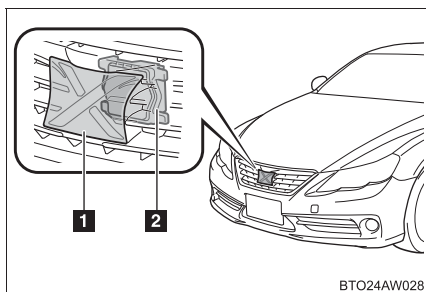
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切りかえ

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。



レーダーセンサー



レーダーセンサーにより、走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突する可能性を事前に判断します。

- 1 グリルカバー
- 2 レーダーセンサー

 知識

■ システムの作動条件

- プリクラッシュシートベルトの作動条件（衝突が避けられないと判断したときの作動）
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトを着けている
 - ・ 車速が約 5 km/h 以上
 - ・ 自車からみた前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
- プリクラッシュシートベルトの作動条件(急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったと判断したときの作動)
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトを着けている
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 急ブレーキや、車両の横すべりを判断したとき
- プリクラッシュブレーキアシストへの作動条件：
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 自車からみた前方の車両や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
 - ・ ブレーキペダルが踏まれているとき
- プリクラッシュブレーキの作動条件：
 - ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・ 自車速度が約 15 km/h 以上
 - ・ 自車からみた前方の車両や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■ センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■ レーダーセンサーとグリルカバーについて

レーダーセンサーやフロントグリルのカバーの前後面が雪や氷などで汚れた場合、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「PCS 現在使用できません」と表示されます。雪や氷などの汚れを取り除き、走行すると警告灯は消灯します。

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況
- VSC システムが作動していないときに、車が横すべりしている状態
- 車両姿勢が極端に変化している状態
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、次の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口に障害物があつたとき
- カーブで対向車とすれ違ったとき
- 細い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があつたとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれ違ったとき
- 前を走っている車に急に近付いたとき
- ETC ゲートを高速で通過するとき
- 立体交差・道路上の標識・案内看板などがあつたとき
- 車高が極端に変化している場合（ノーズアップ・ノーズダウン）
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃などにより、レーダーセンサーの向きがずれているとき
- 路面の勾配の為、衝突しない位置の金属物が進行方向に見えるとき
- 陸橋を通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 352、356、359)

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■ システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」・「判断する」・「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良時の運転を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。



警告

■レーダーセンサーの取り扱い

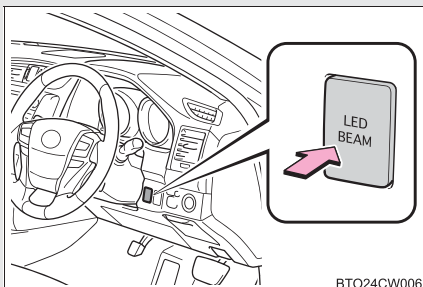
プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように次のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- レーダーセンサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに誤作動または異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーは電波法の基準に適合しています。センサーに貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。また、センサーを分解・改造すると罰せられることがあります。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカーを貼ったりしない。
- センサーやグリルを改造したり、塗装したりしない。

■プリクラッシュセーフティシステムの限界

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

LED イルミネーションビーム*



オン / オフ

オンにするとフロントバンパーのLED イルミネーションビームが点灯します。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でLED イルミネーションビームを長時間点灯しないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

次の警告をお守りください。お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はトランクに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ フタのない小物入れ / トレイ

 警告

- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- トランクに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員には適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。
- タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（→P. 415）

■ 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底についた雪をよく落としてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

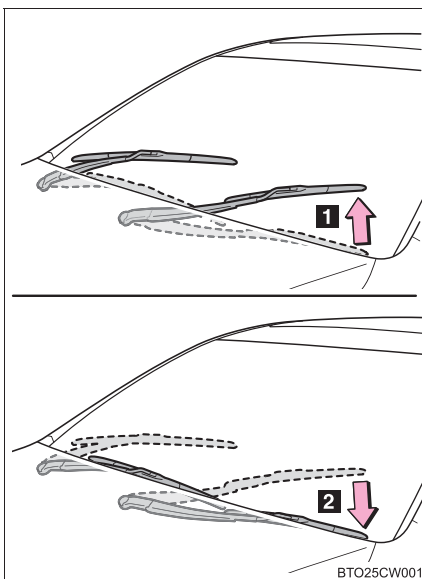
パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、輪止め※をしてください。

※：輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ワイパー停止位置の切りかえ（寒冷地仕様車）

積雪や凍結のおそれがある場合は、あらかじめフード下に格納されているワイパーを積雪時の停止位置に切りかえておきます。

ワイパーアームのフック部をしっかり持ってワイパーの停止位置の切りかえを行ってください。



1 積雪時の停止位置にする：
ガラス面にそって引き上げます。

2 通常の停止位置にもどす：
フック上部を手で押します。

ワイパーを立てるときは、積雪時の停止位置に切りかえてから立ててください。

 知識

■ **タイヤチェーンについて**

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱書に従う
- 取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしを行う
- 19 インチタイヤにはタイヤチェーンを装着することはできません。

■ **寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 警告**■冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうをこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



注意

■ タイヤチェーンの使用について

- 必ずマーク X 指定のトヨタ純正品を使用してください。
上記のチェーン以外のタイヤチェーンを使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- アルミホイール*にタイヤチェーンを取り付けるとホイールに傷が付くことがあります。

■ フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内装備の使い方

3

3-1. エアコン・デフォグガーの 使い方

オートエアコン	230
リヤウインドウデフォグガー （曇り取り）	239
フロントウインドシールド デアイサー	241

3-2. オーディオの使い方

オーディオの種類 （ナビゲーションシステム 非装着車）	242
ラジオの使い方	244
CD プレーヤーの使い方	246
MP3/WMA ディスクの 聞き方	251
快適に聞かために	258
ステアリングスイッチ	260
AUX 端子の使い方	263

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	265
-------------	-----

3-4. 収納装備の使い方

収納装備一覧	268
--------------	-----

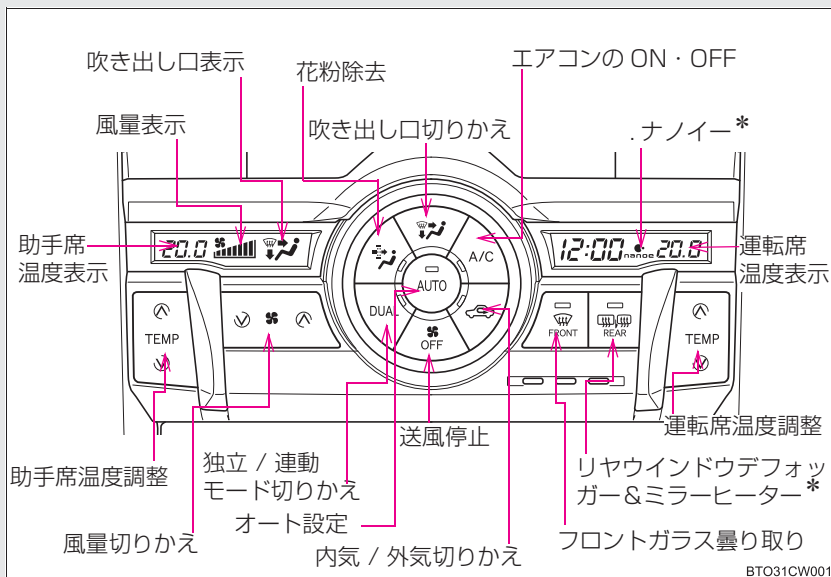
3-5. その他の室内装備の 使い方

サンバイザー	277
バニティミラー	278
時計	279
アクセサリソケット	280
シートヒーター	281
アームレスト	283
リヤサンシェード	284
フロアマット	287
トランク内装備	289
アシスト グリップ	290

3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

オートエアコン

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。



オート設定を使うとき

■ 連動モード

運転席と助手席の設定温度を同じにします。(助手席の設定温度が運転席と同じになります)

手順 1  を押す

エアコンが作動し吹き出し口と風量を自動で調整します。

連動モード時は  の作動表示灯が消灯します。

手順 2 設定温度を上げるときは運転席の  の△を、

下げるときは▽を押す

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 独立モード

運転席と助手席の設定温度を独立してかえることができます。

手順 1  を押す

エアコンが作動し、吹き出し口と風量を自動で調整します。

手順 2  を押す（作動表示灯が点灯）

または、助手席の  を押す

手順 3 運転席側は  、助手席側は  を押し、温度を調整する

再び  を押すと、作動表示灯が消灯し連動モードになります。

独立モード時、後席の吹き出し温度は、助手席側に連動しています。

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

 を押す

スイッチを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

運転席側は  、助手席側は  を押し、温度を調整する

連動モード使用時、助手席側の  を押すと独立モードに切りかわります。

■ 風量をかえるには

風量切りかえスイッチの  (増) か  (減) を押す

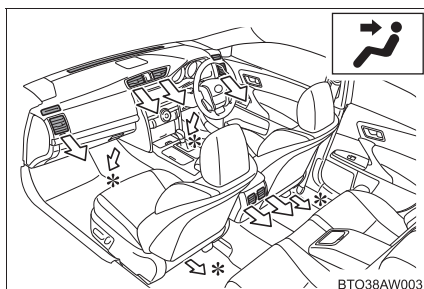
風量は7段階に調整できます。

送風を止めるときは  を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

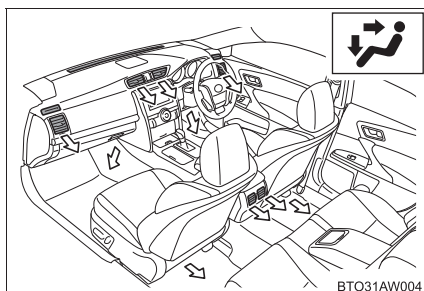
 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

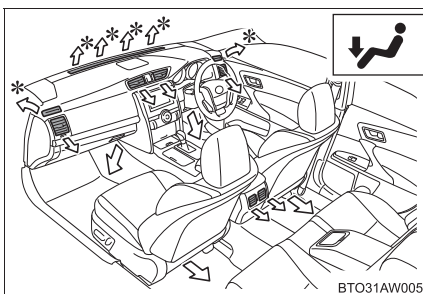


上半身に送風

* 冷房時に、AUTO スイッチを ON にすると送風されることがあります。



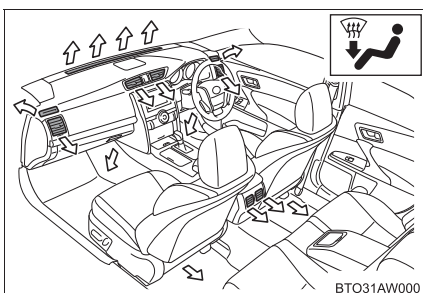
上半身と足元に送風



足元に送風

*室内温度などの条件によっては、送風される場合があります。

また、AUTO スイッチが ON のとき、送風されます。



足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

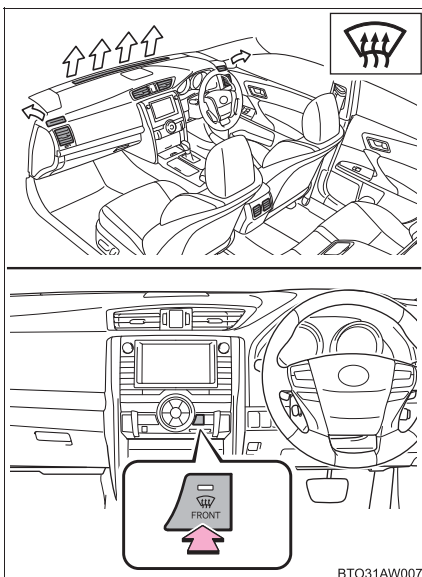


を押す

スイッチを押すたびに、外気導入・内気循環が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、 の作動表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには



を押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。
内気循環にしている場合は、外気導入
にしてください。(自動的切りかわる
場合もあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、
より早く曇りを取ることができます。

曇りが取れたら再度



を

押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには



を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約3分後に(外

気温が低いときは 約1分後に)



を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度



を押すと前のモードにもどります。

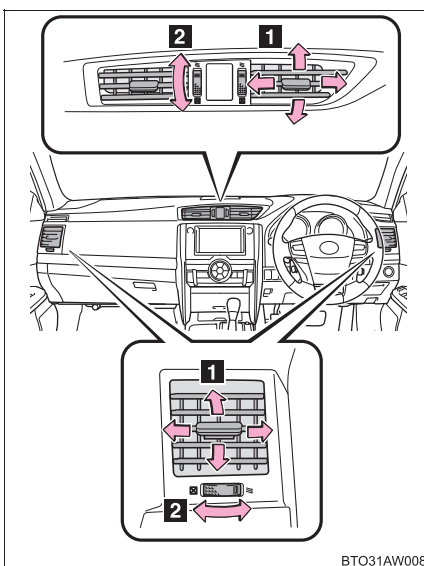
「ナノイー」を使うには*



ファンが作動すると自動的に「ナノイー」が作動し、表示部に「nanoe」が表示されます。

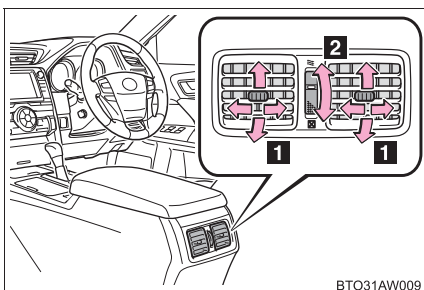
風向きの調整と吹き出し口の開閉

フロント吹き出し口（中央吹き出し口／左右吹き出し口）



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

リヤ吹き出し口



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■エコドライブモードのエアコン作動について

エコドライブモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

- エンジン回転数やコンプレッサーの作動を抑制し、暖房 / 冷房の能力を抑制します。
- オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。

- 風量を調整する。
- エコドライブモードを解除する。

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されます。次のような制御をする場合があります。

-  を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する
- 暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切りかわる場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき



を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■花粉除去モードについて

- 外気温が低いときは、フロントガラスの曇りを防止するために次のような制御をする場合があります。

- ・ 内気循環に切りかわらない
- ・ エアコンの電源が自動的に入る
- ・ 1 分後作動が停止する

- 雨天時は窓が曇るため、 を押してください。

- 湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。
- 花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」※¹ について（「ナノイー」装着車）

エアコンには「ナノイー」技術が搭載されています。この技術は中央吹き出し口（右側）を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気で満たします※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します。
- 「ナノイー」の作動中、以下の条件で効果を発揮します。以下の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
 - ・ 吹き出し口が 、 または  のとき
 - ・ 中央吹き出し口（右側）の吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※¹：「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※²：車室内の環境（温度・湿度）・風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■水加熱ヒーターシステムについて（寒冷地仕様車）

エンジン冷寒時の暖房効果を高めます。

エコドライブモード OFF（→P. 141）で最大暖房時に、コンピューターが急速暖房を必要と判断した場合、自動的に水加熱ヒーターシステムが作動します。エンジンが暖まると自動的に作動が停止します。

■ エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは



を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界をさまたげる場合があります。

■ 「ナノイー」について（「ナノイー」装着車）

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

■ 「ナノイー」の損傷を防ぐために（「ナノイー」装着車）

中央吹き出し口（右側）の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かないおそれがあります。

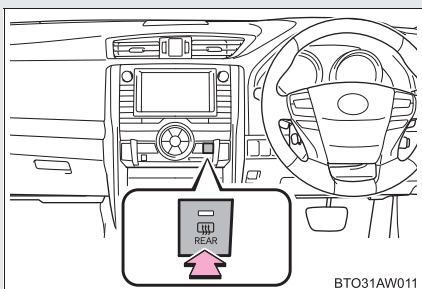
3-1. エアコン・デフォグガーの使い方

リヤウインドウデフォグガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取る時や、ドアミラーから雨滴や霜を取る※
ときにお使いください。

※：ミラーヒーター装着車のみ

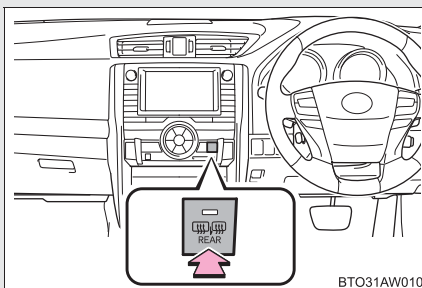
ミラーヒーター非装着車



ON / OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォグガーは、約 15 分で自動的に OFF になります。ただし、外気温や車速などの条件により最大約 60 分間作動することがあります。

ミラーヒーター装着車



ON / OFF を切りかえる

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、約 15 分で自動的に OFF になります。ただし、外気温や車速などの条件により最大約 60 分間作動することがあります。

 知識

■ **作動条件**

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ **ミラーヒーターについて（ミラーヒーター装着車）**

リヤウインドウデフォグガーを ON にすると、ミラーヒーターも同時に作動します。

 警告

■ **ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）**

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

 注意

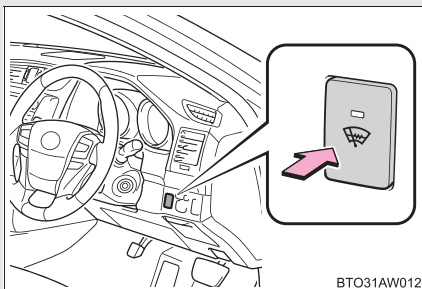
■ **バッテリーあがりを防ぐために**

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントウインドシールドデアイサー*

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

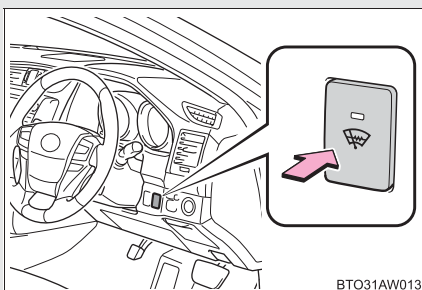
スマートエントリー&スタートシステム非装着車



ON / OFF を切りかえる

フロントウインドシールドデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

スマートエントリー&スタートシステム装着車



ON / OFF を切りかえる

フロントウインドシールドデアイサーは、約 15 分で自動的に OFF になります。

⚠ 警告

■ 作動中の警告

フロントウインドウガラス下部、およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

3-2. オーディオの使い方

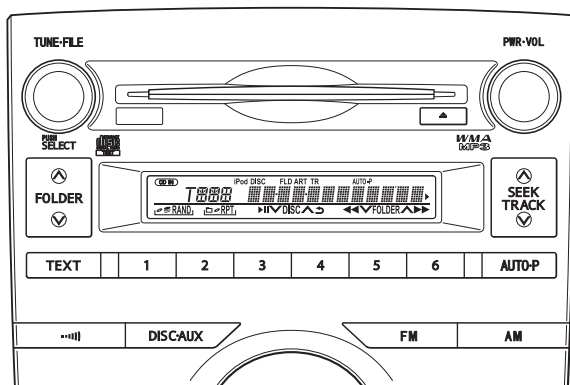
オーディオの種類（ナビゲーションシステム非装着車）＊

ナビゲーションシステム非搭載車

CD プレーヤー、AM/FM ラジオ

ナビゲーションシステム搭載車

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。



BTO39AW001

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 244
CD プレーヤーの使い方	P. 246
MP 3 / WMA ディスクの聞き方	P. 251
快適に聞くために	P. 258
ステアリングスイッチ	P. 260

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

 注意

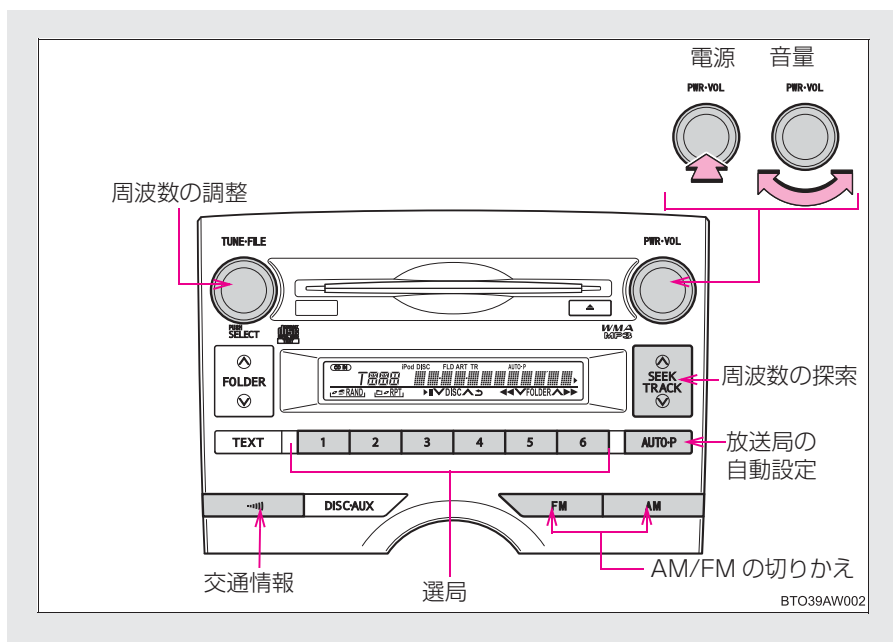
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■ オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

3-2. オーディオの使い方 ラジオの使い方



放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1  をまわして、または  の "∧" (高い周波数) または

"V" (低い周波数) を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ 1 ～ 6 を "ピッ" と音が鳴るまで長押しする

■ 自動設定

AUTO-P を "ピッ" と音が鳴るまで長押しする

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると "ピッピッ" と音が鳴ります。

交通情報を受信する

 を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ について

- 新車時は、1620kHz にセットしてあります。
- AMラジオモードのとき  を "ピッ" と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を  に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz にもどります。

-  を 押して、ラジオを受信しているときは、



 ～  ・  を操作しても、周波数は切りかわりません。

■ バッテリーとの接続が断たれたときは

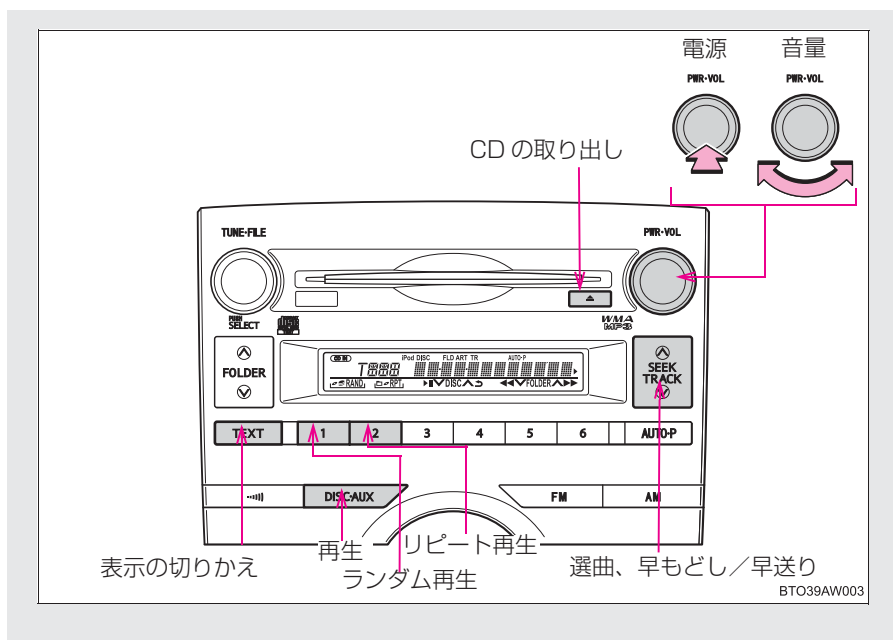
 ～  に設定されていた放送局が消去されます。

■ 受信感度について

- 走行中はアンテナの位置がそのときどきかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。
-  を使っているとき、自動選局や自動記憶ができないことがあります。
- ラジオ用アンテナはリヤガラスに埋め込まれています。

3-2. オーディオの使い方

CD プレーヤーの使い方



CD を挿入する

CD を挿入する

CD を取り出す

 を押して CD を取り出す

曲を選ぶ



の "△" (次曲) または "○" (前曲) を押して聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし、早送りする

早送りするには、の"Λ"（早送り）または"V"（早もどし）を押し続ける

ランダム（RAND）再生する

（RAND）を押す

リピート（RPT）再生する

（RPT）を押す

表示を切りかえる

を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。
曲番および経過時間 → CD タイトル → 曲名

知識

■ 表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合、TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 (RAND) または (RPT) を押します。

■ エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

■ 再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。



コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

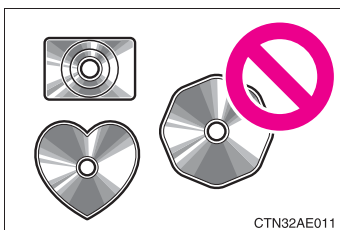
■ CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

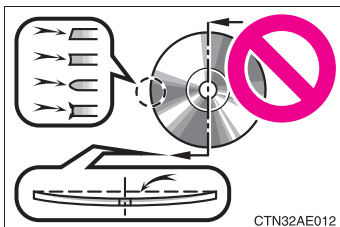
⚠ 注意

■ 使用できない CD、アダプター

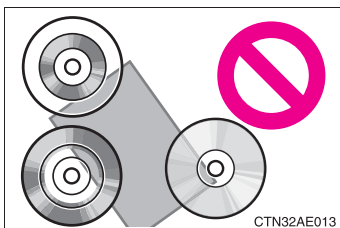
次のような CD や 8cm CD アダプター、Dual Disc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。



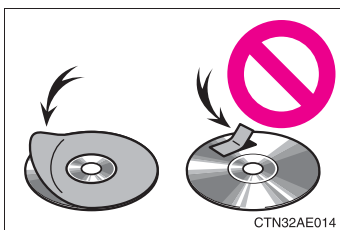
- 直径 12cm の円形以外の CD



- 低品質または変形している CD



- 記録部分が透明または半透明の CD



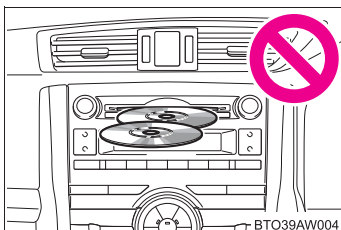
- セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

 注意

■ **CD プレーヤーの取り扱いについて**

次のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

- CD 挿入口に CD 以外のものを入れない
- CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない
- CD は直射日光を避けて保管する
- CD プレーヤーを分解しない
- 変形したディスクを使用しない



- 一度に2枚以上のCDを挿入しない

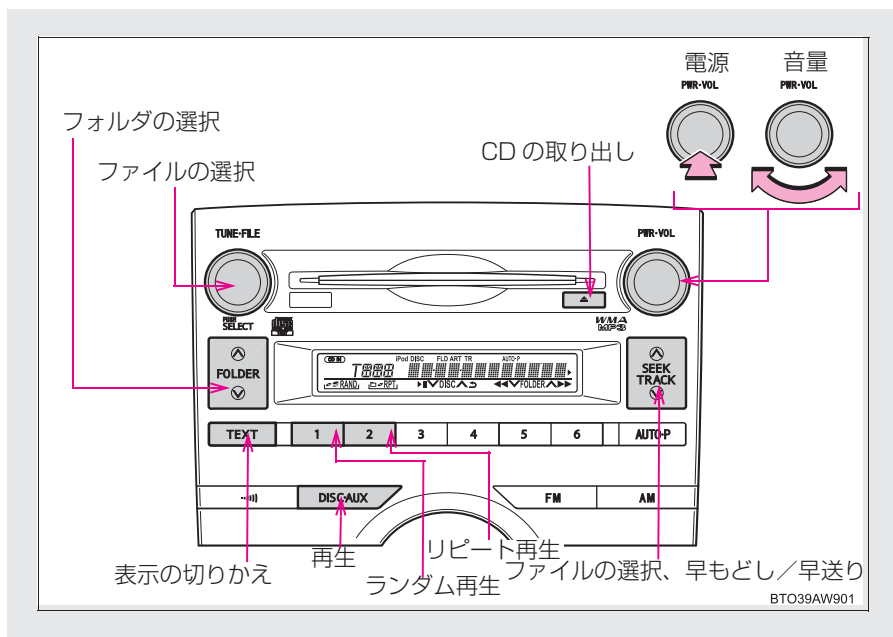
■ **CDをプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると**

CDが傷付き使用できなくなるおそれがあります。

■ **レンズクリーナー**

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

MP3/WMA ディスクの聞き方



MP3/WMA ディスクを挿入する、または取り出す

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。(→P. 246)

早もどし、早送りする

詳細は「CD プレーヤーの使い方」をご覧ください。(→P. 247)

フォルダを選ぶ・最初のフォルダにもどる



の "Λ" (次フォルダ) または



の "V" (前フォルダ) を押し

て聞きたいフォルダを選ぶ

最初のフォルダにもどるには、"V" を "ピッ" と音が鳴るまで押します。

ファイルを選択する



をまわして、または  の "Λ" (次ファイル) または "V" (前ファイル) を押して、聞きたいファイルを探す

ファイルをくり返して再生する

 (RPT) を押す

フォルダをくり返して再生する

 (RPT) を "ピッ" と音が鳴るまで押す

ランダム (RAND) 再生する

■ 特定のフォルダの中から無作為にファイルを再生するには

 (RAND) を押す

■ ディスクの中から無作為にすべてのファイルを再生するには

 (RAND) を "ピッ" と音が鳴るまで押す

表示を切りかえる

 を押す

押すごとに、次のように表示が切りかわります。

フォルダ番号・ファイル番号・経過時間 → フォルダタイトル → ファイル名 → ディスクタイトル (MP3 のみ) → 曲名 → アーティスト名

知識

■ 表示について

ディスプレイに一度に表示できるのは 12 文字までです。

CD タイトル、または曲名が 13 文字以上の場合、TEXT を 1 秒間以上押し続けることにより、13 文字以降を表示できます。

表示できるのは最大で 24 文字です。

TEXT をもう一度 1 秒間以上押す、または約 6 秒以上操作をしないまま放置すると、もとの 12 文字目までの表示にもどります。

記録されている内容によっては、正しく表示されなかったり、表示自体されないことがあります。

■ ランダム再生、リピート再生の解除

もう一度 (RAND) または (RPT) を押します。

■ エラー表示

“ERROR”：ディスクが汚れているときや、裏表逆などで読み取りができないとき、もしくはプレイヤー内部に異常があるときに表示されます。

“NO MUSIC”：ディスク内に MP3/WMA ファイルが収録されていないときに表示されます。

■ 再生可能な CD

次のマークの付いたディスクが再生できます。記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。また、ファイナライズ処理されていないディスクは再生できません。



■ CD プレーヤー保護機能

プレーヤー内部を保護するため、使用中に異常が生じたときは自動的に再生が停止します。

■MP3/WMA ファイルについて

MP3 (MPEG Audio LAYER3) は、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

MP3 を使用すれば、もとのファイルを約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

WMA (Window Media Audio) は、Microsoft Corporation の音声圧縮フォーマットです。MP3 よりも小さいサイズに圧縮することができます。

使用できる MP3/WMA ファイルの規格やそれを記憶したメディア、フォーマットには制限があります。

●再生可能な MP3 ファイルの規格について

- ・ 対応規格
MP3 (MPEG1 LAYER3、MPEG2 LSF LAYER3)
- ・ 対応サンプリング周波数
MPEG1 LAYER3 : 32、44.1、48 (kHz)
MPEG2 LSF LAYER3 : 16、22.05、24 (kHz)
- ・ 対応ビットレート
MPEG1 LAYER3 : 64、80、96、112、128、160、192、224、256、320 (kbps)
MPEG2 LSF LAYER3 : 64、80、96、112、128、144、160 (kbps)
※ VBR に対応しています。
- ・ 対応チャンネルモード : ステレオ、ジョイントステレオ、デュアルチャンネル、モノラル

●再生可能な WMA ファイルの規格について

- ・ 対応規格
WMA Ver.7、8、9
- ・ 対応サンプリング周波数
32、44.1、48 (kHz)
- ・ 対応ビットレート
Ver.7、8 : CBR48、64、80、96、128、160、192 (kbps)
Ver.9 : CBR48、64、80、96、128、160、192、256、320 (kbps)
※ 2ch 再生のみ対応しています。

●使用できるメディアについて

MP3/WMA ファイルの再生使用できるメディアはCD-RおよびCD-RWです。

CD-R、CD-RWの状態によっては再生できないことがあります。また、ディスクに傷や指紋をつけた場合、再生できないことや、音飛びすることがあります。

●使用できるディスクのフォーマットについて

使用できるメディアのフォーマットは下記のとおりです。

- ・ ディスクフォーマット：CD- ROM Mode1 および Mode2、CD- ROM XA、Mode2 Form1 および Form2

- ・ ファイルフォーマット：ISO9660 レベル 1、レベル 2 (Romeo, Joliet)

上記フォーマット以外で書き込まれた MP3/WMA ファイルは正常に再生できなかったり、ファイル名やフォルダ名などが正しく表示されないことがあります。

規格ならびに制限事項は次のとおりです。

- ・ 最大ディレクトリ階層：8 階層
- ・ 最大フォルダ名／ファイル名文字数：半角 32 文字（全角文字で記録された情報をこのオーディオで表示することはできません。）
- ・ 最大フォルダ数：192（ルート含む）
- ・ ディスク内最大ファイル数：255

●ファイル名について

MP3/WMA と認識し再生するファイルは、MP3/WMA の拡張子 ".MP3" または ".wma" が付いたものだけです。

●マルチセッションについて

マルチセッションに対応しており、MP3/WMA ファイルを追加したディスクの再生が可能です。ただし、ファーストセッションのみ再生します。

- ID3 タグ /WMA タグについて

MP3 ファイルには、ID3 タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができます。曲のタイトル、アーティスト名などを記録することができます。

ID3 Ver.1.0、1.1、ID3 Ver.2.2、2.3 のタグに対応しています。（文字数は ID3 Ver.1.0、1.1 に準拠します。）

WMA ファイルには、WMA タグと呼ばれる付属文字情報を入力することができます。ID3 タグと同様に曲のタイトル、アーティスト名を記録することができます。

- MP3/WMA の再生について

MP3/WMA ファイルが収録されているディスクを挿入すると、最初にディスク内のすべてのファイルをチェックします。ファイルのチェックが終わると、最初の MP3/WMA ファイルを再生します。

ディスク内のチェックを早く終わらせるために、MP3/WMA ファイル以外のファイルや必要のないフォルダなどを書き込まないことをおすすめします。

音楽データと MP3、または WMA 形式のデータが混在しているディスクは再生できません。

- 拡張子について

MP3/WMA 以外のファイルに ".mp3" または ".wma" の拡張子が付いていると、MP3/WMA ファイルと誤認識して再生してしまい、大きな雑音が出てスピーカーを破損することがあります。

●再生について

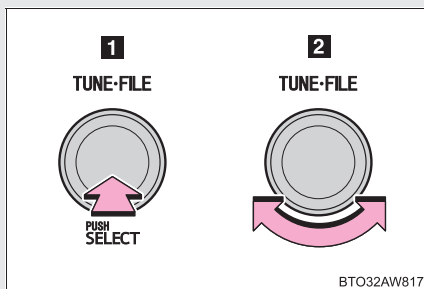
- ・ 安定した音質で再生するために、MP3 の場合、128kbps の固定ビットレート、44.1 kHz のサンプリング周波数を推奨します。
- ・ CD-R、CD-RW はディスクの特性により再生できないことがあります。
- ・ MP3/WMA は市場にフリーウェアなど多くのエンコーダソフトが存在し、エンコーダの状態やファイルフォーマットによって、音質が劣化したり再生開始時にノイズが発生したりするおそれがあります。また、再生できないことがあります。
- ・ ディスクに MP3/WMA 以外のファイルを記録すると、ディスクの認識に時間がかかったり、再生できないことがあります。Microsoft、Windows、Windows Media は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標および商標です。

**注意**

- 使用できない CD、アダプター (→P. 249)
- CD プレーヤーの取り扱いについて (→P. 250)
- CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると (→P. 250)
- レンズクリーナー (→P. 250)

3-2. オーディオの使い方

快適に聞くために



1 ツマミを押してモードを表示させる

2 ダイヤルをまわして次の設定を変更する

- 音質と音量バランス (→P. 258)

最適な音質と音量バランスで聞くために設定を変更することができます。

- オートマチックサウンドレベライザー (→P. 259)

設定を変更するには

■ 音質モードの切りかえ



を押すごとに次のように切りかわります。

FAD → BAS → TRE → BAL → ASL

■ 音質の調整



をまわして音質のレベルを調整します。

音質モード	表示	レベル	左にまわす	右にまわす
前後音量 バランス	FAD	R7 ～ F7	うしろ側大	前側大
低音※	BAS	-5 ～ 5	弱	強
高音※	TRE	-5 ～ 5		
左右音量 バランス	BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

※音質レベルは、ラジオまたは CD プレーヤーで調整できます。

■ オートマチックサウンドレベライザー（ASL ※）



音質モードがASLのとき、を右にまわすとASLがLOW → MID

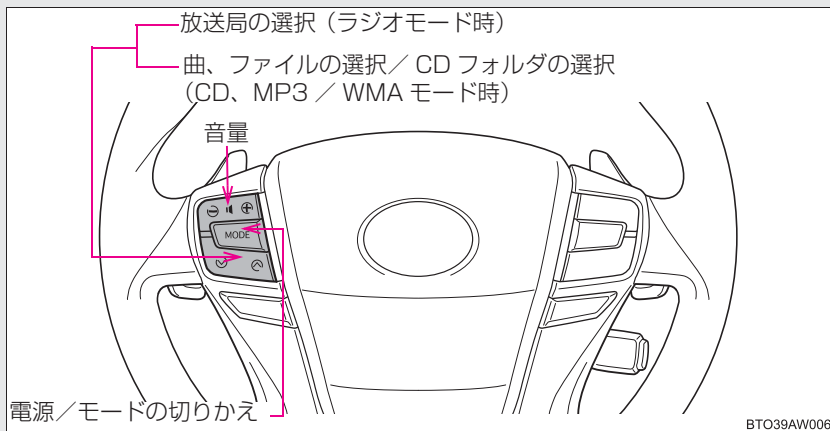
→ HIGH になり、左にまわすとASL オフになります。

走行時の室内騒音量に応じて音質や音量を自動的に調整します。

※ ASL は Automatic Sound Levelizer の略です。

ステアリングスイッチ*

ハンドル左側のスイッチでオーディオを操作することができます。
装着されているオーディオ・ナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは製品に付属の各取扱書をご覧ください。



電源 / モードの切りかえ

■ 電源



を押す

電源が ON のときに、ボタンを "ピッ" と音が鳴るまで押すと OFF になります。

■ モードの切りかえ

電源が ON のとき、 を押す

次のように切りかわります。

AM → FM → CD (MP3/WMA)

CD が挿入されていないときは、選択できません。

音量を調整する

 を押す（大きくする）

 を押す（小さくする）

ボタンを押し続けると、音量を連続して調整できます。

放送局を選択するには

手順 1  を押して、AM または FM を選択する

手順 2  または  を押す。

ボタンを押すごとに、記憶させている周波数を選択します。

"ピッ"と音がするまで押し続けると、自動で受信可能な周波数を選択します。

CD の操作

■ 選曲するには

手順 1  を押して、CD を選択する

手順 2  または  を押して、希望の曲を選択する

MP3/WMA の操作

■ ファイルを選択するには

手順 1  を押して、CD（MP3/WMA）を選択する

手順 2  または  を押して、希望のファイルを選択する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ フォルダの選択をするには

手順 1



を押して、CD (MP3/WMA) を選択する

手順 2



または  を“ピッ”と音がするまで押し続けて、希望のフォルダを選択する

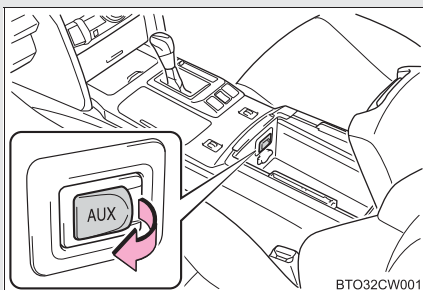
警告

■ 事故を防ぐために

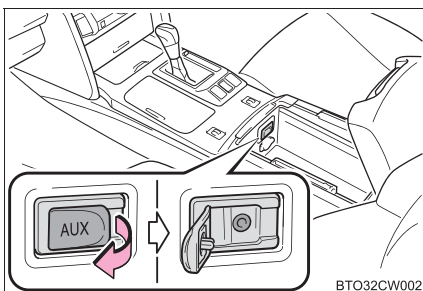
運転中にステアリングスイッチを操作するときは、十分注意してください。

AUX 端子の使い方*

ポータブルオーディオプレーヤーなどの機器を接続して、車両のスピーカーで聞くことができます。



ポータブルオーディオプレーヤーなどとの接続



フタを開けてポータブルオーディオプレーヤーなどを接続する

市販のミニプラグを使用して、接続する機器の音声出力端子と AUX 端子とを接続します。

接続する機器の電源が OFF の状態で接続してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

使用するとき

手順 1 を押す

手順 2 接続した機器の電源を ON にし、再生を開始する

操作方法は、接続する機器の取扱書を参照してください。

●音量は、接続した機器および車両の  を操作して調整します。

●音質は、接続した機器側で調整します。

使用しないときは、接続した機器側で停止操作を行い、電源を OFF にします。

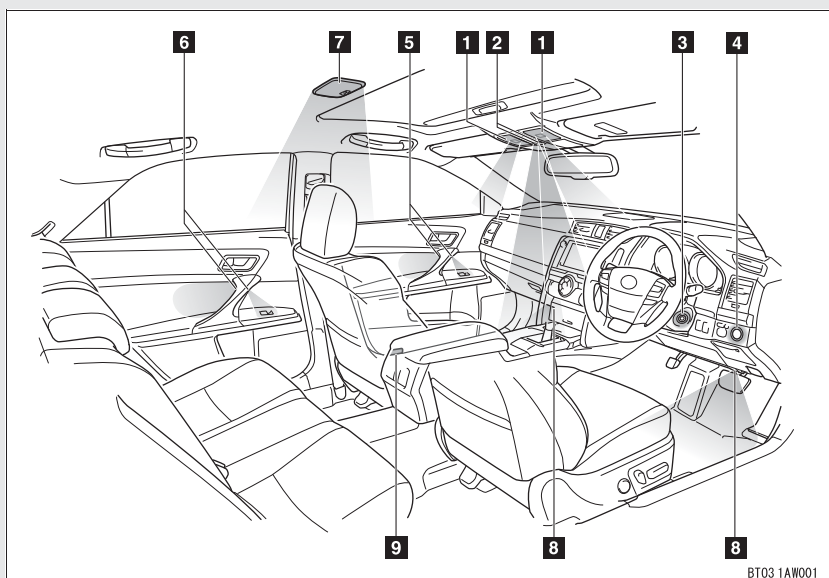
注意

■故障を防ぐために

端子に異物が入ったり飲料水などがかかったりするのを防ぐため、ポータブルオーディオプレーヤーを接続していないときは、AUX 端子のフタを閉めておいてください。

3-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧



1 フロントパーソナルランプ (→P. 266)

2 インパネ・シフト照明

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

3 エンジン スイッチ照明

(スマートエントリー&プッシュスタート非装着車)

4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明

(スマートエントリー&プッシュスタート装着車)

5 フロントドアトリム照明*

6 リヤドアトリム照明*

7 ルームランプ (→P. 266)

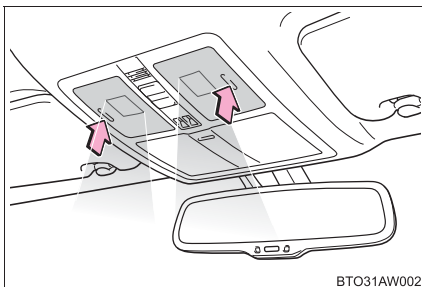
8 フロント足元照明*

9 ドアカーテシランプ*

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロントパーソナルランプ、ルームランプ

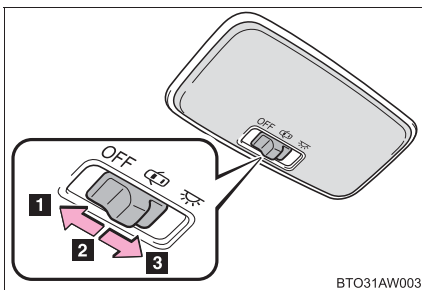
■ フロントパーソナルランプ



ランプを点灯・消灯する

BTO31AW002

■ ルームランプ



1 ランプを消灯する

2 ドアの開閉作動に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる

3 ランプを点灯する

BTO31AW003

知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

ドアの解錠／施錠・ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

電子キーの検知・ドアの解錠／施錠・ドアの開閉・“エンジン スタート ストップ” スイッチの状態により、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間点灯しないでください。

フロントパーソナルランプ・ルームランプ

 知識

■ 自動消灯機能

半ドア状態でルームランプスイッチがドアポジション（DOOR）のときに、以下の照明が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

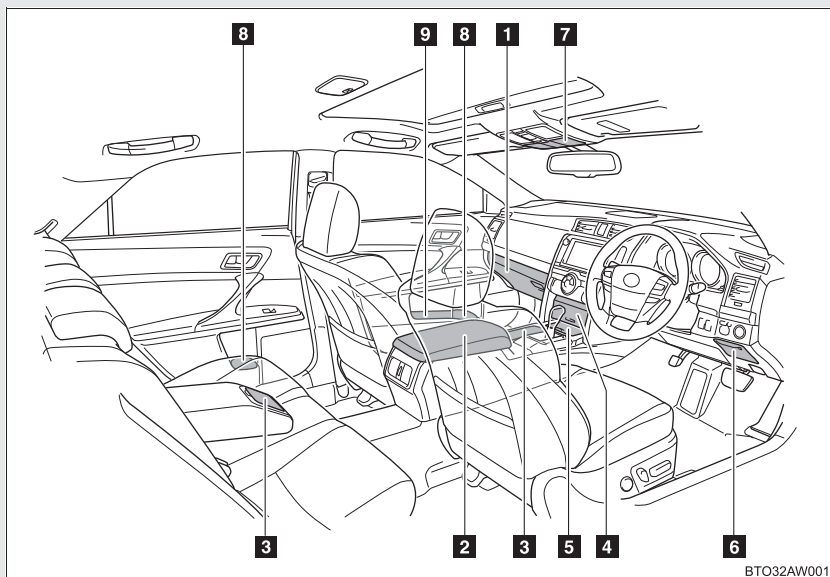
- フロント足元照明*
- エンジン スイッチ照明*
- “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明*
- インパネ・シフト照明
- ルームランプ
- フロントドアトリム照明*
- リヤドアトリム照明*

■ 販売店で設定可能な機能

キャンセルや室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ機能一覧 →P. 418）

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧



BTO32AW001

- | | |
|----------------|------------------|
| ■ 1 グローブボックス | ■ 6 運転席小物入れ |
| ■ 2 コンソールボックス | ■ 7 オーバーヘッドコンソール |
| ■ 3 カップホルダー | ■ 8 ボトルホルダー |
| ■ 4 小物入れ | ■ 9 フロントドアポケット |
| ■ 5 アクセサリーボックス | |

⚠ 警告

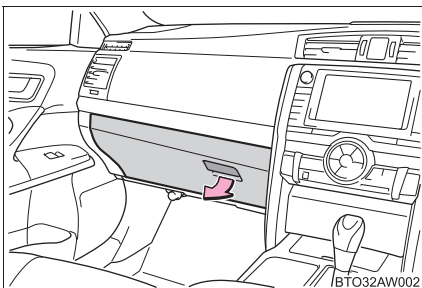
■ 収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままですと、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

グローブボックス



グローブボックスを開けるには、
レバーを引き上げる

 知識

■ グローブボックスランプについて

車幅灯が点灯しているときにグローブボックスを開くとランプが点灯します。

 警告

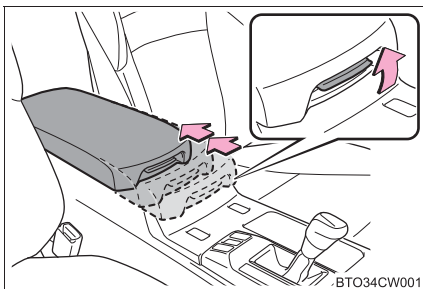
■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時や急旋回時などに、開いたグローブボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながり、けがをするおそれがあり危険です。

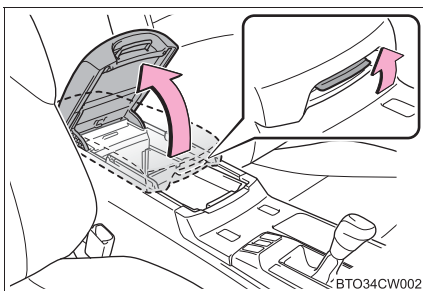
コンソールボックス

■ スライドさせる



ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストをスライドする

■ 開ける

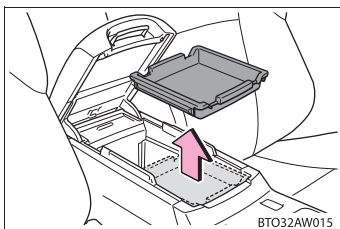


ノブを持ち上げてロック解除し、アームレストをいちばんうしろまでスライドして開く

コンソールボックス

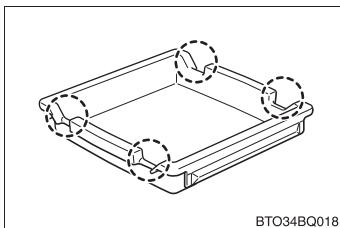
 知識

■ コンソールボックス内のトレイについて



中のトレイをはずすことができます。

■ コンソールボックス内のトレイ前後の切り欠きについて



AUX 端子*やアクセサリソケットに接続した機器をコンソールボックス内トレイに置いたまま使用する際は、機器の配線を切り欠きに通します。

コンソールボックスのフタを閉めても機器の配線が濡れずに使用できます。

使用する機器や配線の太さによっては、配線が濡れてしまうものもあります。

 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

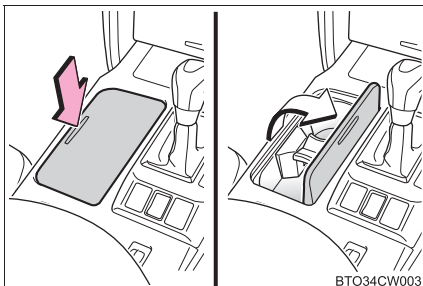
■ コンソールボックス内のトレイについて

トレイの高さ以上にものを入れないでください。フタの開閉のさまたげになるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

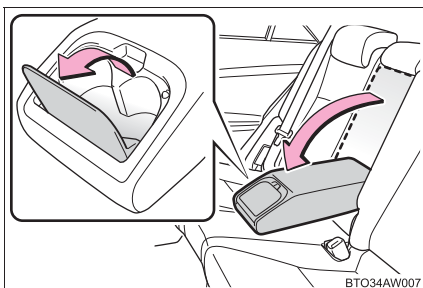
カップホルダー

フロント



フタを押して開ける

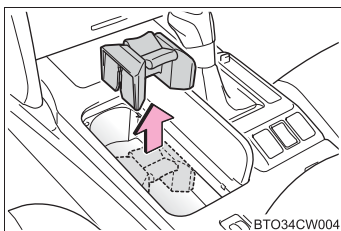
リヤ



リヤアームレストを手前に倒して、フタを上げて開ける

知識

■フロントカップホルダーの仕切りについて



仕切りをはずし、小物入れとして使用できます。

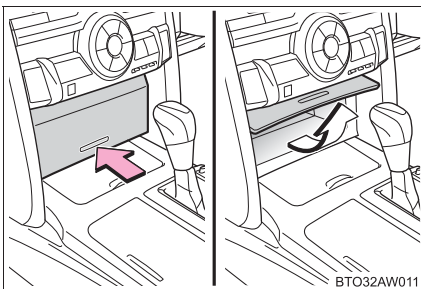
カップホルダー・小物入れ

⚠ 警告**■ 収納してはいけない物**

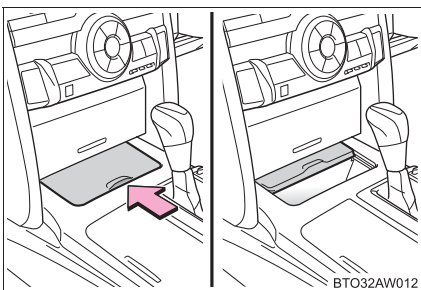
カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたカップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

小物入れ**小物入れ**

フタを押すと開く

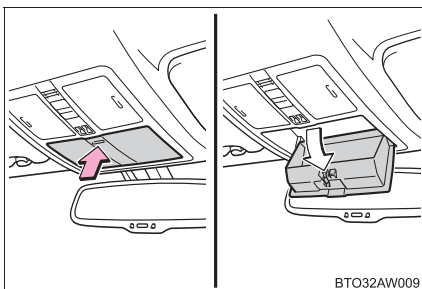
アクセサリボックス

フタを押して開ける

ロックするまでフタをスライドさせます。

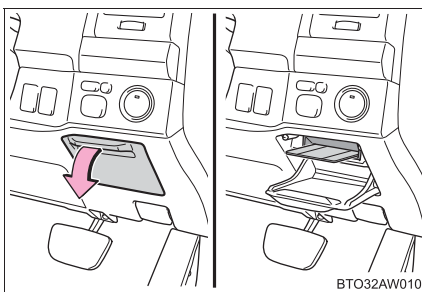
フタを閉じるにはフタをもう一度前方に押すと閉じることができます。

オーバーヘッドコンソール



フタを押して開ける

運転席小物入れ



フタを引いて開ける

上部にカードを収納することができます。

※ ETC 装着車は、ETC ユニットが装着されています。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

小物入れを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いた小物入れが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

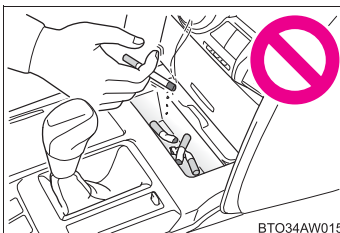
■ 収納してはいけないもの（オーバーヘッドコンソールのみ）

200 g 以上のものを入れないでください。200 g 以上のものを入れると、オーバーヘッドコンソールが開き収納されているものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ・ボトルホルダー

**警告**

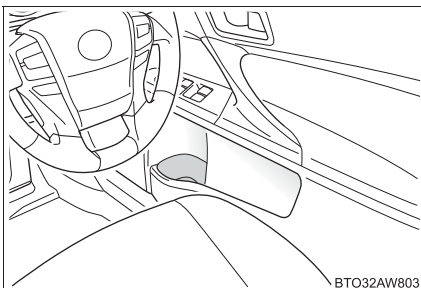
■ アクセサリーボックスについて



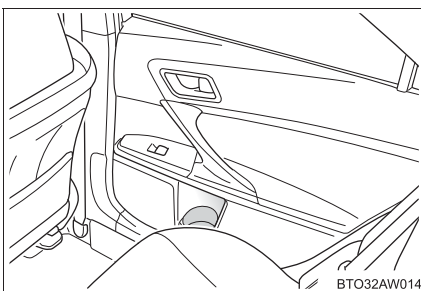
アクセサリーボックスは灰皿ではありません。マッチ・タバコの吸いがらなどを入れないでください。

ボトルホルダー

フロント席用



リヤ席用



 知識

■ ボトルホルダーについて

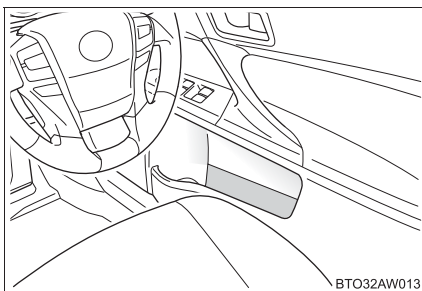
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 注意

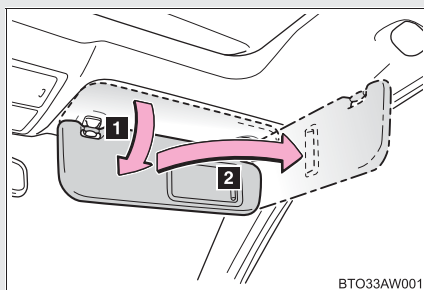
■ 収納してはいけない物

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

■ フロントドアポケット

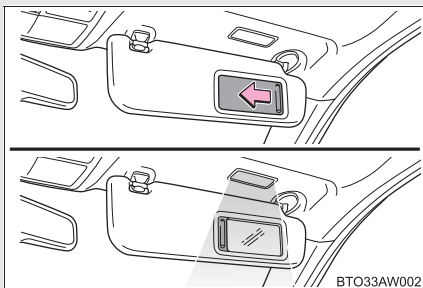


サンバイザー



- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー



カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとランプが点灯します。

※図では運転席側で説明していますが、グレードなどにより助手席側のみ設定の車種もあります。

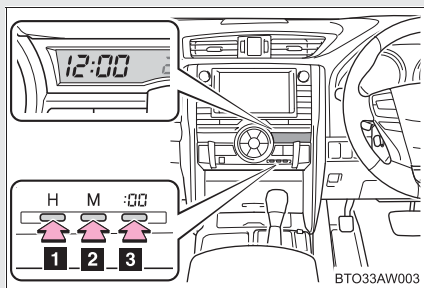
注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。



- ❶ “時” を調整する
- ❷ “分” を調整する
- ❸ “分” を 00 にする※

※（例） 1:00 ～ 1:29→1:00
1:30 ～ 1:59→2:00

知識

■時刻が表示されるとき

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリモード、またはイグニッション ON モードのとき

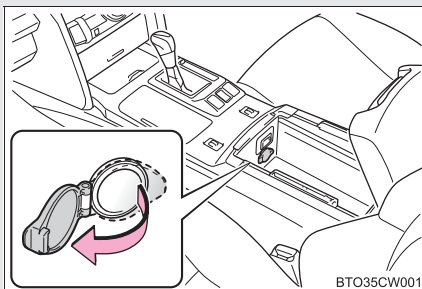
■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

3-5. その他の室内装備の使い方

アクセサリースOCKET

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。



フタを手前に引いて開ける

知識

■使用条件

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチが “ ACC ” または “ ON ” のとき

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

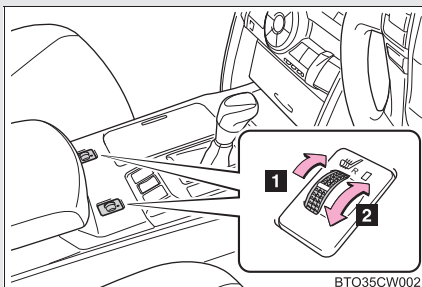
■ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

シートヒーター*



1 ON

シートヒーターが ON のときは、インジケーターが点灯します。

2 温度を調整する

ダイヤルを上にもわすほど高温になります。

知識

■ 作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 使用しないときは

ダイヤルをいっぱいまで下にもわしてください。インジケーターが消灯します。

警告

■ やけどについて

● 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方は特に注意してください。

- ・ 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- ・ 皮膚の弱い方
- ・ 疲労の激しい方
- ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

● シートに毛布・クッションなどを使用しないでください。

シートヒーターの使用により保温性が高まり、異常過熱の原因になります。

● シートヒーターを必要以上に使用しないでください。

低温やけどを負ったり、シートヒーターの異常過熱の原因になるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備



注意

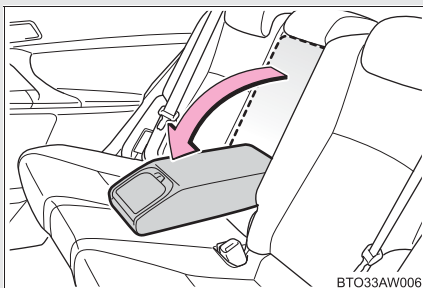
■ シートヒーターの故障を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときは、シートヒーターを使用しないでください。

アームレスト



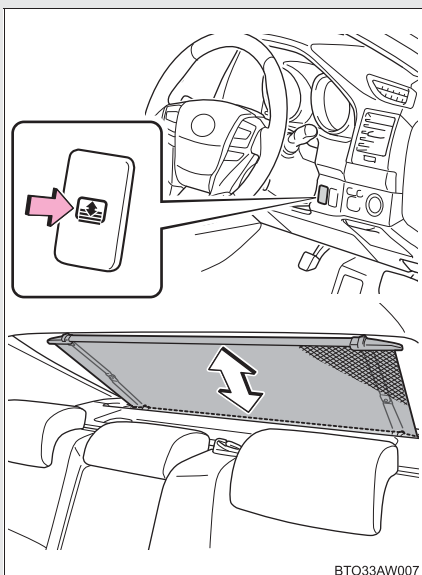
手前に倒して使用します。

 注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

リヤサンシェード*

スイッチ操作でリヤサンシェードを展開／格納することができます。



展開／格納

BTO33AW007

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 電動リヤサンシェードの作動条件

“エンジン スタート ストップ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしたあとも、約 60 秒間リヤサンシェードを操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし次のいずれかを行うと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

■ リバース連動機能が働かない場合

状況によってはリバース連動機能が働かない場合があります。その場合、スイッチを押して、リヤサンシェードを展開、または格納させてください。

 警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。



注意

■ バッテリーあがりを防ぐため

エンジンがかかっていない状態では、リヤサンシェードを操作しないでください。

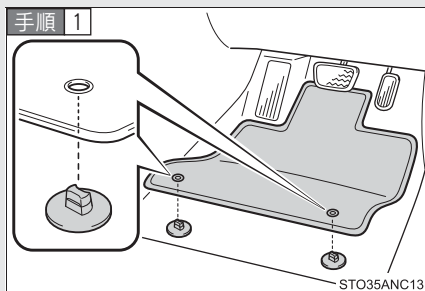
■ 正常に機能させるため

次のことをお守りください。

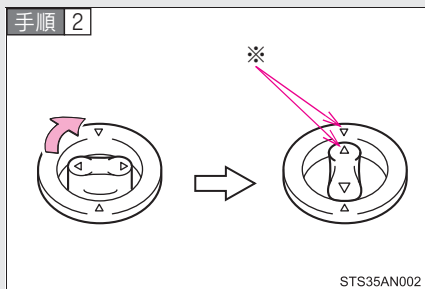
- モーターや他の部分に負荷をかけすぎない
- 開閉のさまたげになる部分に物を置かない
- リヤサンシェードにものを貼らない
- 溝をきれいに保つ
- 長時間操作を続けない

フロアマット

お車（年式）専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。



固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※△マークを必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

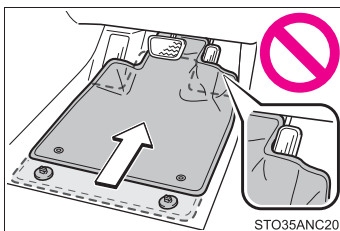
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

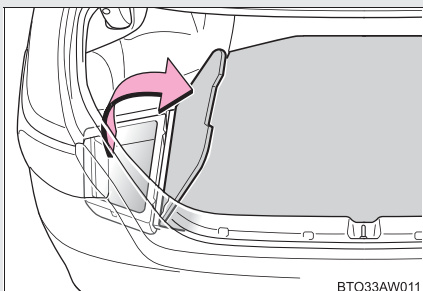
運転する前に



- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態
で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマ
ットと干渉しないことを確認する

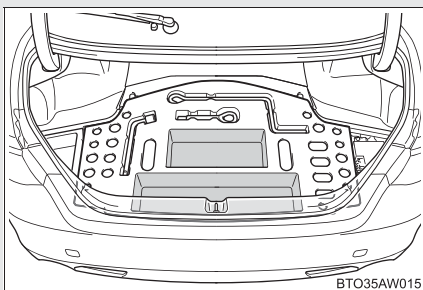
トランク内装備

■ トランク内小物入れ



トランク内左側に小物入れがあります。

■ ラゲージアンダートレイ



ラゲージマットの下にラゲージアンダートレイがあり、三角表示板※などを収納することができます。

※：三角表示板は、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

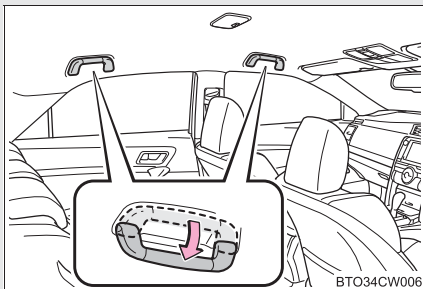
■ ラゲージアンダートレイについて

三角表示板を収納する場合、三角表示板のケースの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

3-5. その他の室内装備の使い方

アシストグリップ（回転式）

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■ アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

■ 破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

4

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	292
内装の手入れ	296
タイヤについて	299

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	304
ガレージジャッキ	307
エンジンルームカバー	310
電球（バルブ）の交換	312
ヒューズの点検、交換	322
キーの電池交換	330
ウォッシャー液の補給	334
エアコンフィルターの交換	336

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわからいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施行された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- リヤスポイラー*が引っかかり、洗車できない場合や、傷付いたりするおそれがあります。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近付けすぎないでください。
- 洗車の前に給油口が確実に閉まっていることを確認してください。
- エアコンの送風を止める、または内気循環にしてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ アルミホイール*

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。
- 洗剤を使用したあとは早めに十分洗い流してください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤ですらないようにしてください。硬いブラシは使用しないでください。強力な化学洗剤は使用しないでください。塗料に使用されているのと同様に刺激の少ない洗剤やワックスを使用してください。

■ レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→P. 77）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

- 手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す
- 手順 2 水を含ませたきれいなやわからい布などで汚れを落とす
- 手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す
- 手順 4 きれいなやわからい布などで鏡面に付いた水をふき取る
- 手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります）

⚠ 警告

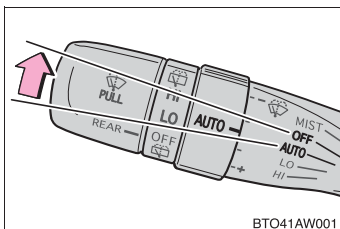
■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■ フロントウインドウガラスを清掃するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のような
ときにワイパーが不意に作動し、指などを
挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブ
レードなどを損傷するおそれがあります。

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジンがかかっているときや、停止直後などにふれないでください。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは（雨滴感知式ワイパー装着車）

ワイパースイッチを OFF にしてください。

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジややわからい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間洗剤につけておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5%の水溶液までうすめたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■スーパー UV カットガラスについて*

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

⚠ 警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをぬらさないでください。(→ P. 96)
電気の不具合により、エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

 注意

■ **清浄するとき使用する溶剤について**

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ **革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ **床に水がかかると**

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ **リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは**

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ **スーパー UV カットガラス*を清掃するときは**

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命を延ばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）をFR車は10,000kmごとに、4WD車は5,000kmごとに行ってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

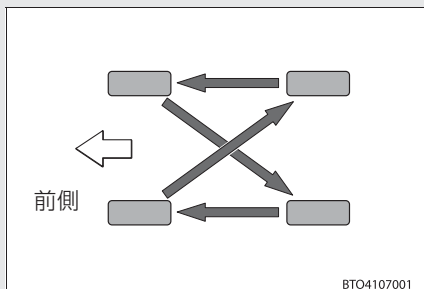
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

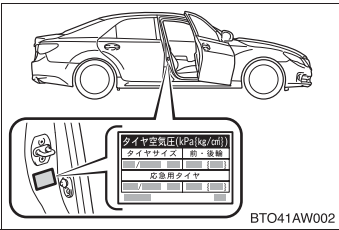
タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検毎のタイヤローテーションを推奨します。

知識

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■ タイヤ空気圧の数値



タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa(kg/cm ²)]
	前後輪
215/60R 16 95H	250 (2.5)
235/45R 18 94W	240 (2.4)
235/40R 19 92Y	240 (2.4)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm²)

※：タイヤが冷えているときの空気圧

■ 低扁平タイヤについて (235/45R18 94W *または 235/40R19 92Y *)

雪道や凍結路では、普通のタイヤとくらべてグリップ力が低下します。冬用タイヤかタイヤチェーンを使用し、道路状態に応じた速度で注意深く運転するようにしてください。

■ 低扁平タイヤの空気圧点検(235/45R18 94W *または235/40R19 92Y *)

低扁平タイヤは、走行性能を優先したタイヤです。特に空気圧は定期的に点検してください。2 週間に 1 回 (最低でも 1 ヶ月に 1 回)、または長距離ドライブの前には、必ず空気圧を点検してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

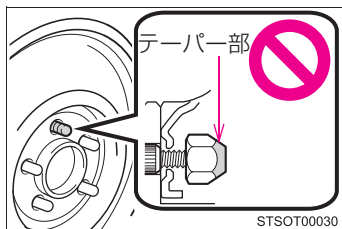
■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

警告

■ **タイヤ交換時の注意**



- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損はすれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

 注意**■ 走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ 低扁平タイヤ (235/45R18 94W *または 235/40R19 92Y *) について

低扁平タイヤのホイールは、路面から衝撃を受けたとき、ホイールに通常より大きなダメージを与えることがあります。そのため次のことにご注意ください。

● 適切なタイヤ空気圧で使用する

空気圧が低すぎると簡単に損傷することがあります。

● 段差や凹凸のある路面、路上に開いた穴、平らでない舗道・縁石や他の障害物を避けてください。タイヤおよびホイールがひどく損傷することがあります。**■ 悪路走行に対する注意**

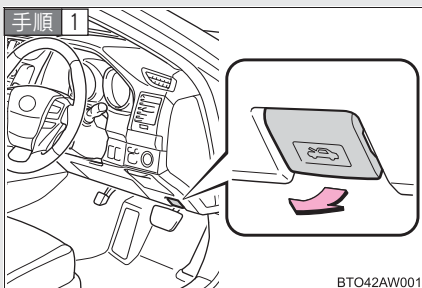
段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

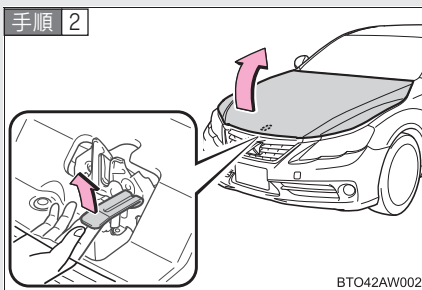
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

知識

■ バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告**■ 走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ けがを防ぐために

- 走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品にさわるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

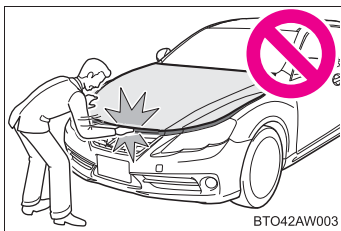
- ボンネットを開ける前にエンジンスイッチを“LOCK”にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

- ボンネットを開ける前に“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれてけがなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。しばらくたってからボンネットを開けてください。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていたり、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意

■ **ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

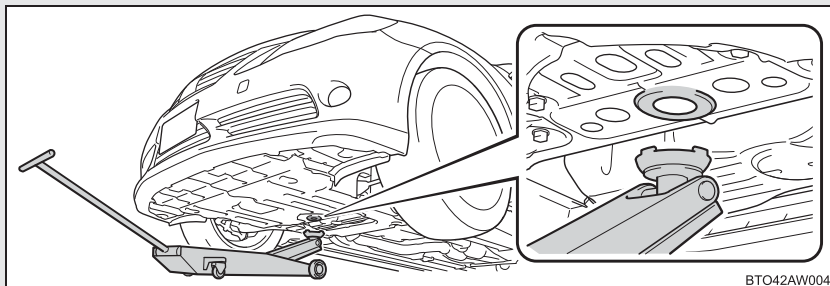
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

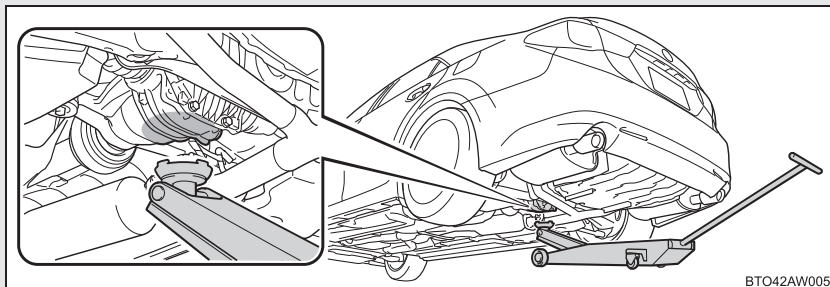
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

■ FR（後輪駆動）

フロント側

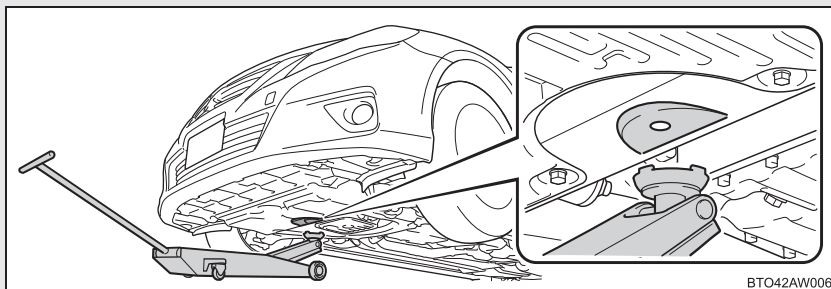


リヤ側

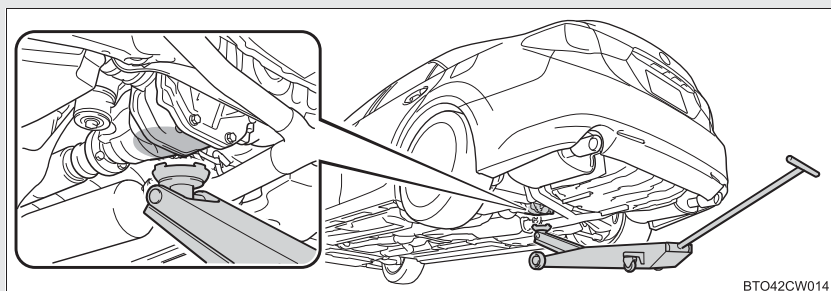


■ 4WD（4 輪駆動）

フロント側



リヤ側

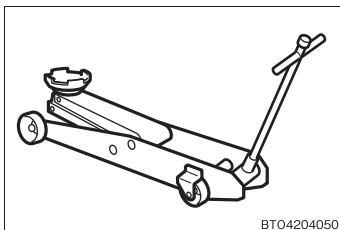


警告

■ 車両を持ち上げるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



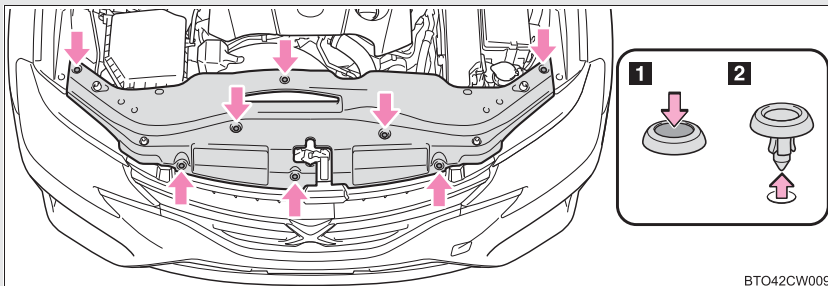
● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

- ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する
- 車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない
- ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用する
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにする
- ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

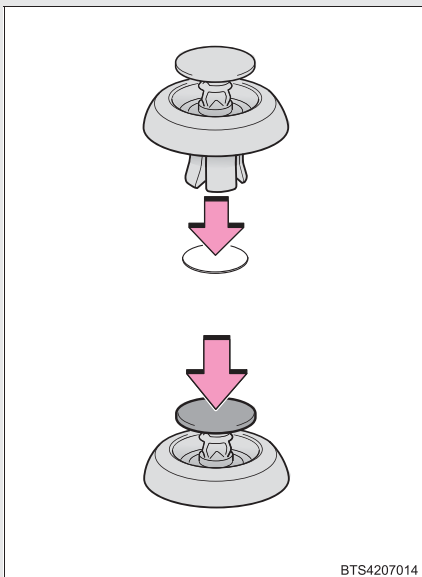
4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などを行うときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方



■ クリップの取り付け方



 警告**■ けがを防ぐために**

エンジンルームカバーを取りはずす前に、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF(スマートエントリー&スタートシステム装着車) または、エンジン スwitchを “LOCK ” (スマートエントリー&スタートシステム非装着車) にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ エンジンルームカバーを取り付けたあとは**

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

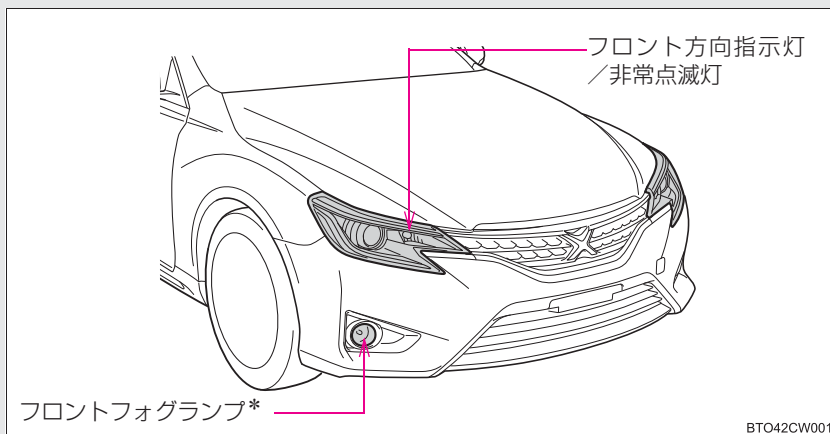
電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球により異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

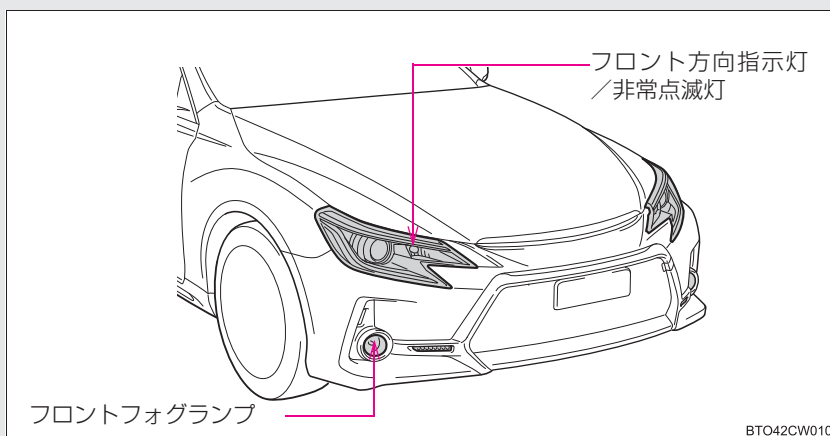
■ 電球の用意

切れた電球の W(ワット) 数を確認してください。(→P. 416)

■ フロントのバルブ位置 (G's を除く)

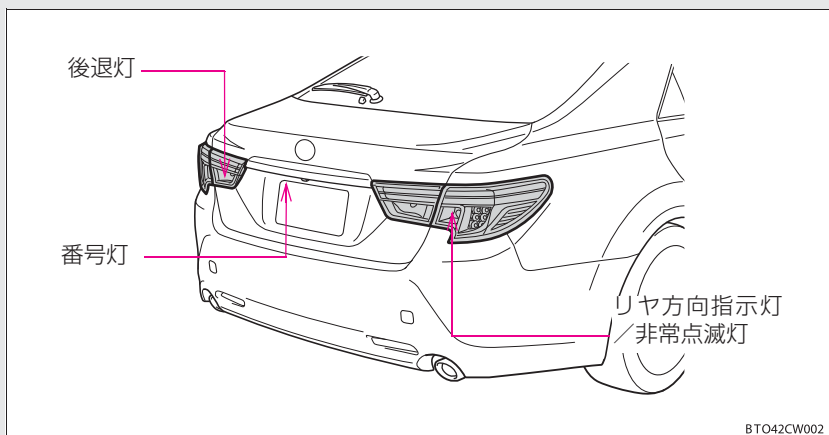


■ フロントのバルブ位置 (G's)



* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

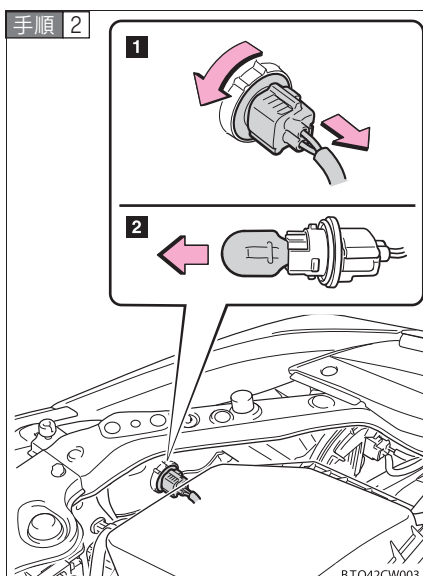
■ リヤのバルブ位置



電球交換のしかた

■ フロント方向指示灯／非常点滅灯

手順 1 エンジンルームのカバーをはずす (→P. 310)

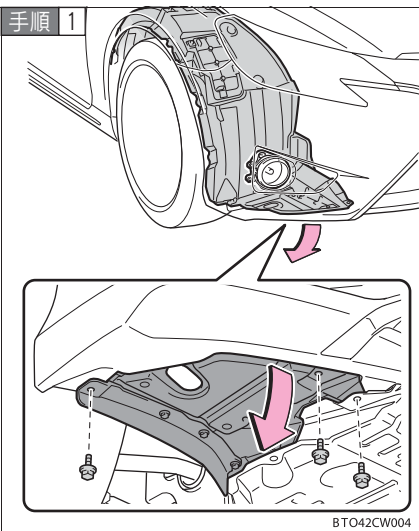


1 ソケットを取りはずす

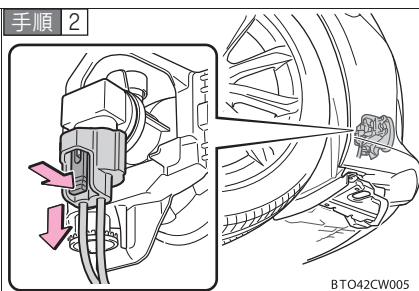
2 電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

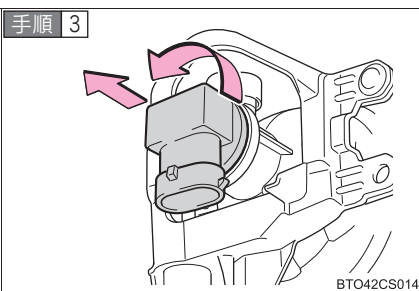
■ フロントフォグランプ*



ボルトを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

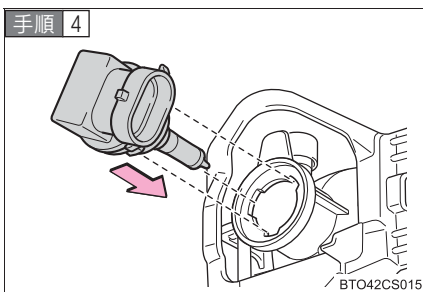


コネクターを取りはずす



電球を取りはずす

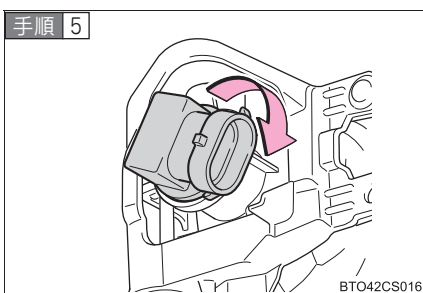
手順 4



電球を交換し、取り付ける

取り付け部と電球のツメ（3ヶ所）をあわせて挿し込みます。

手順 5



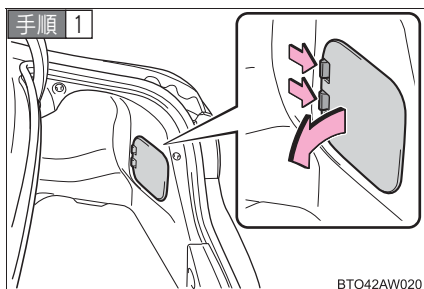
電球をまわして固定し、コネクターを取り付ける

電球を軽くゆさぶって、ぐらつきがないことを確認し、いったんフロントフォグランプを点灯させ、電球の取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください。

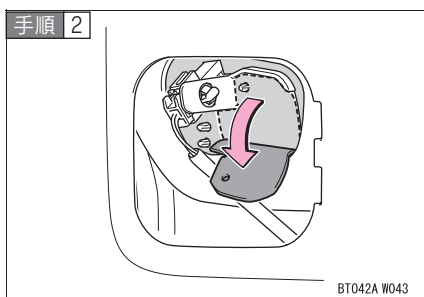
手順 6 フェンダーライナーをもとにもどす

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

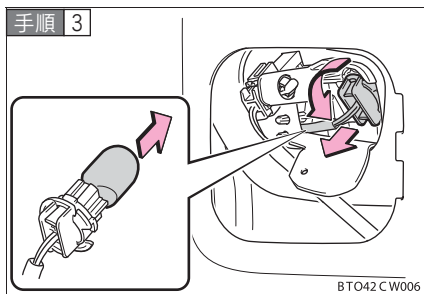
■ リヤ方向指示灯／非常点滅灯



トランクを開け、カバーを取りはずす



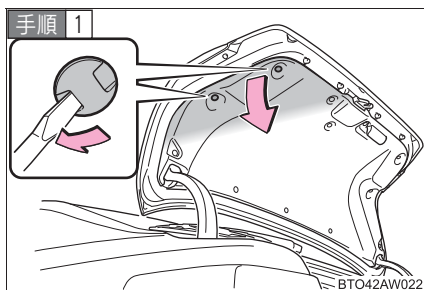
パッキンをめくる



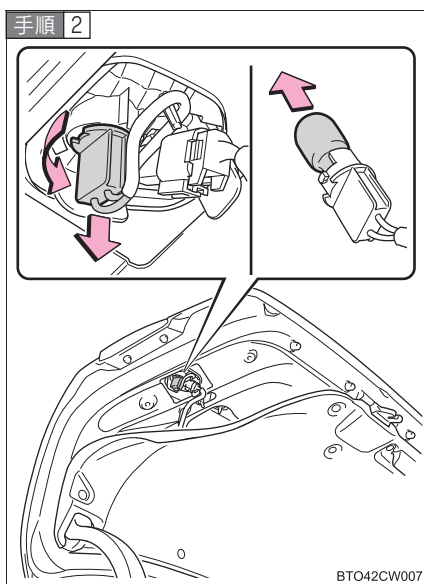
ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯



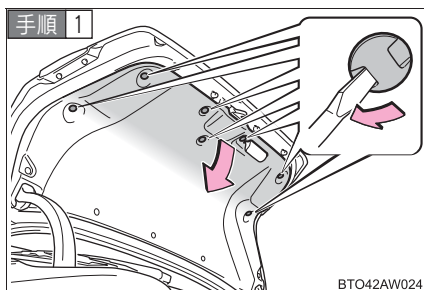
トランクを開け、クリップを取り
はずし、カバーをめくる



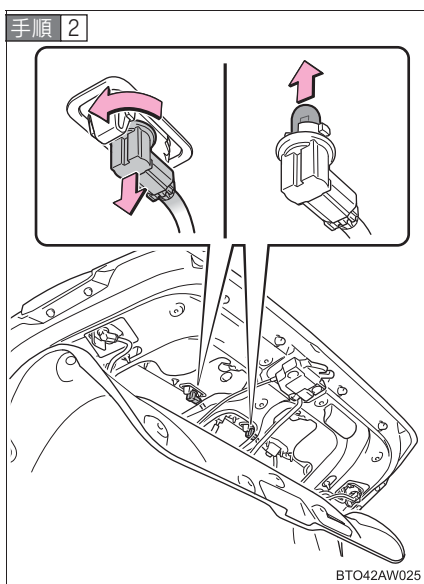
ソケットを取りはずし、電球を取
りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯



トランクを開け、クリップを取りはずし、カバーをめくる



ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 次の電球を交換するには

次の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ディスチャージヘッドランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯（ドアミラー部）
- 制動灯
- 尾灯
- 車幅灯
- ハイマウントストップランプ
- LED イルミネーションビーム*

知識

■ LED ランプについて

サイド方向指示灯／非常点滅灯・制動灯・尾灯・車幅灯・ハイマウントストップランプ・LED イルミネーションビームは数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球の交換について

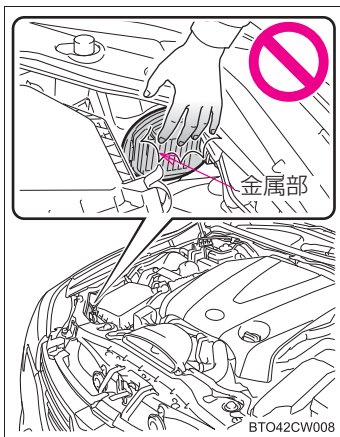
電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。



- ディスチャージヘッドランプ点灯中および消灯直後はヘッドランプ裏の金属部が高温となっているため、さわらないでください。
やけどをすることがあります。

 警告**■ ディスチャージヘッドランプについて**

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 3 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

■ お車の故障を防ぐために

電球を交換するときに取りはずした部品は、もとどおりに取り付けてください。

ヒューズの点検、交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

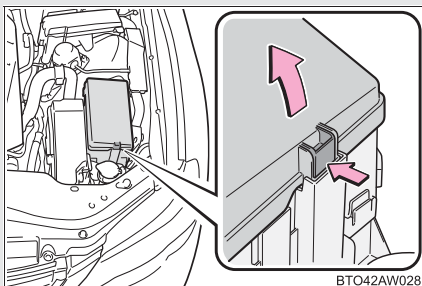
エンジン スイッチを“LOCK”にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにする

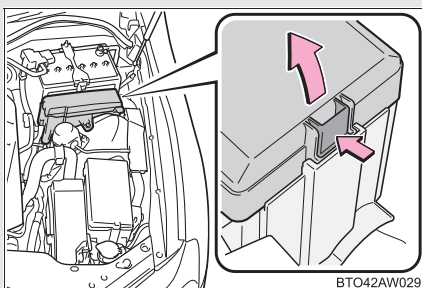
手順 2 ヒューズボックスを開ける

エンジンルーム A



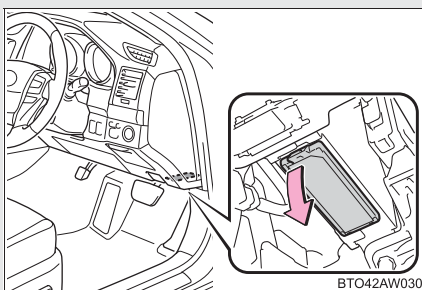
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

エンジンルーム B



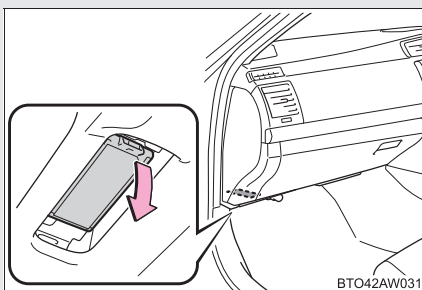
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

運転席足元



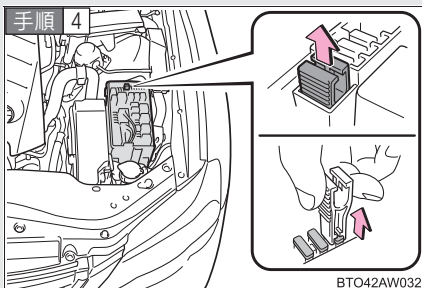
カバーを取りはずす

助手席足元



カバーを取りはずす

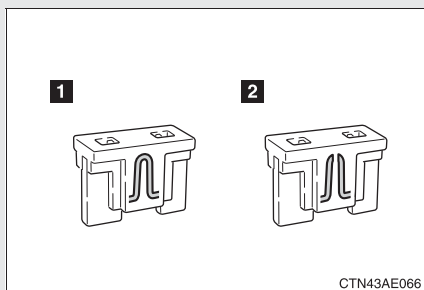
手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 325) で確認する



手順 4

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

手順 5 引き抜いたヒューズが切れていないか点検する



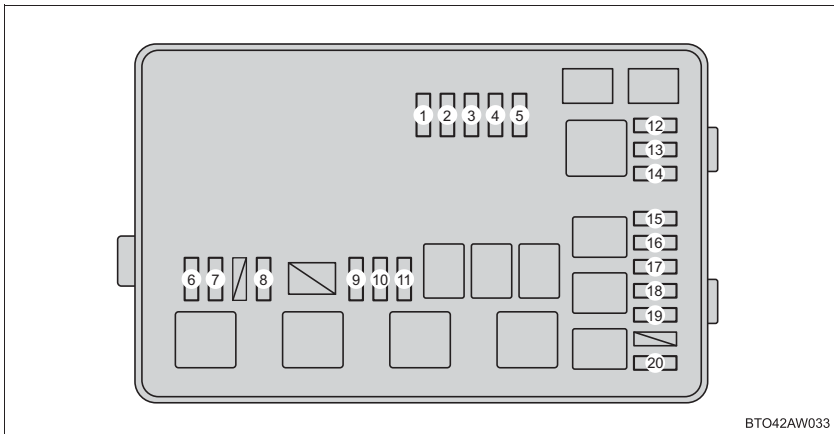
1 正常

2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

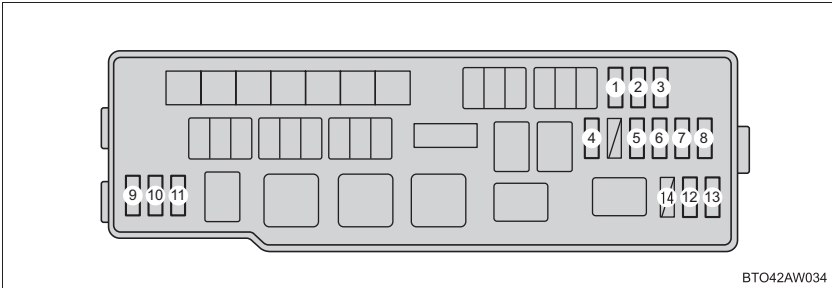
■ エンジンルーム A



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO.2	10 A	エンジンコントロールシステム
2	HORN	10 A	ホーン
3	A/F	15 A	排気システム
4	WASHER-S	5 A	ワイパー、ウォッシャー、オートワイパー
5	FUEL PMP	20 A	フューエルポンプ
6	INJ	20 A	エンジンコントロールシステム
7	EFI- MAIN	25 A	エンジンコントロールシステム
8	ETCS	10 A	エンジンコントロールシステム
9	H-LP LH-LO	15 A	ヘッドランプ（ロービーム）左
10	H-LP RH-LO	15 A	ヘッドランプ（ロービーム）右
11	WIP-S	7.5 A	ミリ波レーダー、パワーマネジメント
12	SPARE	—	スペア
13	SPARE	—	スペア
14	SPARE	—	スペア
15	H-LP LH-HI	15 A	ヘッドランプ（ハイビーム）左
16	H-LP RH-HI	15 A	ヘッドランプ（ハイビーム）右

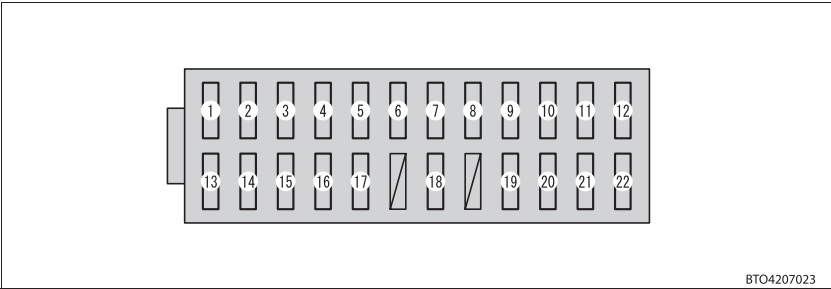
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
17	TAIL	15 A	尾灯、車幅灯
18	A/C COMP	7.5 A	エアコン
19	FOG FR	15 A	フロントフォグランプ
20	IG2	10 A	点火系

■ エンジンルーム B



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	IG2-MAIN	20 A	各 ECU 電源
2	D/C CUT	20 A	室内灯、各 ECU 電源
3	ECU-B	10 A	EPS、VGRS
4	TRUNK OPN	7.5 A	トランクオープン
5	RAD NO.1	15 A	オーディオ
6	AMP	30 A	オーディオ
7	ALT-S	5 A	充電回路
8	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
9	DEICER	25 A	フロントウインドシールドデアイサー
10	FOG RR	10 A	リヤフォグランプ
11	PSB	30A	プリクラッシュシステム
12	DOME	10 A	室内照明
13	MPX-B	10 A	各 ECU 電源
14	TAIL NO.2	5 A	車幅灯

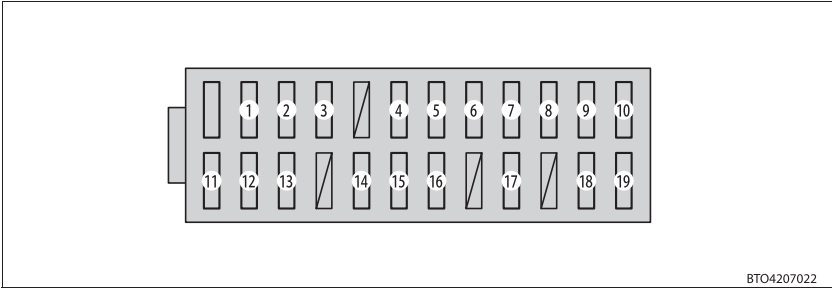
■ 運転席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	STOP	7.5 A	制動灯
2	TV	10 A	ナビゲーションシステム
3	P/SEAT FR	30 A	フロントパワーシート右側
4	TI & TE	20 A	マイコンプリセットステアリング
5	ACC	7.5 A	アクセサリ電源
6	P/ OUTLET	15 A	アクセサリソケット
7	WASHER	20 A	ウォッシャー
8	WIP	30 A	ワイパー
9	AVS	20 A	AVS
10	S/HTR FR	15 A	フロントシートヒーター右側
11	RH IG	10 A	各 ECU 電源
12	RH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
13	DOOR FR	20 A	フロントパワーウインドウ右
14	DOOR RR	20 A	リヤパワーウインドウ右
15	AM2	7.5 A	EFI コンピューター
16	SECURITY	7.5 A	EFI コンピューター
17	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
18	IGN	10 A	EFI コンピューター、エアバッグ
19	S/ROOF	20 A	ムーンルーフ
20	P/W-B	5 A	パワーウインドウ
21	MULTIMEDIA	10 A	オーディオ、ナビゲーションシステム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
22	OBD	7.5 A	チェックコネクター

■ 助手席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	LH J/B-B	7.5 A	ボデー系システム
2	AM1	7.5 A	装備系全般
3	P/SEAT FL	30 A	フロントパワーシート左
4	D/L NO,1	25 A	ドアロック
5	S/HTR FL	15 A	シートヒーター左
6	WIP RR	15 A	リヤワイパー
7	AFS	7.5 A	AFS
8	BKUP LP	7.5 A	後退灯
9	LH ECU-IG	10 A	各 ECU 電源
10	LH IG	10 A	各 ECU 電源
11	DOOR RL	20 A	リヤパワーウインドウ左
12	DOOR FL	20A	フロントパワーウインドウ左
13	D/L NO,2	25 A	ドアロック
14	HAZ	15 A	非常点滅灯
15	RAD NO,2	20 A	オーディオ
16	GAUGE	7.5 A	メーター
17	PANEL	7.5 A	イルミネーション
18	A/C	7.5 A	エアコン

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
19	SHADE RR	10A	リヤサンシェード

知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→P. 312)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

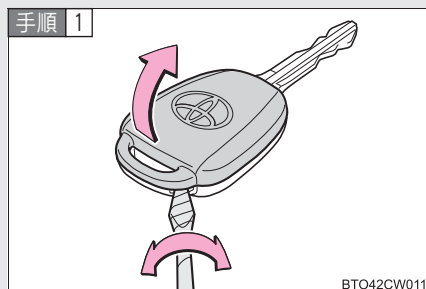
キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

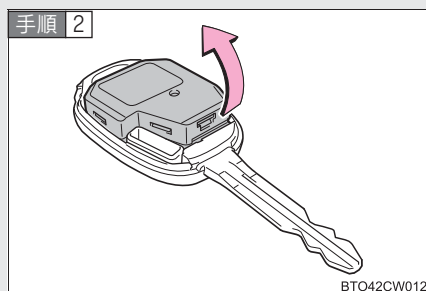
- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池
 - ・ CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）
 - ・ CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）



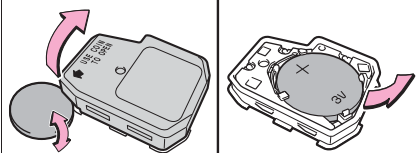
カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



モジュールを取り出す

手順 3



BTO42CW013

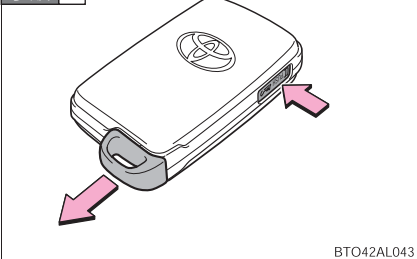
コインなどを使用して、モジュールカバーをはずし、消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

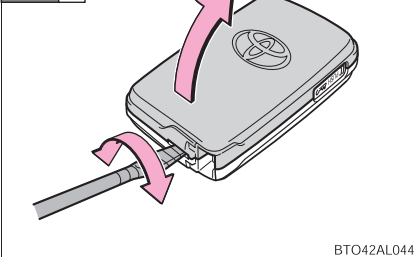
手順 1



BTO42AL043

メカニカルキーを抜く

手順 2

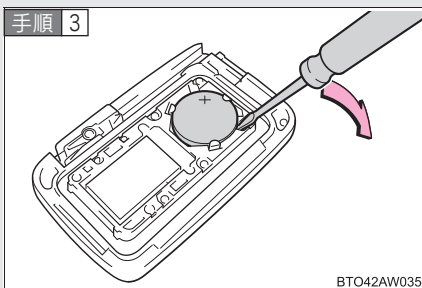


BTO42AL044

カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

手順 3



消耗した電池を取り出す

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 4

取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け
る

 知識

■電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム（装着車のみ）、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■リチウム電池の入手

リチウム電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：CR2016
- スマートエントリー&スタートシステム装着車：CR1632

■キーの電池を交換したときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーのスイッチを押し、本体のLED が点灯することを確認します。

 警告**■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまにさわらせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

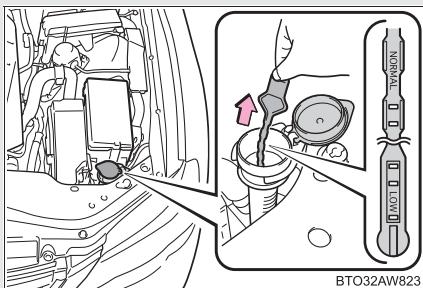
 注意**■ 交換後、正常に機能させるために**

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

4-2. 簡単な点検・部品交換

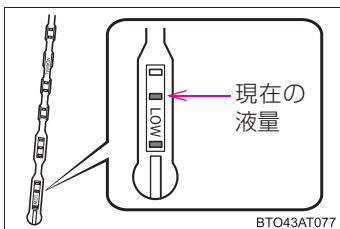
ウォッシャー液の補給



液面がLOWの位置に近付いたらウォッシャー液を補給してください。

知識

■ ゲージの使い方



ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から2つめの穴部より下まわった (LOWの位置まで低下した) ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

**注意****■ ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ エアフィルターの交換

手順 1 内外気切りかえスイッチを押し、内気循環にする

外気導入のままだと、内外気ドアによりフィルターケースを取りはずすことができません。

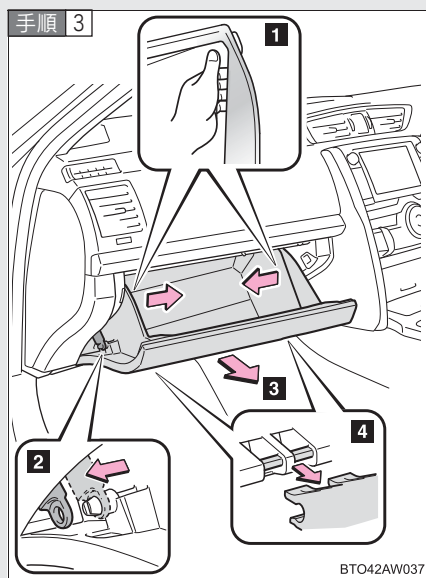
手順 2

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジン スイッチを“LOCK”にする

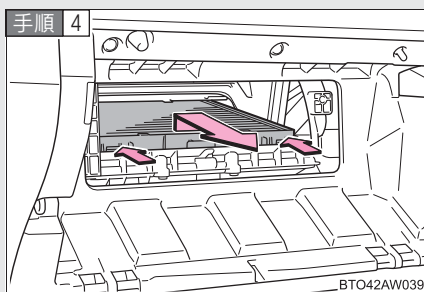
スマートエントリー&スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にする

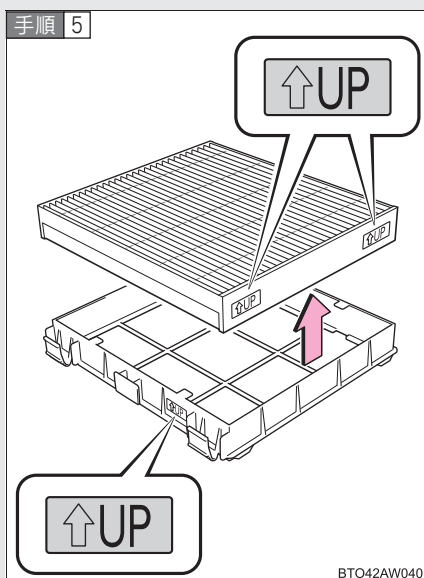


グローブボックスを取りはずす

- 1** グローブボックスの内側に指をかけ、側面を引っ張ってたわませながら、上部のツメを片側ずつはずします
- 2** グローブボックスのダンパーステーのピンをはずします
- 3** グローブボックスを手前に引き出します
- 4** グローブボックス下部のツメをはずします



ツメを押してロックをはずし、
フィルターケースを取りはずす



フィルターケースからフィル
ターを取りはずし、新しいフィ
ルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向く
ように取り付けます

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付け
る

 知識

■ **エアコンフィルターの交換について**

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

交換：15,000km [7,500km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ **エアコンの風量が減少したときは**

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

 注意

■ **エアコンを使用するときの注意**

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

トラブルが起きたら

5

5-1. まず初めに

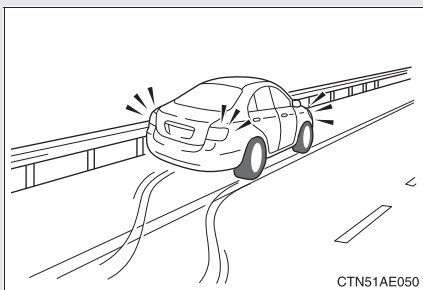
故障したときは	340
非常点滅灯 （ハザードランプ）	341
発炎筒	342
けん引について	344
イベントデータレコーダー ...	349

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	351
警告メッセージが 表示されたときは（マルチイン フォメーションディスプレイ装 着車）	355
パンクしたときは （応急用タイヤ装着車）	366
パンクしたときは （タイヤパンク応急修理キット 装着車）	376
エンジンが かからないときは	391
シフトレバーが シフトできないときは	393
キーを無くしたときは	394
電子キーが正常に働かないときは （スマートエントリー& スタートシステム装着車） ...	395
バッテリーが あがったときは	397
オーバーヒートしたときは ..	401
スタックしたときは	404
車両を緊急停止するには	406

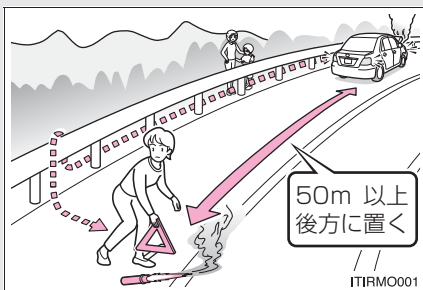
5-1. まず初めに 故障したときは

故障のときは速やかに次の指示に従ってください。



非常点滅灯(→P. 341)を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

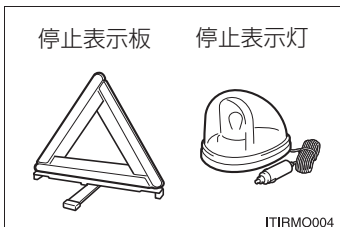


高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

- 同乗者を避難させる
- 車両の50m以上後方に発炎筒(→P. 342)と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

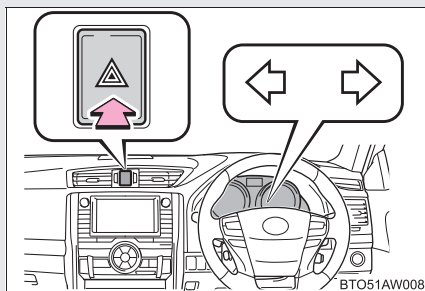
■ 停止表示板・停止表示灯について



- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。



スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

もう一度押すと消灯します。

知識

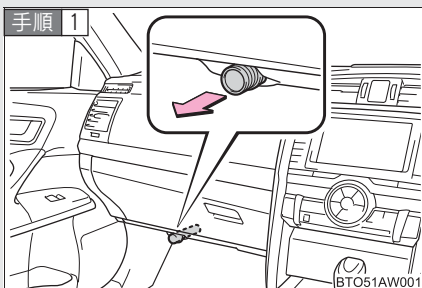
■非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

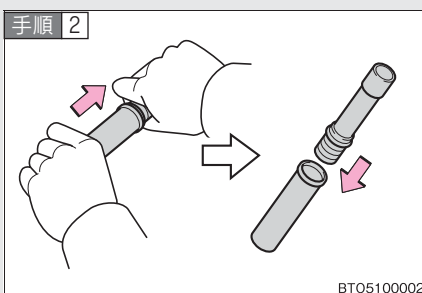
5-1. まず初めに 発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください。）

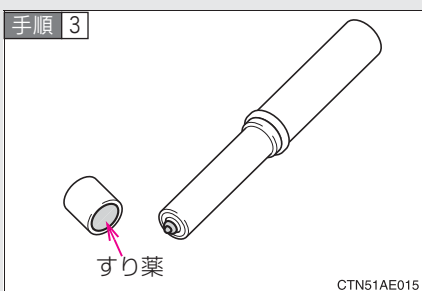
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。



助手席足元の発炎筒を取り出す



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



先端のフタをとり、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる。

必ず車外で使用してください。

着火させる際は、筒先を顔や体に向けしないでください。

 知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

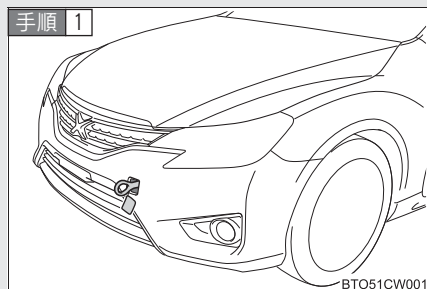
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

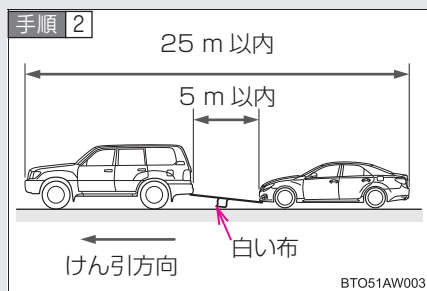
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引されるときは



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。



ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm)

以上

手順 3] けん引される車両のエンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを “ACC” または “ON” にしてください。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、“エンジン スタート ストップ” スイッチを アクセサリーモード、またはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4] けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

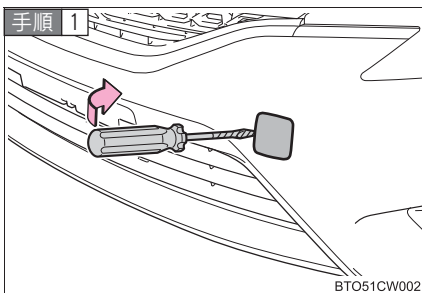
けん引する前に

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

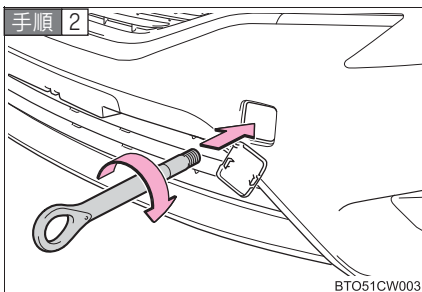
けん引フックの取り付け方

■ G's 以外

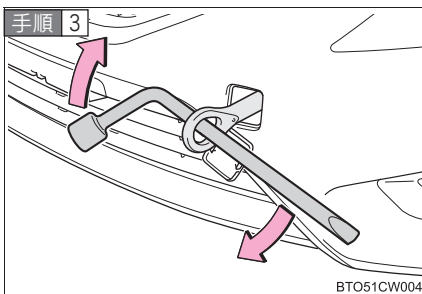


マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷がつくのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

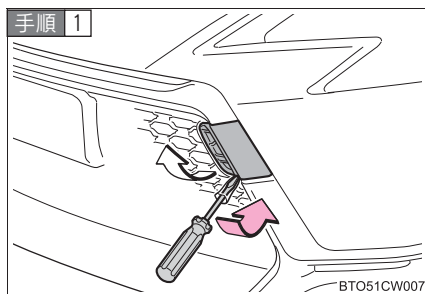


けん引フックを穴に挿し込み軽く締める



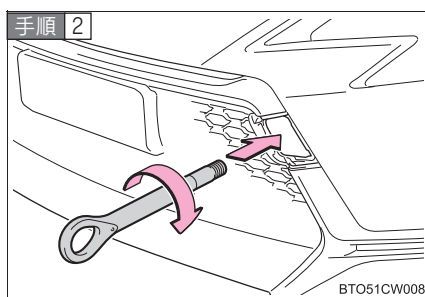
ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける

■ G's

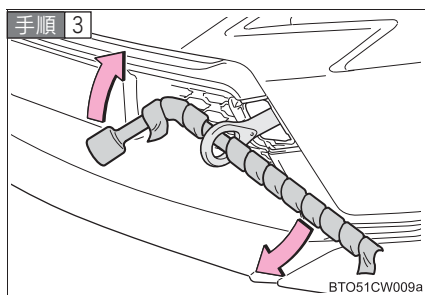


マイナスドライバーを使ってフタ
をはずす

傷がつくのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。取りはずしたフタは紛失しないようにしてください。



けん引フックを穴に挿し込み軽く
締める



ホイールナットレンチを使い確実に
取り付ける

傷がつくのを防ぐため、ホイールナットレンチに布などを巻いて保護してください。

手順 4 けん引フックは、取り付けるときと逆の手順で取りはずす

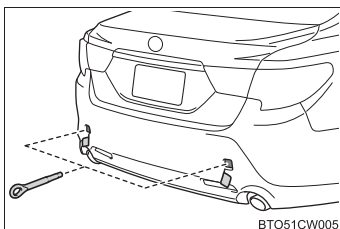
けん引フックを取りはずすときにも、傷がつくのを防ぐため、ホイールナットレンチに布などを巻いて保護してください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車をけん引する



リヤ側のけん引フックは、自車より軽い車をやむを得ず一般路上でロープによりけん引するとき 사용합니다。

■けん引フックの収納位置

→P. 366、377

警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にけん引フックをしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■車両を運搬するときは（4WD 車）

必ず 4 輪接地または 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

駆動装置が焼きつきを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。

また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

●けん引を行うときは細心の注意を払ってください。

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進や、まちがった車両操作は避けてください。

けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

警告

■けん引中の運転について

- けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効が悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

- エンジン スイッチを“LOCK”にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

スマートエントリー&スタートシステム装着車

- “エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■車両の損傷を防ぐために

けん引するときは次のことを必ずお守りください。

- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。

レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効が悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピューターに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジン回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 運転席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。
（車種によっては記録される項目が異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

次の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（警告ブザー）※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除警告ブザー：

パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。（→P. 358）

ただちに停車してください。

次の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電系統の異常
	油圧警告灯* エンジンオイルの圧力異常

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置するとシステムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	パワーステアリング警告灯（警告ブザー） ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
 PCS （点滅）	PCS 警告灯* ブリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システム作動中は、速い点滅でお知らせします。（→P. 215） ・ブリクラッシュブレーキを OFF にしたときは点灯します。（→P. 216） ・システムが一時的に使用できないときに点灯します。（→P. 359）
	ディスチャージヘッドランプオートレベリング警告灯 ・自動光軸調整システムの異常
 （点灯）	スリップ表示灯 次のいずれかの機能の異常 ・VSC ・TRC ・ヒルスタートアシストコントロール*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
4WD	4WD 警告灯* ・4WD システムの異常
	油量警告灯* ・エンジンオイル量の異常
AFS OFF (点滅)	AFS OFF 表示灯 AFS (アダプティブフロントライティングシステム) の異常 (→P. 169)
 (点滅)	クルーズコントロール表示灯* クルーズコントロールの異常 (→P. 181)
 (点滅)	レーダークルーズコントロール表示灯* レーダークルーズコントロールの異常 (→P. 192)

 知識

■ パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

 警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

次の警告は、それぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	開いているドアを閉める
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 11 L 以下になった	燃料を補給する
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用する
	マスターウォーニング* システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 355

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ **助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

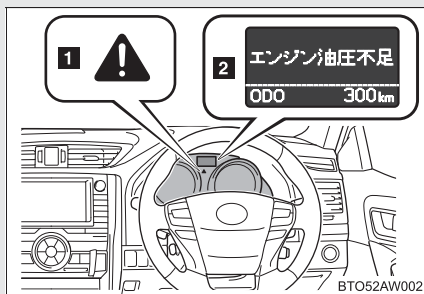
- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

5-2. 緊急時の対処法

警告メッセージが表示されたときは (マルチインフォメーションディスプレイ装着車)

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて次のように対処してください。



1 マスターウォーニングランプ

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。

次の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

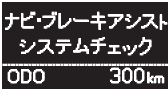
警告メッセージ	警告内容
	エンジンオイル圧力の異常 エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーとともに表示されます。

ただちに点検を受けてください。

次の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
4WD システムチェック ODO 300km 	4WD システム*の異常 警告ブザーが鳴ります。
ステアリングロック システムチェック ODO 300km 	ステアリングロックシステムの異常 警告ブザーが鳴ります。
PCS システムチェック ODO 300km PCS (点減) 	PCS (プリクラッシュセーフティシステム)*の異常 警告ブザーが鳴ります。
クルーズ システムチェック ODO 300km  (点減) 	レーダークルーズコントロールシステム*の異常 警告ブザーが鳴ります。 メインスイッチを一度 OFF にし、再度設定してください。

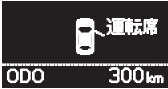
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容
 	ナビ・ブレーキアシスト*の異常 警告ブザーが鳴ります。 ナビ・ブレーキアシストについては「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。
 	VGRS *の異常 警告ブザーが鳴ります。
 	クリアランスソナー*の異常 異常のあるソナーの位置が点滅し、警告ブザーが鳴ります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

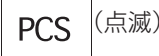
次の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
	各ドアが確実に閉まっていない 開いてるドアが表示されます。	各ドアを閉める
	パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5 km/h 以上になった 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
	ムーンルーフ*が確実に閉まってない状態で “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にして運転席ドアを開けた	ムーンルーフを閉める
	エンジンオイルの不足 警告ブザーが鳴ります。	エンジンオイル量を点検し、オイルを補給する

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
PCS 現在使用できません ODO 300km PCS (点灯)	PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない	グリルまたはセンサーの汚れを取り除く プリクラッシュセーフティシステムが熱になると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。
レーダー汚れ 清掃必要 ODO 300km  (点滅) 	レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く
悪天候 クルーズできません ODO 300km  (点滅) 	レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可 警告ブザーが鳴ります。	ワイパーを止めるか低速作動にかえる スノーモードを解除する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
 (点滅)	(レーダークルーズコントロール*の車間制御中) 衝突の危険性がある 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
 	衝突の可能性が高い、またはプリクラッシュブレーキ*が作動していることを示す 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキで減速する
 	クリアランスソナー*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取り除く

 知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、次のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- 先行車と自車の速度が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	キーが 見つかりません ODO 300km  (点滅)	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	キーが 見つかりません ODO 300km  (点滅)	“エンジン スタートストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉され同乗者が電子キーを持ち出した	電子キーを車内にもどす
			シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタートストップ”スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	“エンジン スタートストップ”スイッチを OFF にする または電子キーを車内にもどす

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	1 回	キーが 見つかりません ODO 300km 電源を OFFして下さい ODO 300km (交互に表示)  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にしたあと、再度施錠する
1 回	なし	キーが 見つかりません ODO 300km  (点滅)	正規の電子キーが車室内に無い状態で走行をはじめた	車室内に電子キーがあるか確認する
連続音	なし	Rレンジに 入れて下さい ODO 300km  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いた	シフトレバーを P にする
連続音	連続音	Rレンジに 入れて下さい ODO 300km キーが 見つかりません ODO 300km (交互に表示)  (点滅)	シフトレバーが P 以外の状態で、“エンジン スタート ストップ” スイッチを OFF にせずにキーを持ち出したまま運転席ドアが開閉された	・シフトレバーを P にする。 ・電子キーを車内に入れる

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	連続音	車室内に キーがあります ODO 300km  (点滅)	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした 車内に電子キーを置いたまま、フロントドアを開きロックレバーを施錠側にしてドアハンドルを引いたままドアを閉めて施錠しようとした	車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠する
1 回	なし	ブレーキを踏みながら キーでエンジンスイッチ に触れて下さい ODO 300km  (点滅)	・メカニカルキーで解錠して“エンジンスタートストップ”スイッチを押した際、車室内でキーを検出できなかった ・“エンジンスタートストップ”スイッチを押したときに車室内でキーを検出できないことが2回連続で続いた	ブレーキを踏みながら電子キーで“エンジンスタートストップ”スイッチにふれる

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	始動時はPレンジに 入れて下さい ODO 300km  (点滅)	エンジン始動不可 能なシフトレバー 位置でエンジン始 動しようとしてい る	シフトレバーを P に入れてからエン ジンを始動させる
1 回	なし	電源OFF時はPレンジに 入れてエンジンスイッチを 押して下さい ODO 300km  (点滅)	シフトレバーが P もしくは N 以外で “エンジン スター トストップ” ス イッチを OFF に しようとした	“エンジン スター トストップ” ス イッチを OFF に したい場合は、シ フトレバーを P に し “エンジン ス タートストップ” スイッチを押す
なし	なし	バッテリー保護の為 自動電源 OFF しました ODO 300km	自動電源 OFF 機 能が作動した	次回エンジン始動 時にエンジン回転 数を少し高めにし、 約 5 分間その回転 数を保持しバッテ リーを充電する
1 回	なし	キーバッテリー 残りわずか ODO 300km 	電子キーの電池残 量が少ない	新しい電池と交換 する (→P. 330)

車内 警告 ブザー	車外 警告 ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態で運転席のドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリモードに 2 回以上した	ブレーキを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
		  (点滅)	“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

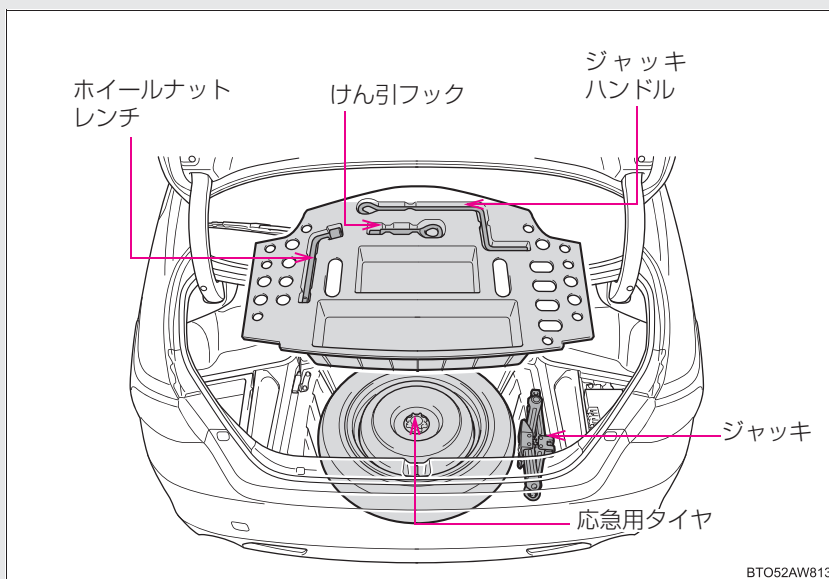
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 299 をご覧ください。）

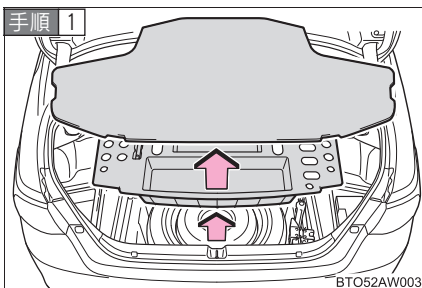
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

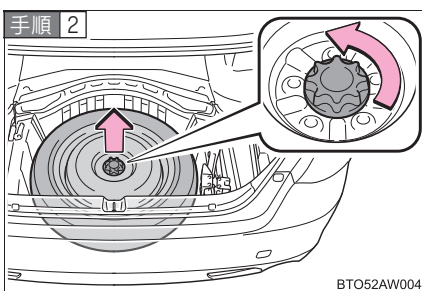
■ 工具・ジャッキ・応急用タイヤの位置



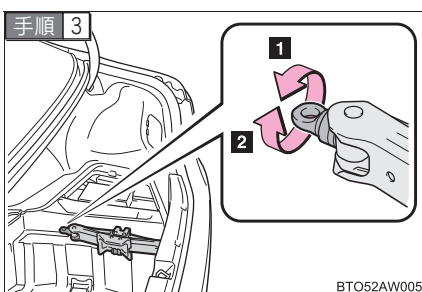
ジャッキと応急用タイヤの取り出しかた



ラゲージマットを取り出し、ラゲージアンダートレイを取りはずす



応急用タイヤを取りはずす
止め具を取りはずし、タイヤを取り出す。



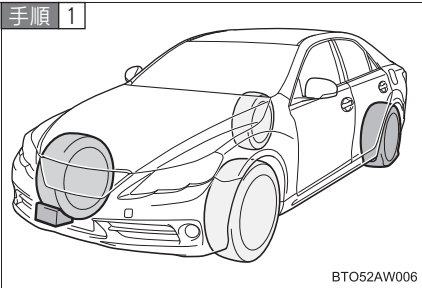
ジャッキを取り出す

- 1 締める
- 2 ゆるめる

格納するときはジャッキと固定具がかみあうよう確実に固定してください。

パンクしたタイヤの交換

手順 1

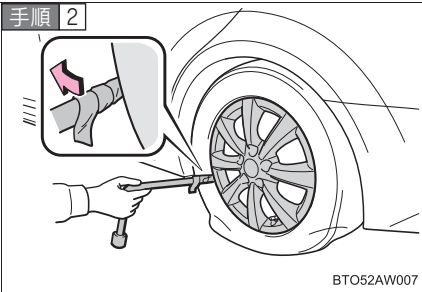


輪止め※をする

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

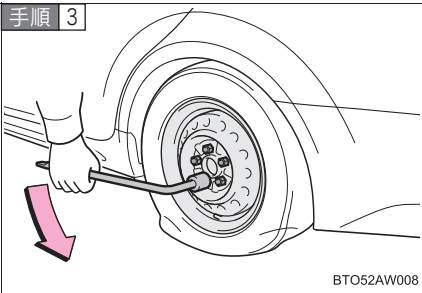
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

手順 2



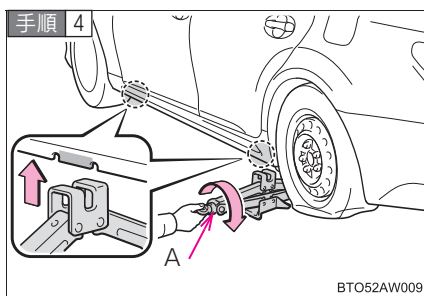
ホイールキャップ*をははず
(スチールホイールのみ)

手順 3

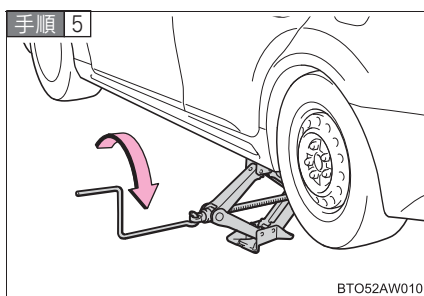


ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる

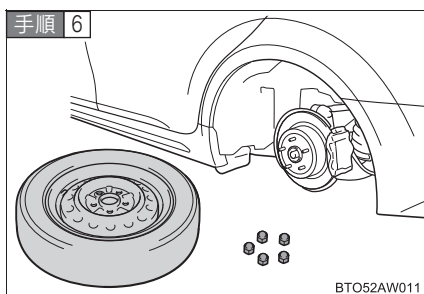
* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

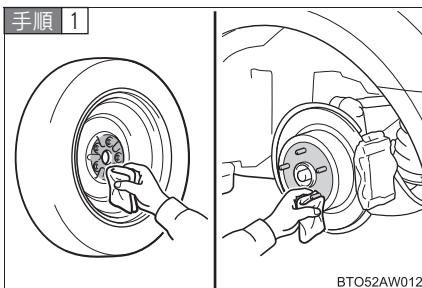


ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にする

タイヤの取り付け

手順 1

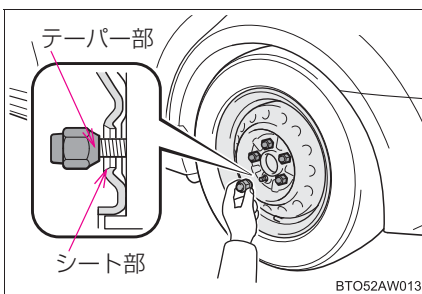


ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

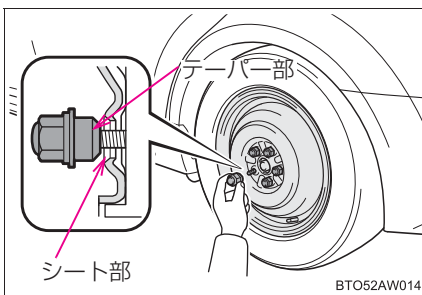
手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

スチールホイールからスチールホイールにかえるとき (応急用タイヤを含む)



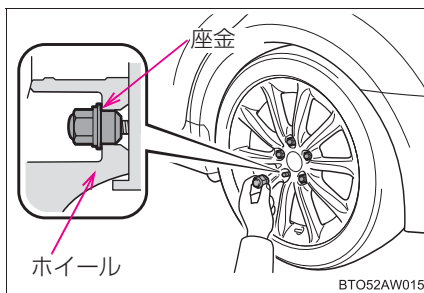
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

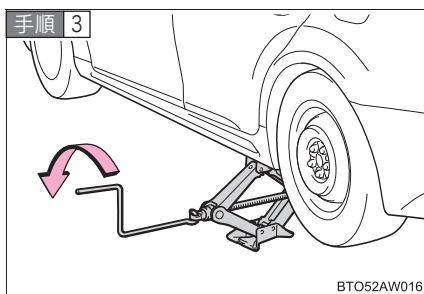


ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

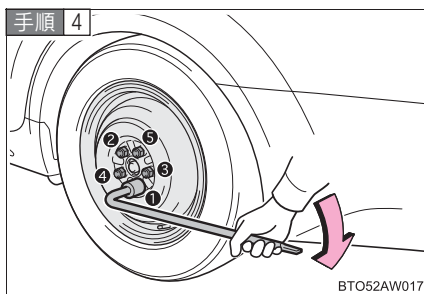
アルミホイールからアルミホイールにかえるとき



ナットの座金がホイールにあたるまでまわす



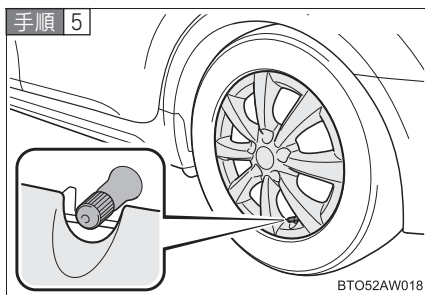
車体を下げる



図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)



ホイールキャップ*を取り付ける
※

タイヤのバルブ（空気口）に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付けます。

※ スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。（→P. 415）

■ 雪道・凍結路で後輪がパンクしたときは

手順 1 前輪を応急タイヤと交換する

手順 2 パンクした後輪をはずした前輪と交換する

手順 3 タイヤチェーンを後輪に装着する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

 警告**■ ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使わない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐりこんで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに 103 N・m (1050 kgf・cm) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける (→P. 302)

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください

■ 応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。



警告

■ 応急用タイヤ装着中は

- 正確な車両速度が検出できない場合があります、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| ・ ABS & ブレーキアシスト | ・ ナビゲーションシステム* |
| ・ VSC | ・ レーダクルーズコントロール* |
| ・ EPS | ・ クリアランスソナー* |
| ・ AVS * | ・ PCS * |
| ・ AFS * | ・ NAVI・AI-SHIFT * |
| ・ VDIM * | ・ サイドモニター* |
| ・ TRC | ・ バックガイドモニター* |
| ・ インテリジェントパーキングアシストシステム* | |
| ・ クルーズコントロール* | |

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- 4WD システム*



注意

■ パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、スペアタイヤが搭載されていません。

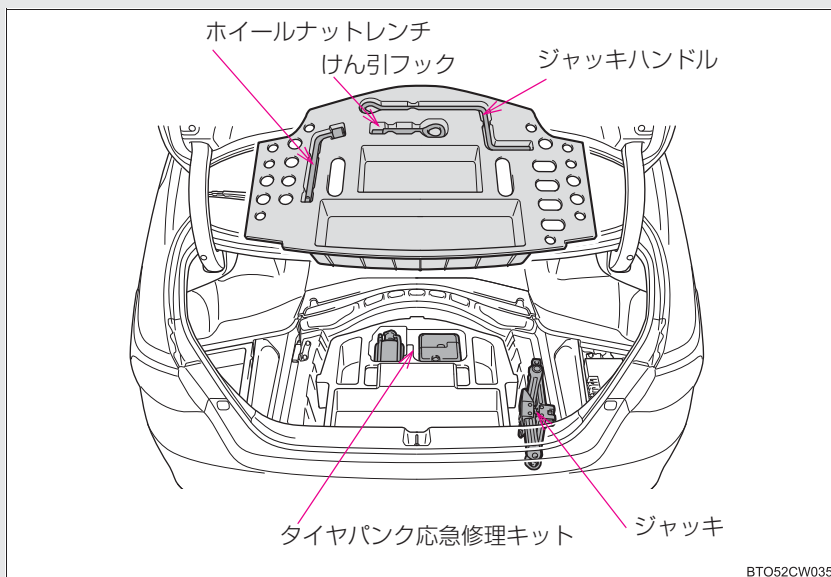
タイヤがパンクしたときにタイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です。）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P. 379）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。タイヤパンク応急修理キットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

■ 応急修理する前に

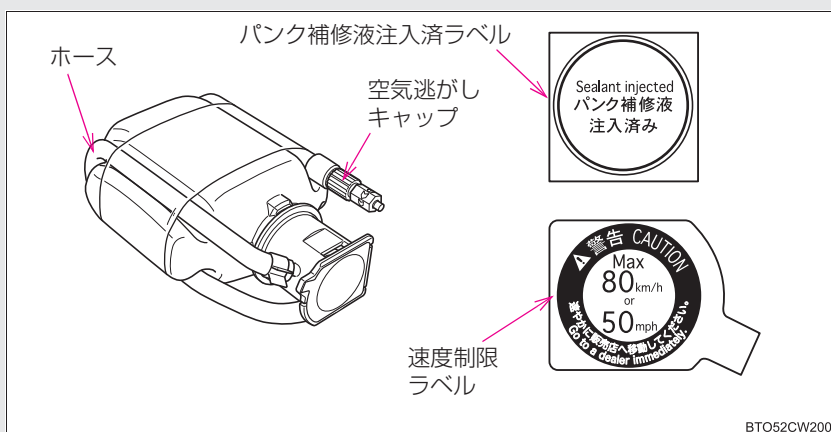
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをしっかりとかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ タイヤパンク応急修理キット・工具・ジャッキの位置

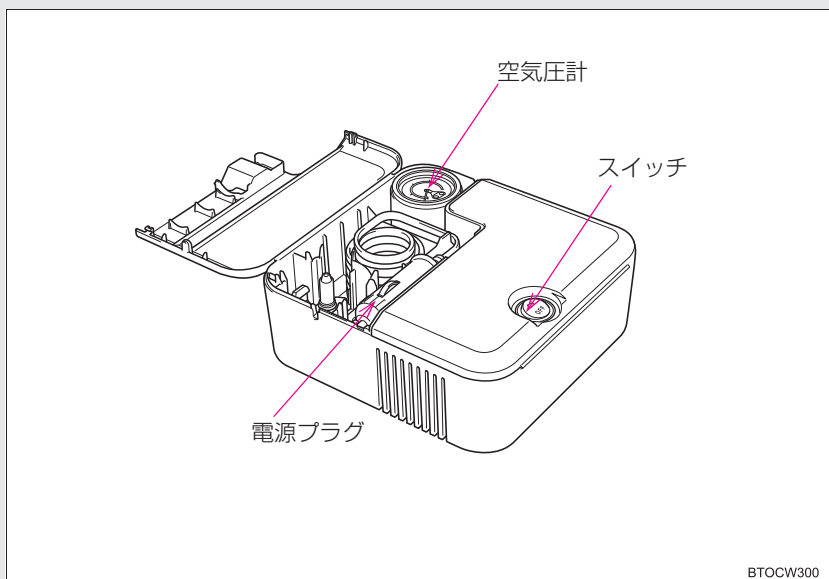


※：ジャッキの使い方（→P. 368）

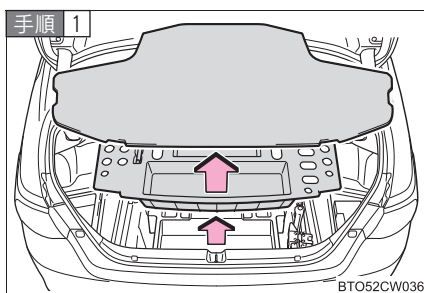
■ タイヤパンク応急修理キットの内容、各部名称 ボトル



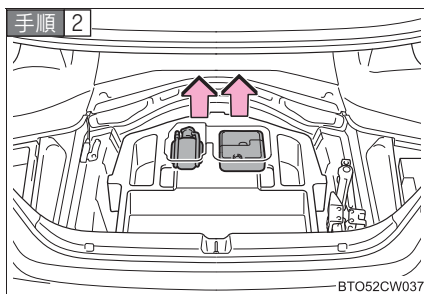
コンプレッサー



タイヤパンク応急修理キットの取り出し方



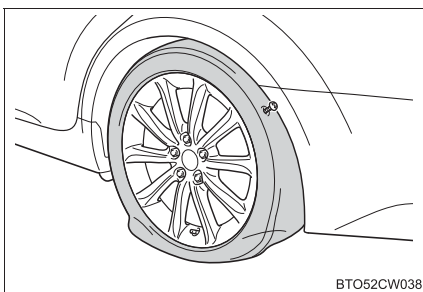
ラゲージマットを取り出し、ラゲージアンダートレイを取りはずす



タイヤパンク応急修理キットを取り出す

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。



釘やネジなどが刺さった場合のみ
タイヤを応急修理してください。

- ・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ応急修理が出来なくなることがあります。
- ・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

 注意

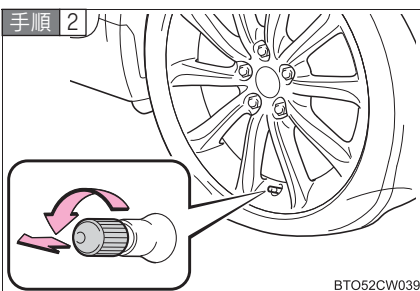
■ 応急修理キットによる応急処置が不可能な場合

次のときは、応急修理キットでは応急処置できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2ヶ所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- 補修液の有効期限が切れているとき

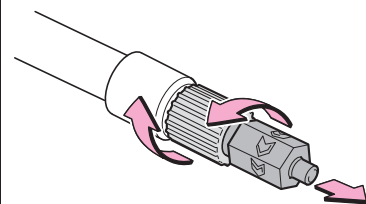
応急修理するときは

手順 1 応急修理キットをビニール袋から取り出す



パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

手順 3



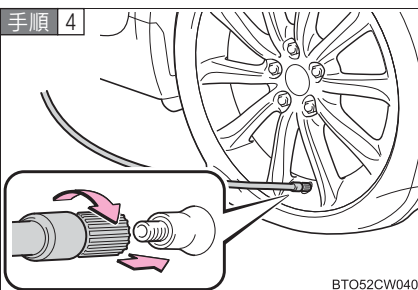
BTO72CP061

ボトルの保護フィルムをはがし、
ホースをのばす

ボトルのホースから空気逃がし
キャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用する
ため、なくさないように保管してくだ
さい。

手順 4

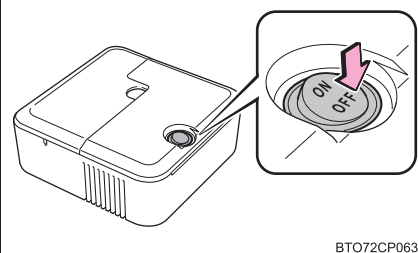


BTO52CW040

ボトルのホースをパンクしたタイ
ヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわして
しっかりと最後までねじ込む。

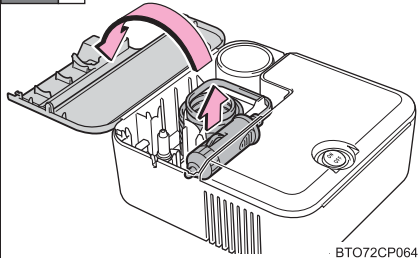
手順 5



BTO72CP063

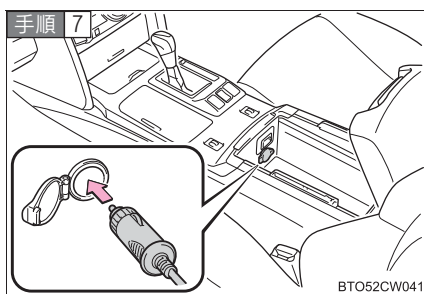
コンプレッサーのスイッチが
OFF であることを確認する

手順 6

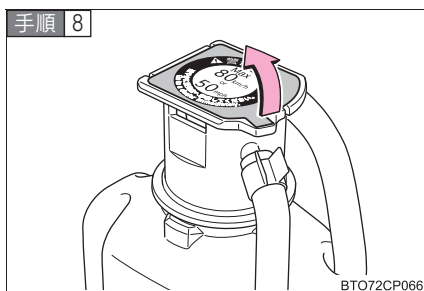


BTO72CP064

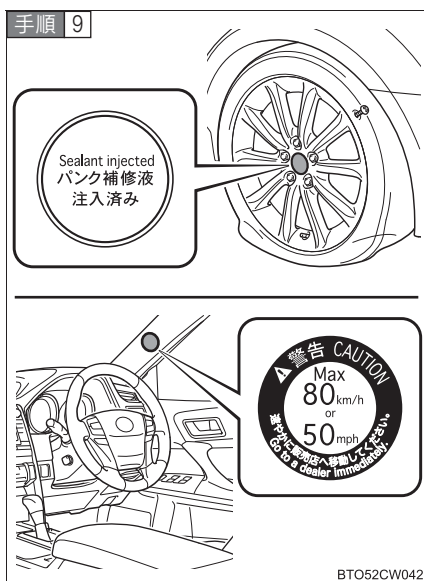
フタを開けてコンプレッサーの電
源プラグを取り出す



コンプレッサーの電源プラグをアクセサリースOCKETに挿し込む
(→P. 280)

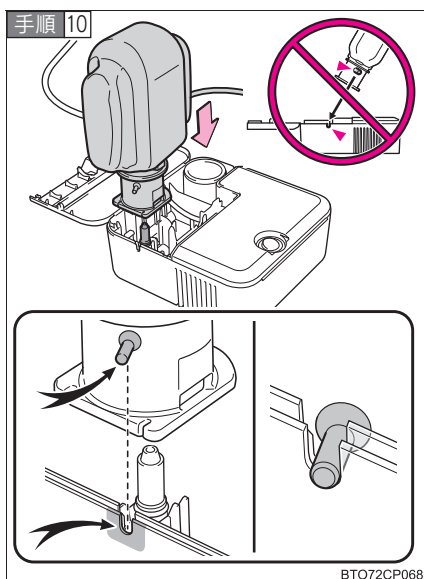


速度制限ラベルをはがす



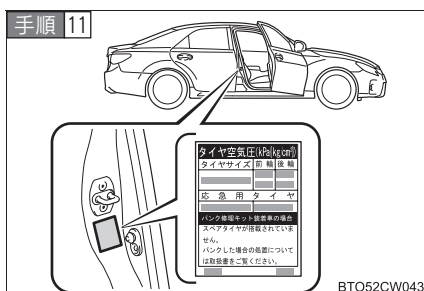
付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、トヨタ販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済であることを必ずお伝えください。



ボトルをコンプレッサーに接続する

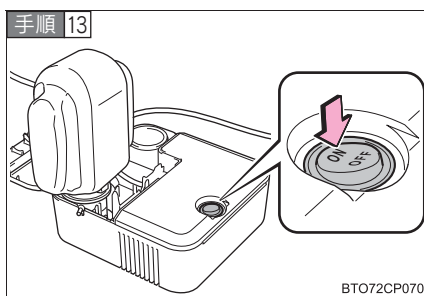
左図のように、ボトルをまっすぐにコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルの突起がケースの溝にしっかりと合っているか確認してください。



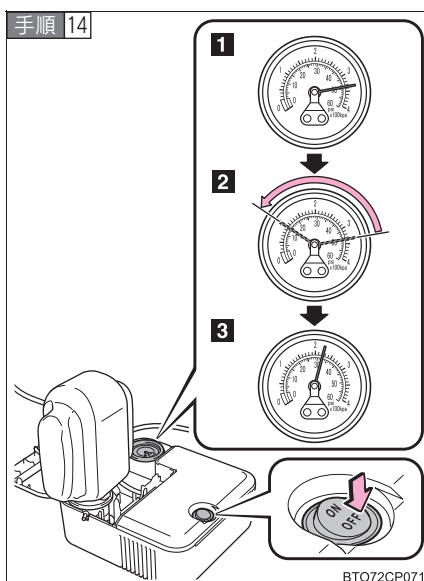
タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 300)

手順 12 エンジンを始動する



コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

- 1** スイッチ ON 直後は、パンク補修液を注入するため、一時的に空気圧が上昇する
- 2** 1 分程度（低温の場合は 5 分程度）で実際の空気圧表示になる
- 3** 指定空気圧になるまで充填する

空気圧はコンプレッサーのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

35 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

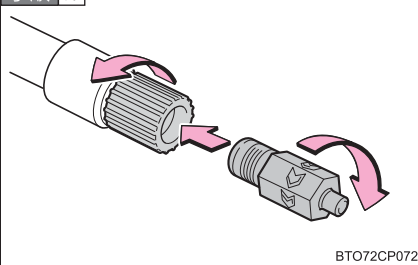
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→P. 300、415)

手順 15 コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリソケットから電源プラグを抜く。バルブからボトルのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

手順 16 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

手順 17



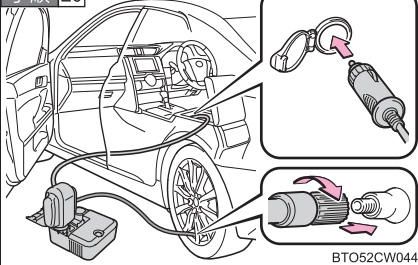
ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車や衣服などが汚れる可能性があります。

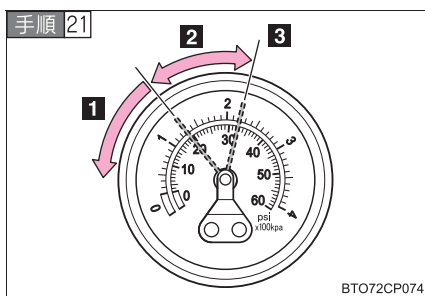
手順 18 いったんボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

手順 19 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

手順 20



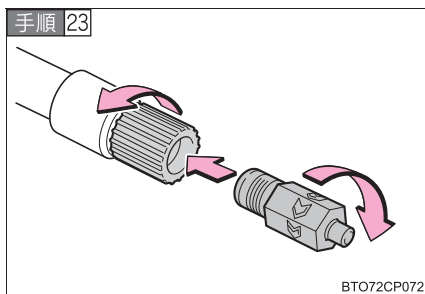
走行後、ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、再度応急修理キットを接続する



コンプレッサーのスイッチを約 5 秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する

- 1 空気圧が 130kpa 未満の場合：
応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。
- 2 空気圧が 130kpa 以上、指定空気圧未満の場合：[手順 22]へ
- 3 空気圧が指定空気圧（→P. 300、415）の場合：[手順 23]へ

手順 22 コンプレッサーのスイッチをONにして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて[手順 20]から実施する



ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車や衣服などが汚れる可能性があります。

手順 24 ボトルとコンプレッサーを接続したままトランクに収納する

手順 25 急ブレーキ・急加速・急ハンドルを避け、慎重に 80km/h 以下で運転してトヨタ販売店へ行きます

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

知識

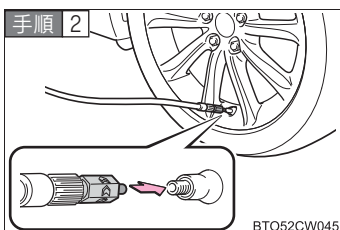
■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れる前に新しいボトルに交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

- パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 外気温度が -30℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからボトルのホースを取りはずす



ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

手順 3 ボトルのホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

手順 4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧を確認する
指定空気圧より低いときは、再度コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のタイヤのバルブについて

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はボトルに表示されています。

 警告

■ **タイヤがパンクしているときは**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤ・ホイールが損傷して修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■ **応急修理キットについて**

- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。

急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ **パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 警告**■パンクしたタイヤを応急修理するときは**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため
手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとボトルのホースをしっかりと接続
してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液
が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にボトルのホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変
危険です。
- 空気充填後はボトルのホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補
修液が飛散する場合があります。
- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてく
ださい。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーの
スイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。
40 分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取
り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は
特に熱くなるのでふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分
などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグ
が正常に作動しなくなるおそれがあります。

警告

■ 補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 再度空気圧を測ってください。130 kpa 未満の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■ 応急修理するときは

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットには防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因となるおそれがあります。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。ほかの電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットはビニール袋に入れて砂埃や水を避けて収納してください。
- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

分解、改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因となるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 131、134）に従っても、またステアリングロックを解除（→P. 132、137）してもエンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 131、134）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→P. 92）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 397）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 392）

緊急時のエンジン始動（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキをかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーを P の位置にあることを確認する

手順 3 “エンジン スタート ストップ” スイッチをアクセサリモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒以上 “エンジン スタート ストップ” スイッチを押し続ける

上記の手順に従いエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

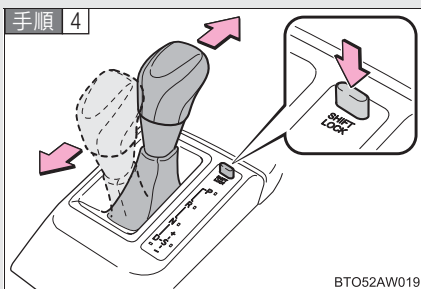
エンジン スイッチを “ ACC ” にする

スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

手順 4



シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押している間はレバーを
シフトできます。

BTO52AW019

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

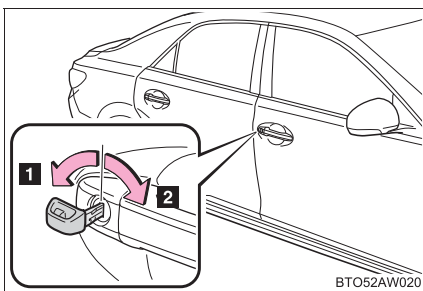
(→P. 24)

5-2. 緊急時の対処法

電子キーが正常に働かないときは（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 32）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠



メカニカルキー（→P. 25）を使って操作する

1 全ドア解錠

2 全ドア施錠

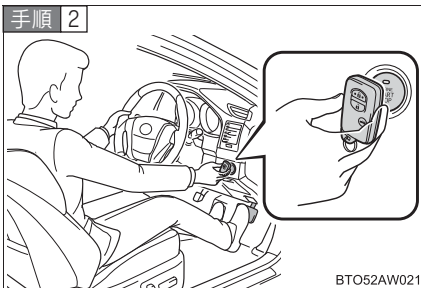
メカニカルキーでドアガラス・ムーンルーフ*の開閉を行うことができます。詳しくは販売店にご相談ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキを踏む

手順 2



電子キーのトヨタエンブレム面で“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

手順 3 ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す
処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■ エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして“エンジン スタート ストップ”スイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 330)

■ “エンジン スタート ストップ”スイッチのモードの切りかえ

ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して“エンジン スタート ストップ”スイッチを押すとエンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 135)

バッテリーがあがったときは

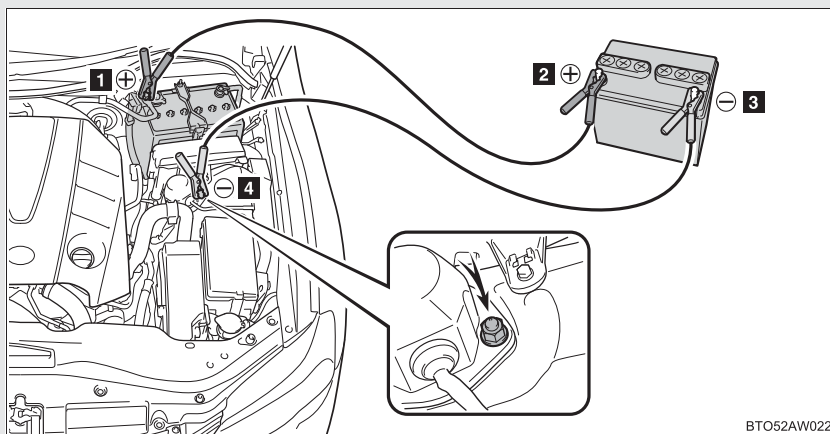
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリーつき救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

手順 1 ボンネットを開ける (→P. 304)

手順 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

- 1** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
- 2** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
- 3** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
- 4** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部 (図に示すような固定された部分) につなぐ



手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 4 “エンジン スタート ストップ” スイッチが OFF の状態で、いずれかのドアを開閉する（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

手順 5

スマートエントリー&スタートシステム非装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジン スイッチをいったん “ON” にしてから、自車のエンジンをかける

スマートエントリー&スタートシステム装着車

救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジン スタート ストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから、自車のエンジンをかける

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの + 端子のカバーをもとにもどしてください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

 知識**■ バッテリーがあがったときは**

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

**■ バッテリーがあがったときの留意事項
(スマートエントリー&スタートシステム装着車)**

- バッテリーがあがった直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に動作しますので、問題ではありません。
- 車両は常に“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、車両はバッテリーがあがる前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにしてから行ってください。
バッテリーあがり前の“エンジン スタート ストップ”スイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触しない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上に、顔や頭などをバッテリーに近付けない。
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 注意**■ ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P. 150、152）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

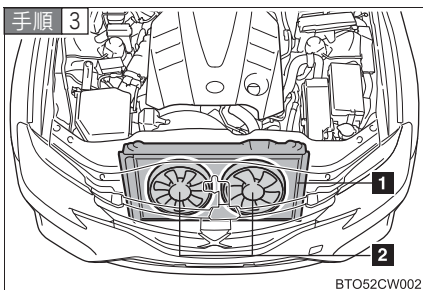
手順 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

手順 2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

注意してボンネットを開ける

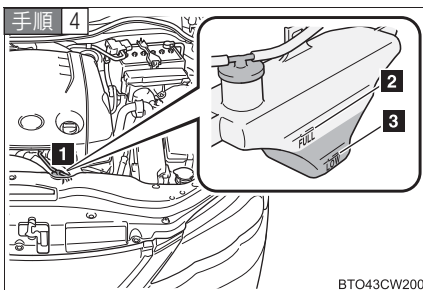


エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

1 ラジエーター

2 ファン

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

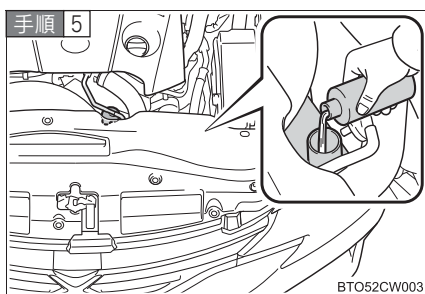


冷却水の量がリザーバータンクの”FULL”（上限）と”LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

1 リザーバータンク

2 ”FULL”（上限）

3 ”LOW”（下限）



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

手順 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

手順 7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。ボンネットやエンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ボンネット（→P. 304）、エンジンルームカバー（→P. 310）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ 冷却水を入れるときの注意**

冷却水は、エンジンが十分に冷えてからゆっくりと入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

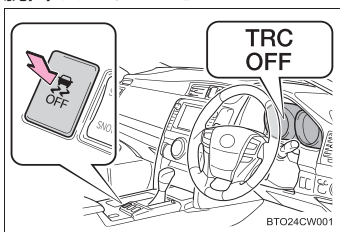
スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

- 【手順 1】 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する
- 【手順 2】 後輪周辺の前後の土や雪を取り除く
- 【手順 3】 後輪の下に木や石をあてがう
- 【手順 4】 エンジンを再始動する
- 【手順 5】 シフトレバーを D または R に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

知識

■ 脱出しにくいときは



 を押して TRC を OFF にしてください。

警告

■ 脱出するときの警告

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**注意****■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる

シフトレバーが N に入った場合

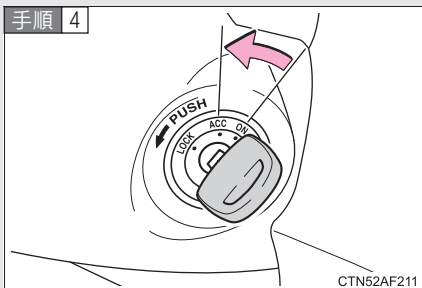
手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

手順 4 エンジンを停止する

シフトレバーが N に入らない場合

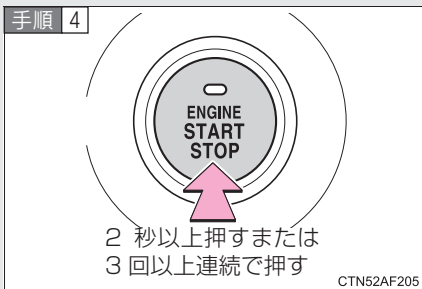
手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

手順 4



スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する

手順 4



スマートエントリー&スタートシステム装着車：“エンジンスタートストップ”スイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してエンジンを停止する

手順 5 車を安全な道路脇に停める

**警告****■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するときは**

- ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー&スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両の仕様

6

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
（油脂類の容量と銘柄） 410

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 418

6-3 初期設定

初期設定が必要な項目 423

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	エンジン	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	4GR-FSE	71
無鉛プレミアムガソリン （無鉛ハイオク）	2GR-FSE	

エンジンオイル

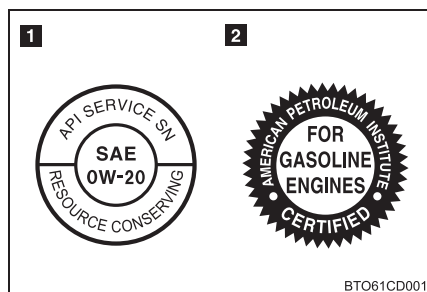
指定銘柄		容量 [L] (参考値※ ¹)	
		オイル のみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
トヨタキャッスルモーターオイル SN 0W-20 ※ ² —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20	FR	5.9	6.3
トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-20 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20			
トヨタキャッスルモーターオイル SN 5W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30			
トヨタキャッスルモーターオイル SN 10W-30 —API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30	4WD	6.0	6.4

※ 1：エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

※ 2：0W-20 は、新車時に充填されており、上記表の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。
 なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック
 サートیفिकーション）マークが付いています。

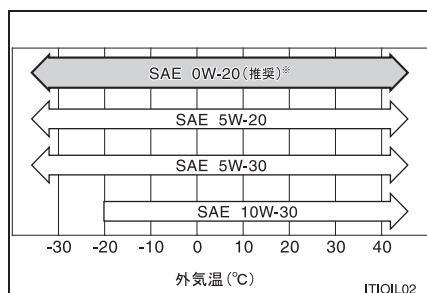


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATIONマーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記表の中では最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。
 粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度	2GR-FSE	9.2
濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	4GR-FSE	9.4

オートマチックトランスミッション

指定銘柄		エンジン	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正オートフルード WS	FR	2GR-FSE	7.9
		4GR-FSE	7.5
	4WD	4GR-FSE	9.4

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

ディファレンシャル

指定銘柄（推奨粘度）		容量 [L]（参考値）
フロント （4WD 車のみ）	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル S X (API GL-5、SAE 85W-90)	0.70
リヤ	トヨタ純正ハイポイドギヤオイル L T (API GL-5、SAE 75W-85)	2GR-FSE 1.35
		4GR-FSE 1.15

ブレーキ**■ ブレーキフルード**

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目		基準値 [mm]
遊び		1 ～ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	2GR-FSE	60 以上
	4GR-FSE	62 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 300N (30.6 kgf) のときのノッチ※数	7 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)	4.7
--------------	-----

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	215/60R16 95H	16 × 7J	250 (2.5)	
	235/45R18 94W	18 × 8J	240 (2.4)	
	235/40R19 92Y	19 × 8J	240 (2.4)	
応急用タイヤ	T155/70D17 110M	17 × 4T	420 (4.2)	

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ディスチャージヘッドランプ ロービーム／ハイビーム（バルブタイプ：D4S）	35
	車幅灯	LED＊
	フロントフォグランプ（バルブタイプ：H16）＊	19
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	LED＊
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯	LED＊
	尾灯	LED＊
	後退灯	16
	ハイマウントストップランプ	LED＊
	番号灯	5
	LED イルミネーションビーム＊	LED＊

＊ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	フロントパーソナルランプ	5
	ルームランプ	8
	フロントドアトリム照明*	LED *
	リヤドアトリム照明*	LED *
	トランクランプ	5
	フロント足元照明*	LED *
	ドアカーテシランプ*	5
	バニティランプ	8
	インパネ・シフト照明	LED *
	グローブボックスランプ	1.2

* LED は、Light Emitting Diodes (発光ダイオード) の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
GRX130	4GR-FSE (2.5L ガソリン)	FR (後輪駆動)
GRX135		4WD (4 輪駆動)
GRX133	2GR-FSE (3.5L ガソリン)	FR (後輪駆動)

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 27)	スマートエントリー&スタートシステム	する	しない
	解錠ドアの選択	全席	運転席
ワイヤレスドアロック (→P. 38)	ワイヤレス機能	する	しない
	解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドアのみ解錠、連続 2 回で全ドア解錠
	ワイヤレスリモコンのトランクスイッチを押しての解錠操作	1 回長押し	1 回短押し
			2 回押し
			1 回長押し (初期設定よりも長め)
			なし
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 27) とワイヤレスドアロック (→P. 38) 共通	作動の合図 (ブザー音量調整)	7	6 ~ 1
			OFF
	作動の合図 (非常点滅灯)	する	しない
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	半ドア警告ブザー	する	しない

項目	機能の内容	初期設定	変更後
ドアロック (→P. 41)	車速感応式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり
	メカニカルキーによる解錠 (スマートエントリー&スタートシステム装着車)	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠
	ドアキーによる解錠 (スマートエントリー&スタートシステム非装着車)		
パワーウィンドウ (→P. 80)	ドアキー連動開閉機能	なし	あり
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり
ムーンルーフ (→P. 84)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
			閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時の作動	開閉作動	開作動のみ
			閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動作動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
ランプ自動点灯・消灯システム (→P. 167)	ライトセンサーの感度調整	レベル 3	レベル 1 ~ 5
	ランプを点灯するまでの時間	標準	長め

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 265)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
			OFF
	“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ OFF 後の作動 (スマート エントリー&スタートシステム装着車)	あり	なし
	エンジン スイッチ “LOCK ” 後の作動 (スマートエントリー &スタートシステム非装着車)		
	解錠時の作動	あり	なし
	足元照明の点灯	あり	なし
	接近時のルームランプの点灯	あり	なし
エアコン (→P. 230)	AUTO スイッチを ON にしたとき、 A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる	する	しない
クリアランス ソナー (→P. 202)	バックソナーの検知開始距離	約 150 cm	約 60 cm
	ブザー音量	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	画面表示	する	しない
その他	周囲の明るさにより、メーター などの照度を自動減光するための センサーの感度調節	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	周囲の明るさにより、減光した メーターなどの照度をもとにも どすためのセンサーの感度調節	レベル 3	レベル 1 ～ 5
	リヤサンシェードリバース連動 機能	あり	なし
	降車時運転席シート移動量調節	標準	OFF
			少なめ

 知識

■ 車両カスタマイズについて

ムーンルーフの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」は、それぞれ、パワーウインドウの「ドアキー連動開閉機能」・「ワイヤレスリモコン連動開閉機能」と併せて「あり」に設定しないと作動しません。

ムーンルーフの連動開閉機能は、ムーンルーフのみ作動させない場合に設定を変更してください。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく動かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照先
バックガイドモニター*	・バッテリーの充電、 交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	別冊「ナビゲーション システム取扱書」
インテリジェント パーキングアシスト*		
サイドモニター*		

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

さくいん

略語一覧..... 426

五十音順さくいん427

症状別さくいん435

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリ
AFS *	アダプティブフロントライティングシステム
ASL *	オートマチックサウンドレベライザー
AVS *	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
DISP *	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS *	ブリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM *	ビークルダイナミクスインテグレートッドマネージメント
VGRS *	バリアブルギアレシオステアリング
VSC	ビークルスタビリティコントロール

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

五十音順さくいん

五十音順さくいん

あ	アームレスト	283
	アクセサリーソケット	280
	アクティブヘッドレスト	53
	アシストグリップ	290
	アダプティブフロントライティング システム (AFS)	168
	アンチロックブレーキシステム (ABS)	206

い	イベントデータレコーダー (EDR)	349
	イルミネーテッドエントリー システム	266
	インナーミラー	74

う	ウインカー	
	W 数	416
	スイッチ	146
	電球の交換	313, 316
	ウインドウ	
	ウォッシャー	172
	パワーウインドウ	80
	リヤウインドウ デフォッガー	239
	ウインドウロックスイッチ	80
	ウォーニングランプ	351
	ウォッシャー	
	液の補給	334
	スイッチ	171
	タンク容量	415
	冬の前の準備・点検	224
	運転	
	寒冷時の運転	224
	正しい姿勢	94
	手順	122
	運転席小物入れ	274
	運転席シートベルト非着用警告灯 ...	354

え	エアコン	
	オートエアコン	230
	フィルターの交換	336
	エアバッグ	
	SRS エアバッグ	96
	一般的な警告	101
	お子さまのための注意	101
	カーテンシールドエアバッグに 関する警告	102
	カーテンシールドエアバッグの 作動条件	97
	改造・分解	104
	警告灯	352
	サイドエアバッグに 関する警告	103
	サイドエアバッグの 作動条件	97
	作動条件	97
	正しい姿勢	94
	配置	96
	AUX 端子	263
	エコドライブインジケーター	124, 162
	エレクトリックパワー ステアリング	206
	エンジン	
	イグニッション スイッチ	131, 134
	エンジン回転計 (タコメーター)	149, 151
	エンジンがかからない	391
	エンジン警告灯	352
	エンジンスイッチ	131, 134
	エンジンルームカバー	310
	オーバーヒート	401
	かけ方	131, 134
	ボンネット	304

エンジンイモビライザー	
システム	92
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	224
容量	411

お 応急用タイヤ

空気圧	415
応急用タイヤ	366

オーディオ

CD プレーヤー	246
MP3/WMA ディスク	251
ステアリングスイッチ	260
調整	258
ラジオ	244

オートエアコン..... 230

オートシートスライドアウェイ& リターン機能	69
---------------------------------	----

オートチルトアウェイ& リターン機能	69
-----------------------------	----

オートマチックトランスミッション (A/T)

S モード	142
オートマチックトランス ミッション	139
シフトレバーが シフトできない	393

オーバーヒート (エンジン) 401

オーバーヘッドコンソール 274

オープナー

給油口	88
トランク	47
ボンネット	304

お子さまの安全のために

ウインドウロックスイッチ	80
エアバッグに関する警告	101

お子さまのシートベルト

着用	64
シートベルトに関する警告	65
チャイルドシート	105
チャイルドシートの固定	114
チャイルドプロテクター	42
電子キーの電池に関する	

警告	333
バッテリーに関する警告	400

ムーンルーフに

開する警告	87
-------------	----

パワーウインドウに

開する警告	83
-------------	----

オドメーター 149,151

か

カーテンシールドエアバッグ 96

外気温表示 161,165

外部入力接続端子 263

カスタマイズ機能 418

ガソリンスタンドでの情報 440

カップホルダー 272

ガレージジャッキ 307

き

キー

イグニッションスイッチ	131,134
----------------------	---------

エンジンスイッチ 131,134

キー 24

キーナンバー 24

キーレスエントリー

(ワイヤレスドアロック) 38

キーを無くした 394

電子キー 24

電子キーの電池が切れた 395

メカニカルキー 25

給油口 88

緊急時の対処

エンジンがかからない.....	391
オーバーヒートした	401
キーを無くした	394
警告灯がついた	351
警告メッセージが	
表示された	355
けん引.....	344
故障したときは	340
シフトレバーが	
シフトできない	393
車両を緊急停止する	406
スタックした	404
電子キーの電池が切れた.....	395
発炎筒.....	342
バッテリーがあがった.....	397
パンクした	366, 376

< 空気圧 (タイヤ).....	415
区間距離計	149,151
クリアランスソナー	197
クルーズコントロール	179
グローブボックス	269

け 計器

メーター	149,151
メーター明るさ調整	154
警告灯	
PCS 警告灯	352
SRS エアバッグ	352
アンチロックブレーキ	
システム (ABS)	352
エンジン	352
シートベルト非着用	354
充電	351
ディスチャージヘッド	
ランプオートレベリング	352

パワーステアリング	352
半ドア	354
プリテンショナー	352
ブレーキ	351
ブレーキアシスト	352
マスターウォーニング	354
燃料残量	354
油圧	351
油量警告灯	353

警告表示

4WD	356
エンジンオイル圧力	355
エンジンオイル不足	358
クリアランスソナー	357, 360
クルーズコントロール	357
ステアリングロック	356
スマートエントリー&	
スタートシステム	361
ドア	358
ナビ・ブレーキアシスト	357
パーキングブレーキ	358
バリアブルギヤレシオ	
ステアリング (VGRS)	357
ブリクラッシュセーフティ	
システム	356, 359, 360
ムーンルーフ	358
レーダークルーズコントロール	
.....	356, 359, 360

警告ブザー

シートベルト非着用	354
スマートエントリー&	
スタートシステム	361
パーキングブレーキ	351
化粧用 (バニティ) ミラー	278
けん引.....	344

こ

交換

タイヤ	366
電球	312
電子キーの電池	330
ヒューズ	322
工具	366, 377
後退灯	
W 数	416
電球の交換	317
子供専用シート	105
小物入れ	273
コンソールボックス	270
コンライト	
(自動点灯・消灯装置)	167

さ

サイドエアバッグ	96
サンシェード	
リヤ	284
ムーンルーフ	85
サンバイザー	277

し

シート

正しい姿勢	94
シートヒーター	281
チャイルドシートの固定	114
調整	51
調整に関する警告	53
手入れ	296
ヘッドレスト	58
シートヒーター	281

シートベルト

お子さまの着用	64
シートベルト警告灯	354
シートベルト	
プリテンショナー	63
清掃・手入れ	297
正しい着用	60
チャイルドシートの固定	114
調整	63
妊娠中のかたの着用	66
室内灯 (ルームランプ)	
W 数	417
スイッチ	266
シフトレバー	
オートマチックトランス	
ミッション	139
シフトレバーが	
シフトできない	393
シフトロックシステム	393
ジャッキ	
ガレージジャッキ	307
車載ジャッキ	366, 377
ジャッキハンドル	366, 377
車幅灯	
W 数	416
ランプスイッチ	167
車両型式	417
車両仕様 (スペック)	410
収納装備	268
助手席シートベルト	
非着用警告灯	354

す 水温計 150,152

スイッチ

AFS OFF スイッチ 168

VSC OFF スイッチ 208

ウインドウロックスイッチ 80

エンジンスイッチ 131,134

クリアランスソナースイッチ 197

ドアロックスイッチ 41

ハザードランプスイッチ 341

パワーウインドウスイッチ 80

非常点滅灯スイッチ 341

フォグランプスイッチ 170

プリクラッシュブレーキ

OFF スイッチ 216

ランプスイッチ 167

ワイパー&ウォッシャー

スイッチ 171

スタック

スタックした 404

ステアリングホイール

調整 68

スピードメーター 149,152

スペック (車両仕様) 417

スマートエントリー&

スタートシステム

エンジンの始動 134

ドアの解錠・施錠 28

トランクを開ける 29

せ 清掃

外装 292

シートベルト 297

内装 296

積算距離計 149,151

洗車 292

前照灯

W 数 416

スイッチ 167

ディスチャージヘッドランプに
関する警告 321**そ** 速度計 149,152**た** タイヤ

空気圧 415

交換 366

応急用タイヤ 366

チェーン 224

点検 299

パンクした 366, 376

冬用タイヤ 224

ローテーション 299

タコメーター 149,151

ち チェーン (タイヤチェーン) 224

チャイルドシート

ISOFIX バーでの固定 116

シートベルトでの固定 115

チャイルドプロテクター 42

駐車ブレーキ

(パーキングブレーキ) 147

つ ツール 366, 376**て** ディスプレイ

警告メッセージ 355

手入れ

外装	292
シートベルト	297
内装	296

テールランプ

W 数	416
スイッチ	167

電球（バルブ）

W 数	416
交換	312

電子キー

電池が切れた	395
--------------	-----

と**ドア**

ドアガラス	80
ドアカーテシランプ	265
ドアミラー	76
ドアポケット	276
ドアロック	41

ドアガラス**ドアミラー**

調整	76
----------	----

盗難防止システム

エンジンイモビライザー システム	92
---------------------------	----

時計**ドライブモニター****トラクションコントロール****トランク****トリップメーター****に****荷物**

積むときの注意	222
---------------	-----

ね**燃料**

ガソリンスタンドでの情報	440
給油	88
種類	410
燃料計	149, 152
容量	410

は**パーキングブレーキ**

（駐車ブレーキ）	147
----------------	-----

パーソナルランプ

W 数	417
スイッチ	266

ハザード

スイッチ	341
------------	-----

発炎筒**バックアップランプ**

W 数	416
電球の交換	317

バッテリー

バッテリーがあがった	397
冬の前の準備点検	224

バニティ（化粧用）ミラー**バニティランプ**

W 数	417
バニティランプ	278

バルブ（電球）

W 数	416
交換	312

パワーイージー

アクセスシステム	70
----------------	----

パワーウインドウ**パンク**

パンクした	366, 376
番号灯	
W 数	416
電球の交換	318

ハンドル	
調整	68
ひ ビークルスタビリティ	
コントロール	207
PCS（プリクラッシュ	
セーフティーシステム）	215
非常点滅灯	
スイッチ	341
尾灯	
W 数	416
スイッチ	167
ヒューズ	322
表示灯	156
ヒルスタートアシスト	
コントロール	207
ふ VDIM	207
フォグランプ	
W 数	416
電球の交換	314
スイッチ	170
フック	
けん引フック	344
冬用タイヤ	224
プリクラッシュセーフティー	
システム（PCS）	215
ブレーキ	
パーキングブレーキ	147
ブレーキアシスト	206
フロアマット	287
フロント足元照明	265
フロントシート	
調整	51
フロントターンシグナルランプ	
W 数	416
電球の交換	313

レバー	146
フロントパーソナルランプ	266
フロントフォグランプ	
W 数	416
スイッチ	170
電球の交換	314
フロントウインドシールド	
デアイサー	241
へ ヘッドランプ	
W 数	416
スイッチ	167
ディスチャージヘッドランプに	
関する警告	321
ヘッドレスト	
調整	58
ほ ホーン	148
ホイール	299
方向指示灯	
W 数	416
スイッチ	146
電球の交換	313, 316
ボンネット	304
ま マルチインフォメーション	
ディスプレイ	163
み ミラー	
インナーミラー	74
ドアミラー	76
バニティ（化粧用）ミラー	278
む ムーンルーフ	84

め

メーター

メーター 149,151

メーター明るさ調整 154

メンテナンス

メンテナンスデータ 410

ら

ランプ

W 数 416

室内灯 265

電球の交換 312

パーソナルランプ 266

ハザードランプ 341

バニティランプ 278

非常点滅灯 341

フォグランプ 170

ヘッドランプ 167

方向指示灯 146

り

リヤアームレスト 283

リヤウインドウデフォグガー 239

リヤサンシェード 284

リヤターンシグナルランプ

W 数 416

電球の交換 316

レバー 146

る

ルームランプ

W 数 417

スイッチ 266

れ

冷却水

冬の前の準備・点検 224

容量 413

冷却装置

エンジンオーバーヒート 401

レーダークルーズコントロール.. 183

わ

ワイパー

スイッチ 171

ワイパーデアイサー 241

ワイヤレスドアロック

電池交換 330

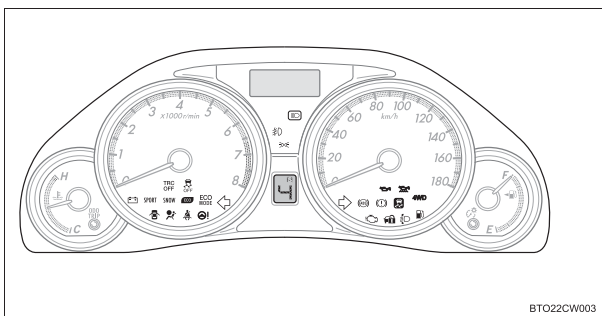
リモコン 38

症状別さくいん

症状別さくいん

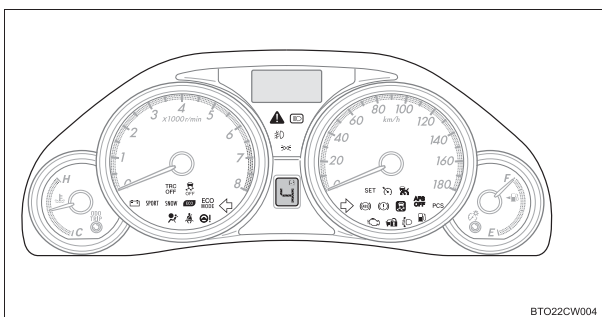
タイヤがパンクした	P. 366 P. 376	パンクしたときは
エンジンがかからない	P. 391 P. 92 P. 397	エンジンがかからないときは エンジンイモビライザーシステム バッテリーがあがったときは
シフトレバーが動かない	P. 393	シフトレバーがシフトできないときは
水温計の針が 赤いゾーンに入った	P. 401	オーバーヒートしたときは
エンジンルームから 蒸気が立ちのぼった		
キーを無くした	P. 394	キーを無くしたときは
バッテリーがあがった	P. 397	バッテリーがあがったときは
ドアが施錠できない	P. 27 P. 38 P. 41	ドア
ぬかるみや砂地などで 動けなくなった	P. 404	スタックしたときは
警告灯が点灯、点滅した	P. 351	警告灯がついたときは

常時発光式メーター



BTO22CW003

オプティロンメーター



BTO22CW004

警告灯一覧

	ブレーキ警告灯 P. 351		運転席シートベルト非着用警告灯 P. 354
	ABS& ブレーキアシスト警告灯 P. 352		助手席シートベルト非着用警告灯 P. 354
	PCS 警告灯 (点滅) P. 352		マスターウォーニング P. 354
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 P. 352		パワーステアリング警告灯 P. 352
	エンジン警告灯 P. 352		充電警告灯 P. 351

	燃料残量警告灯 P. 354		半ドア警告灯 P. 354
4WD	4WD 警告灯 P. 353		油圧警告灯 P. 351
	ディスチャージヘッドランプ オート レベリング警告灯 P. 352		油量警告灯 P. 352
	レーダークルーズコントロール 表示灯 (点滅) P. 353		クルーズコントロール表示灯 (点滅) P. 353
	スリップ表示灯 (点灯) P. 352	AFS OFF	AFS OFF 表示灯 (点滅) P. 353

警告メッセージが表示された

P. 355 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

- 警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイ*の警告メッセージを確認ください。
 - 警告灯が点灯、点滅している (→P. 351)
 - 警告メッセージが表示されている (→P. 355)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイ*に警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、次のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 31
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックセンサー部に触れたとき*	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 144
	シフトダウンしたとき	P. 144
	ブレーキを踏んだとき	P. 126

* : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

ガソリンスタンドでの情報

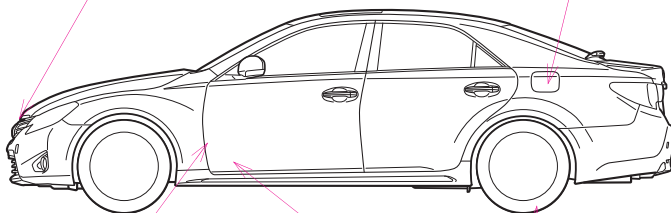
給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

ボンネットフック

P. 304

給油口

P. 88



ボンネットオープナー

P. 304

給油口オープナー

P. 88

タイヤ空気圧

P. 415

BT071CW001

燃料の容量 (参考値)	71L		
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン (4GR-FSE エンジン車) 無鉛プレミアムガソリン (2GR-FSE エンジン車) P. 89, 410		
タイヤが冷えている ときの空気圧	標準タイヤ		
		前輪	後輪
	215/60R16 95H	250 (2.5) kPa (kg/cm ²)	
	235/45R18 94W	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)	
	235/40R19 92Y	240 (2.4) kPa (kg/cm ²)	
	応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm ²)		
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 FR : 5.9L 4WD : 6.0 L オイルとフィルター交換時 FR : 6.3L 4WD : 6.4 L		
エンジンオイルの 種類	トヨタキャッスルモーターオイル ・ SN 0W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 0W-20) ・ SN 5W-20 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-20) ・ SN 5W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 5W-30) ・ SN 10W-30 (API SN, RC/ILSAC GF-5, SAE 10W-30)		

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター
全国共通・フリーコール

 **0800-700-7700**

オープン時間 365日 9:00～18:00

所在地 〒450 - 8711 名古屋市千川区名駅4丁目7番1号

「個人情報保護方針」については、
<http://www.toyota.co.jp/>にて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
<http://toyota.jp>



M 22523

01999-22523

NAB-2013年 9 月13日

2012年 8 月27日 初版

2013年 9 月20日 5 版

マーク X